

東北大学
高度教養教育・学生支援機構
要覧 2015

東北大学高度教養教育・学生支援機構要覧2015

目 次

I 高度教養教育・学生支援機構について

1. 高度教養教育・学生支援機構長挨拶	1
2. 高度教養教育・学生支援機構ビジョン	2
3. 高度教養教育・学生支援機構の沿革	4
4. 高度教養教育・学生支援機構の組織	
(1) 組織構成図	5
(2) 運営部門	6

II 機構各組織の事業内容及び活動状況

1. 部門・院	
(1) 高等教育開発部門	7
(2) 教育内容開発部門	7
(3) 学生支援開発部門	9
(4) 教養教育院	9
2. 業務センター	
(1) 教育評価分析センター	11
(2) 大学教育支援センター	12
(3) 入試センター	13
(4) 言語・文化教育センター	15
(5) グローバルラーニングセンター	17
(6) 学際融合教育推進センター	19
(7) 学習支援センター	20
(8) キャリア支援センター	22
(9) 学生相談・特別支援センター	24
(10) 保健管理センター	26
(11) 課外・ボランティア活動支援センター	28

III 平成 27 年度の機構全体の活動

1. 機構主催のシンポジウム・研究会・セミナー等	31
2. 刊行物一覧	36
3. 教員の活動	37

IV 資料編

1. 統計データ	87
2. 財政	94
3. 外部資金獲得状況	95
4. 共同研究員受入状況	95
5. 規程類	
(1) 東北大学高度教養教育・学生支援機構規程	96
(2) 東北大学高度教養教育・学生支援機構業務センター内規	97
(3) 東北大学高度教養教育・学生支援機構教授会議内規	99
(4) 東北大学高度教養教育・学生支援機構運営会議内規	100
(5) 東北大学高度教養教育・学生支援機構高度教養教育諮問会議内規	100
(6) 高度教養教育・学生支援機構専門研究員内規	101
(7) 高度教養教育・学生支援機構共同研究員内規	102

I 高度教養教育・学生支援機構について

1. 高度教養教育・学生支援機構長挨拶

「東北大学高度教養教育・学生支援機構要覧 2015」をお届けします。

本学は、2014 年 4 月、高等教育開発推進センター、国際交流センター、国際教育院、グローバルラーニングセンター、教養教育院、高度イノベーション博士人財育成センターを統合し、本高度教養教育・学生支援機構を設置しました。本学は本機構を、高度教養教育・学生支援に関する調査研究、開発、企画、提言、および実施を一体的に行い、本学の教育の質的向上に寄与するための学内共同教育研究施設と位置づけて、国内外を見ても他に例のない革新的でチャレンジングな組織として設計し創設しております。

本機構は、高大接続と入試、全学教育の開発と推進、高等教育国際化の推進、学生相談と学生支援、保健管理と健康指導、高等教育の研究と開発を行い、これらの成果を評価分析し、質的向上を図る各種の専門性開発活動を行う総合的な役割を果たすことがミッションです。また、高等教育推進の高いポテンシャルを有した組織とプログラムを統合し、新たな高等教育のモデル構築も目指しています。さらに、高等教育のモデル構築の核心は、卓越性と多様性の追求であり、教育における卓越性の柱として、高度教養教育の開発と提供、多様性の柱として多様な学生のニーズに応える学生支援の開発と実施も行うこととしています。

本要覧は、第Ⅰ部から第Ⅳ部の 4 部構成です。第Ⅰ部では、機構のビジョン、沿革、組織体制について記します。第Ⅱ部では、本機構は教員組織（3 部門 9 室、1 院）と 11 の業務センターのマトリクス構造をもつユニークな組織体制ですが、それぞれのミッション（使命）と事業内容や活動状況を記します。第Ⅲ部では、2015 年度の機構全体の活動状況を示します。ここには、所属教員個々人の活動状況が記されています。第Ⅳ部は資料編で、統計的な資料、および本機構の規程類をまとめて示しました。

2015 年度は本機構が創設されて 2 年目で、いまだ多くの点で試行錯誤が続いております。構成員は手探り状態で歩んでいると言っても過言ではありません。その足跡を、このような形で記録に留めることで、今後の本機構の運営の礎にし、一層充実した活動を目指したいと考えています。

本要覧が、学内の方々はもちろんのこと、学外の方々にとって何がしかの参考になれば幸いです。さらには、本機構構成員のますますの活性化につなげるためにも、本要覧をご覧になられた皆様方からのご批判やご意見を賜ればと願っております。

平成 28 年 9 月

高度教養教育・学生支援機構長 花 輪 公 雄

2. 高度教養教育・学生支援機構ビジョン

【部局のミッション（基本理念・使命）】

- 高度教養教育・学生支援機構は、高度教養教育および学生支援に関する調査研究、企画および提言、並びにそれらの方法の開発および実施を関係部局との連携の下に一体的に行うことにより、東北大学の教育力を高め、世界をリードする研究を遂行しグローバル時代を切り開く指導的人材の育成に貢献することを使命としています。

【機能強化に向けた取組方針（～2017年度）】

- 私たちは、基本理念を更に発展させるため、機構教職員の協力・連携を強め、高大接続からキャリア支援に至る学生の修学・自己開発・進路選択のプロセスを一貫して支援するというコンセプトの下に、研究開発と実践を進めます。
- 私たちは、知識基盤社会に対応して世界をリードする教養教育のビジョンを打ち出し、基礎教養教育から専門教育・高度教養教育へと至る教育の体系化を進め、学部・研究科・研究所および教育研究支援組織と協力して、その実現に貢献します。
- 私たちは、留学生の戦略的受入れと海外研鑽プログラムの充実等に努め東北大学のグローバルな修学環境の整備・充実に中心的な役割を果たします。
- 私たちは、教育から学習へという大きな大学教育観の転換を踏まえ、高大連携、初年次教育、学習支援など多様な教育・学習のツール開発と、総合的にこれらを推進する教員個人、科目レベル、機関レベルの教育・学習マネジメントの研究開発を進め、東北大学における教育マネジメントの強化に寄与し、教職員個人の能力を高めることに貢献し、世界的な研究総合大学の教育拠点の形成に寄与します。

【重点戦略・展開施策】

1. グローバル時代における人材像と高度教養教育システムの総合的研究の推進

環境・安全保障・エネルギー・民族紛争など現代社会が抱えるグローバルな諸問題を解決する人材を育成するためには、高い専門性と分野を超えた全球的鳥瞰力を備え、生涯にわたって主体的に学び続ける人材像を明確にし、その能力を培う教育内容・方法およびシステムの全面的な改革と転換が必要です。正課教育のみならず、学習支援と学生支援を含むキャンパス全体の学習空間化が求められます。外部資金の獲得・活用も含め、世界的に進められている課題探究型学習をはじめとする高等教育の研究・開発・試行・実施を推進します。

2. 実践的英語能力を高める体系的英語教育プログラムの開発・推進

本機構（旧高等教育開発推進センター）が開発し、既に具体的な成果を上げつつある英語「多読」授業やe-learningの指導法と評価方法を更に進展させ、リーディング力やリスニング力養成とともに、発音指導やスピーキング指導をも視野に入れたCALL教育の教材と指導法を開発します。4技能を強化する実践的な英語教育への転換を推進します。

3. 現代社会の多様な「知」に対応した高度教養教育の開発・推進

幅広い教養や専門教育のための基礎教育としての全学教育に加え、ディシプリンにとらわれることのない意識を育み、多次元的な視野を育成するための科学教育を推進し、「自然科学総合実験」および「文科系のための自然科学総合実験」の充実・発展、専門分野や文系・理系の区別を超えて人類的問題に接近する学際融合教育、社会全体を支え、発展させてきたアスリート、芸術家、職人などによる多様な「実践知」を加え、これらの多様な「知」を大学教育の場面に導入し、学生の世界観と認識を深化させる新たな高度教養教育を開発・推進します。

4. 多様な価値観と文化を学ぶ国際共修・異文化理解プログラムの開発・推進

人種・宗教・慣習・文化の多様性を理解し、自国文化を見直し、国際社会において共生・共存する生き方を身に付けることとともに、人類社会を支える普遍的な価値観を育て、共有する学生を育てます。多様な国際共修の取組を基に、日本を近現代アジアの中に位置付けた歴史像の構築と教材化など内容開発を進め、英語による授業を提供するなど、各大学での共通の指針となるような取組を進めます。異文化理解、外国語能力の更なる涵養を目指して、本機構の外国語教員の専門性を活かした「外国語による教養科目の授業」の開講を全学教育開講科目類・群を対象として進めます。

5. 留学生の戦略的受入れの推進と海外研鑽プログラムの充実

国境を越えた学生交流を進めるため、本学のエデュケーション国際交流戦略を策定し、留学生の受入れの促進のため多様な魅力的な国際プログラムを開発するとともに留学生支援を充実させます。また、グローバル化した時代における教育カリキュラムと連動した質の高い海外研鑽プログラムを数多く開発し、学生の国際体験の機会を飛躍的に増大させます。

6. 自己発展力のある主体的学生を育成する総合的學生支援の推進

社会における自分の役割を模索し、道徳的価値観を形成し、職業準備を行い、アイデンティティを確立する青年後期の課題に対応し、心身ともに豊かな個人としての学生の成長を支援する総合的學生支援を推進します。そのために、①心身発達と自己像の形成支援（キャリア教育、メンタルヘルスケア、生活習慣の指導、課外・ボランティア活動）、②基本的健康管理（定期健康診断、特殊健康診断）、③グローバルな視点からの感染管理（結核、鳥インフルエンザ等）、④学生が対峙する危機への介入と支援（学生相談）、⑤特別支援を要する学生への援助（発達障害・身体障害、留学生等への支援）、⑥自分の将来像の構築への支援（キャリア支援）の諸支援を総合し、全学連携的な支援体制の構築と推進を行います。

7. 東北大学型 A0 入試の一層の深化と拡大のためのイニシアチブ

大学入試システムでは、①社会的に受容される選抜指標や合理的選抜方法の開発、②実施負担の抑制・軽減、③高等学校教育、入学後の専門分野、卒後の職業キャリアへと連なる合理的接続を保証するため、入学者の人物、能力の評価、試験方法の公平性、公正性、追跡調査による効果実証を進めます。また、青年前期の人間性、素質・能力、将来の可能性など「柔らかい」特徴把握を、理論と実践両面からの研究・試行によって進め、諸外国の多様な方法論の調査・検討、先端的な心理学的測定法の応用、人格の深いレベルでの評価を含む縦断的調査研究を実施し、高等学校や他大学との共同研究を行い、東北大学のコア・アイデンティティを担っている人々との協働の取組を、機構および各部局（学部・大学院）との協力によって推進します。

8. 教職員個人の能力開発と高等教育機関のマネジメント開発支援

教育関係共同利用拠点として、研究・教育・社会サービス・管理運営など大学教員に求められる全体的な能力を、大学院生・新任教員・中堅教員・シニア教員など各ライフ・ステージに沿って発達させるための各種支援、および職員の能力開発を支援するプログラムを開発し推進します。

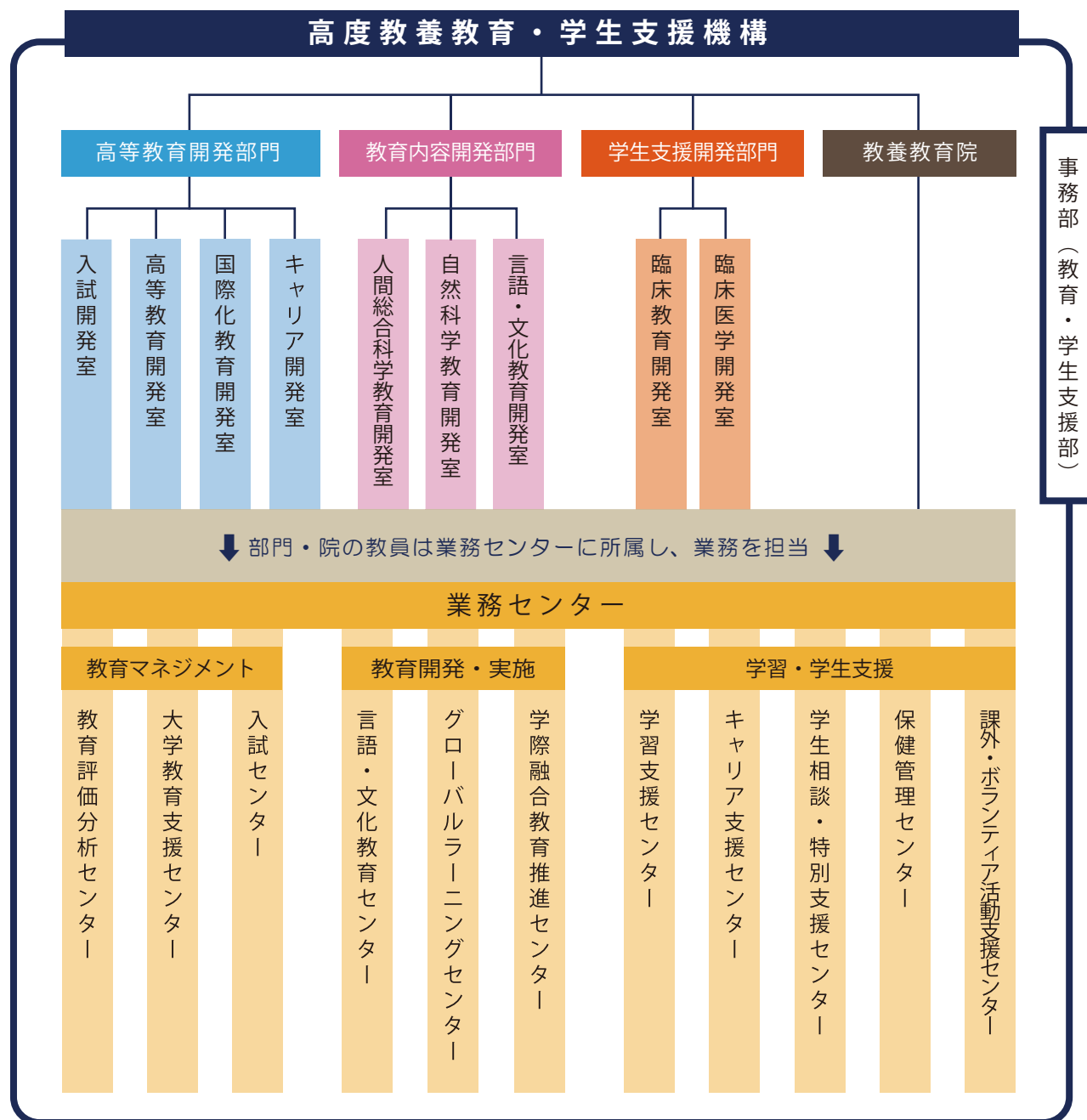
また、東北大学をはじめとする日本の大学における教育・学習マネジメントの強化を通じて、グローバル化に対応した日本の高等教育の構築に寄与します。特に、世界水準の大学教育を推進するために、アカデミック・リーダーの専門性を高めるプログラムを開発・試行します。

3. 高度教養教育・学生支援機構の沿革

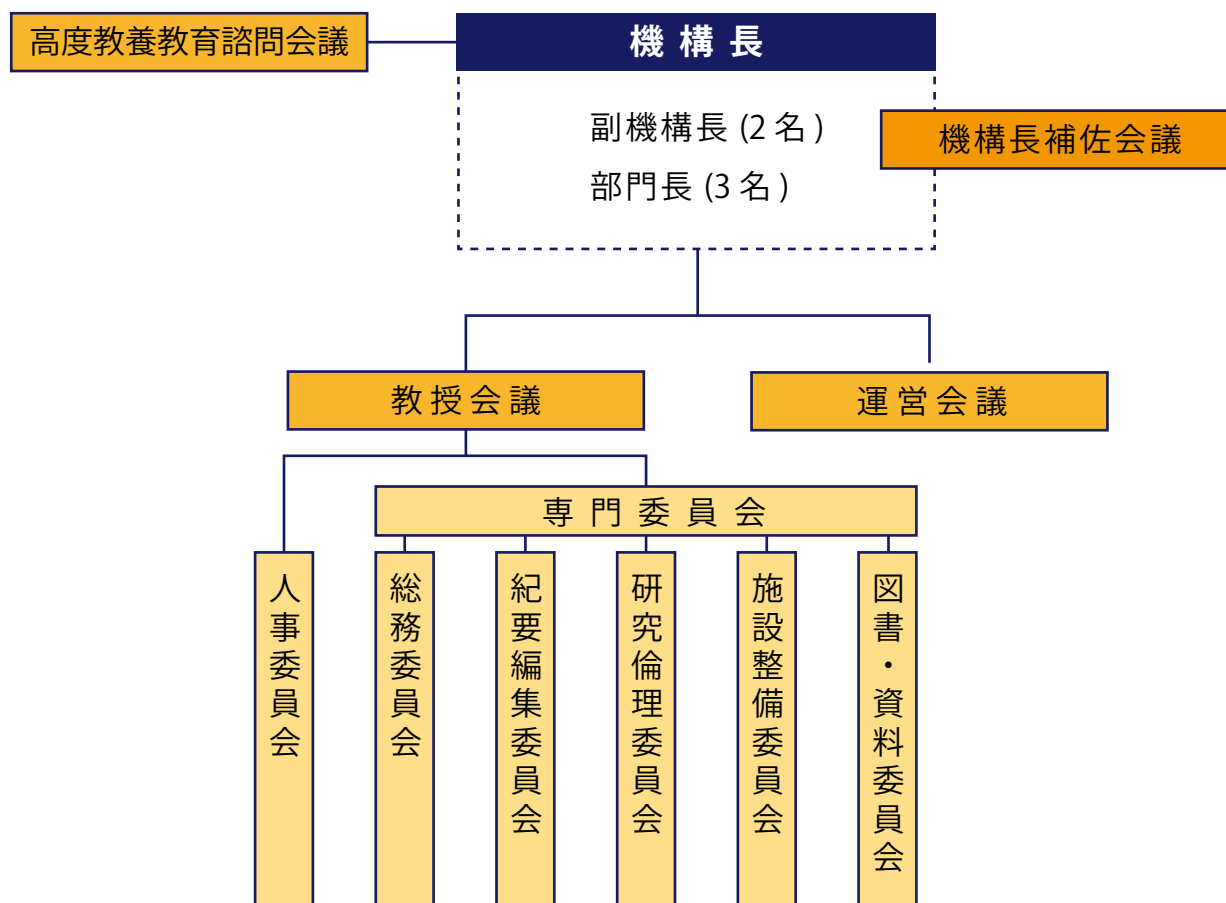
昭和 31 年 6 月	学生相談所設置。
昭和 44 年 6 月	保健管理センター設置。
平成 5 年 4 月	大学教育研究センター設置。 留学生センター設置。
平成 11 年 4 月	アドミッションセンター設置。
平成 13 年 4 月	情報シナジーセンター設置。
平成 16 年 10 月	高等教育開発推進センター設置。アドミッションセンター，大学教育研究センター，保健管理センター，学生相談所，情報シナジーセンター情報教育研究部，留学生センター（一部）を改組・統合。
平成 17 年 4 月	アドミッションセンターを入試センターに改称。
平成 17 年 4 月	留学生センターを国際交流センターに改組。
平成 20 年 4 月	教養教育院設置。
平成 21 年 7 月	高度イノベーション博士人財育成センター設置。
平成 21 年 11 月	国際教育院設置。
平成 26 年 4 月	高度教養教育・学生支援機構設置。 高等教育開発推進センター，国際交流センター，国際教育院，グローバルラーニングセンター，教養教育院，高度イノベーション博士人財育成センターを改組・統合。 花輪公雄理事（教育・学生支援・教育国際交流担当）が初代機構長に就任。
平成 26 年 7 月	機構発足記念シンポジウム「21 世紀グローバル世界が求める人間像と教養教育」開催。
平成 26 年 8 月	文部科学省より，「知識基盤社会を担う専門教育指導力育成拠点－大学教員のキャリア成長を支える日本版 S o T L の開発」が教育関係共同利用拠点（大学の教職員の組織的な研修等の実施機関）として認定（～平成 27 年度）。
平成 27 年 3 月	『高度教養教育・学生支援機構紀要』創刊。
平成 27 年 7 月	文部科学省より，「教職員の組織的な研修等の共同利用拠点」が教育関係共同利用拠点（大学の教職員の組織的な研修等の実施機関）として認定（～平成 32 年度）。

4. 高度教養教育・学生支援機構の組織

(1) 組織構成図



(2) 運営部門



Ⅱ 機構各組織の事業内容及び活動状況

1. 部門・院

(1) 高等教育開発部門

高等教育開発部門は、入試開発室、高等教育開発室、国際化教育開発室とキャリア開発室から成り、高大接続・入試の研究、教育・学習活動の研究、大学教員研究、国際化教育研究、キャリア開発研究などの高等教育に関する調査研究を行っている。これらの研究成果をもとに、各教員はそれぞれ業務センターに所属し、本学における教育の質の向上と国際化に資する多彩な活動を展開している。

入試開発室

入試開発室は、業務センターである入試センターと一体的に、東北大学の入試改善に関わる調査研究、入試全般に関する研究、入試広報および高大連携の企画・実施、AO 入試・一般入試の企画・コンサルテーションおよび実施などの活動を行っている。

高等教育開発室

高等教育開発室は、①高等教育に関する政策・実践等の調査・研究、②東北大学における教育内容・方法、教育マネジメント、学習支援等に関する調査・研究・提案、③教育改善に資する教職員専門性開発の企画・実施の3つを柱に活動を推進している。高等教育開発室所属の教員は、教育評価分析センター、大学教育支援センター、学際融合教育推進センター、学習支援センターに所属し、その専門や適性に応じて、各センターが取り組む各種の業務やプロジェクトを推進している。

国際化教育開発室

国際化教育開発室は、グローバルラーニングセンターと一体となり、国際教育、異文化間教育、高等教育の国際化施策、多文化共生、留学生支援、国際キャリア教育、異文化適応、言語教育等の、グローバル人材育成に関連した研究活動と、海外派遣・受入留学プログラムの開発・実践、国際教育カリキュラムと国際共修科目の開発・改善、日本人学生を含む国際学生への教育・支援の充実化などの教育活動を両輪とし、幅広い活動を展開している。

キャリア開発室

キャリア開発室は、キャリア支援センターと一体となり、キャリア、キャリア形成支援に関連する調査・研究、プログラム開発を推進している。教育面では、正課教育として全学教育でキャリア教育科目を開講するとともに、正課外で全学学生を対象とした各種の進路・就職支援プログラムや個別相談等も実施している。

(2) 教育内容開発部門

教育内容開発部門は、人間総合科学教育開発室、自然科学教育開発室、言語・文化教育開発室の3室から構成される組織であり、東北大学の教養教育の根幹を担う部門である。全学教育授業を実践するとともに、各室・部門間および業務センター等との連携により、教育プログラムやカリキュラムの調査、企画、開発、教育環境整備等を含む“高度教養教育の開発と実践”にあたる。

人間総合科学教育開発室

人間総合科学教育開発室は、歴史学を中心とした人文科学と運動生理学との観点から、以下のような研究・教育を行っている。

〔1〕人文・社会科学系教養教育に関する調査・研究・実践

①ユーラシア大陸におけるヘレニズム文明の美術考古学的研究。中央アジアのウズベキスタン共和国における

ギリシア・クシャン系都市カンピール・テパの発掘調査。西洋中心史観、中華史観等に囚われないユーラシア大陸からみた相対的史観の研究と教育。

②国際的な現代社会における経済学・経営学の観点からの研究と教育。

③日本近世における儀礼・年中行事の政治文化史的研究。自校史教育の比較研究とその実践。

④日本近世における兵学に関する政治思想的な研究。日本思想史の視点を生かした、特に知識人と政治の関係を軸にした東北大学史の研究と教育。

[2] 人文・社会科学系教養教育に関する教育活動およびカリキュラム開発

全学教育科目「芸術の世界」「人間と文化」「歴史と人間社会」「歴史学」「基礎ゼミ」「展開ゼミ」等の授業を担当。

[3] 運動生理学の観点からの研究

東北大学におけるスポーツ科学の目標は人生の生活基盤を形成する一助となることである。近年はストレス社会であり、在学中も卒業後も身体の健康はもちろん精神の健康維持も重要な課題である。スポーツ科学教育室では身体の健康の維持増進と「こころ」の健康との関連に注目し研究を行っている。この研究は毎日少しでも、またできる範囲で運動を継続することの意味を検証するものである。東日本大震災において被災された方々の「こころ」の健康の維持にも役立てたい。

[4] 運動生理学の研究成果の授業への展開

全学教育科目「生命と自然」「基礎ゼミ」「展開ゼミ」「スポーツA」「スポーツB」「体と健康」等の授業を担当。

自然科学教育開発室

自然科学教育開発室は、全学教育科目において理科実験科目を担当するユニットと自然科学系科目（英語クラス）を担当するユニットからなる。

「自然科学総合実験」（平成 16 年度開講）は、理系初年次学生約 1,700 名を対象とした必修の理科実験科目であり、自然科学専門分野（物理、化学、生物、地学）を融合させたタイプ（融合型実験）の実験科目として、自然科学の学び方を知り、多角的な視点で物事を捉えることができるように設計された。平成 19 年度からは新たに文科系初年次学生を対象とした理科実験科目「文科系のための自然科学総合実験」を開講した。本室教員は、実験科目の企画、教材作成、実験機材や設備を含む教育環境の整備と保守管理、授業の実施・支援、レポート指導、履修指導、成績評価、セメスタごとの実践的 FD 活動および独自のアンケート調査など、中心的な役割を果たしている。また、出席・成績情報システムの開発により、受講者の出欠、レポート提出状況、成績状況等を容易に把握することができ、それを履修指導にフィードバックさせ、学生相談所、保健管理センター、教育・学生支援部や学部の教育支援室等との協力体制のもとに学生支援を行っていることも特徴である。

東北大学におけるグローバル教育推進のため、3つの学士課程の英語コース（全学教育科目を含む）が平成 23 年度に開設されたが、本室教員は、自然科学系ディシプリンに含まれる多種多数の基礎教育プログラムの企画、開発、実施、改善活動を行っている。また、諸外国における「留学生フェア」等にも参加して積極的な広報活動も務め、東北大学の教育研究の認知度アップにも貢献しながら、本学の教育の国際化に貢献している。

言語・文化教育開発室

言語・文化教育開発室は、全学教育や留学生特別課程等において外国語及び日本語科目を担当するとともに、言語教育に関する教授法の研究および実態調査を行う。あわせて、全学教育を中心に本学の語学授業に関わる学習環境を整備し、カリキュラムの開発・設計・実施、CALL 語学演習施設を活用した語学学習支援等に関して各種提案を行うことを主たる使命・目標とする。外国語科目では、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語を担当し、「聞く・話す・読む・書く」の4技能の運用能力を高めるだけでなく、外国語圏の社会・文化・歴史の学習を通して多言語・多文化間の相互理解を深めることを目指した教育を実践する。日本語科目では、全学の各部局に在籍する留学生や外国人研究者を対象として、それぞれの専門課程において要求されるより高度な日本語運用能力を育成するとともに、日本人学生との共修授業等を通じて日本文化への理解を促進することを

目指す。

(3)学生支援開発部門

本部門は、臨床教育開発室と臨床医学開発室から構成され、所属する教員はそれぞれ学生相談・特別支援センター、保健管理センターでの業務を主に担当している。大学生生活のなかで経験する身体的、精神的問題、種々の悩みなど問題を抱えている学生への個別カウンセリングや、ハラスメント等の問題解決に向けての支援、身体障害・発達障害を持つ学生の支援の実践とともに、その環境整備を進め、臨床教育および臨床医学関係の教育・研究を行っていく部門である。

臨床教育開発室

臨床教育開発室は、主に学生相談・特別支援センターの業務を担当する教員によって構成され、「学生が本学での経験から最大限の利益をひきだすことができるよう、学生及び大学コミュニティへの支援を行うこと」を使命および目標として、学生相談・援助活動の充実に努め、大学生生活の中で問題を抱えている学生へのカウンセリングや身体障害・発達障害等の障害を持つ学生の支援活動及びその環境整備を進めている。

臨床医学開発室

臨床医学開発室は、保健管理センターと一体的に学生の心身の保健管理を行うことを使命として、健康相談、診療、定期健康診断・特殊健康診断とその事後処置、栄養相談に加え、健康科学セミナーの開催、健康に関するリーフレットの発行などを行っている。また保健管理センターで得られた健康情報を解析し、有効な保健対策を企画・立案するとともに、学生の健康を脅かす疾患の病因・病態の研究ならびに治療法の開発を行っている。

(4)教養教育院

教養教育院は、教養教育充実の方策の一つとして平成 20 年 4 月に設置され、平成 26 年 4 月に本機構に統合された。本院は、総長特命教授と教養教育特任教員で構成されている。教養教育の中でもとりわけ重要な初年次教育において、学生の学びへのモチベーションを高める授業を創り出し、教養教育改革の先導的な役割を果たしている。また、教養教育特別セミナーの共催、総長特命教授合同講義の実施を通じて、通常の授業とは違った機会を学生に提供している。主な活動・取組は以下のとおりである。

①基礎ゼミクラスの担当

高校までの「受験勉強中心の学び」から「自ら探究する大学での学び」への転換を目的に、初年次学生全員が受講する学部横断型少人数科目（基礎ゼミ）が毎年約 160 コマ開講されており、総長特命教授はそれぞれ 2 クラス（各クラス 20～25 名）を担当している。「研究をするには何が必要か」、「大学に入学した段階でまず何をしなければならないのか」、そうした疑問に対して、学生とのコミュニケーションを密にし、グループによる課題研究・調査、図書館・インターネットによる情報収集、現場の見学、レポート作成、発表、討論を通じて学生たちが自ら答えが出せるように支援している。

②全学教育（基幹科目・総合科目・語学教育）での新たな試み

初年次・2 年次学生を対象にして行われる全学教育は、基幹科目（人間論、社会論、自然論）、展開科目（理科学実験、カレントトピックス科目、総合科目等）、共通科目（基礎ゼミ、外国語科目、情報科目、保健体育科目）で構成されている。教養教育院の特命教授と特任教員は得意分野の科目を担当し、授業を活性化させるためのさまざまな試みを行っている。

③教養教育への理解を深める

毎年、教養教育をテーマにしたセミナーや合同講義を企画しており、「教養教育とは何か」について教員と学生が語り合うことにより、学生たちにとっては教養教育の中で自分自身の知性を高めることがいかに重要かを知る、また教員たちにとっては教養教育を考え深化させるよい機会となっている。

④小冊子『読書の年輪』の発行

初年次学生が「大学での学び」を始める上で一つのガイドブックとなる『読書の年輪～研究と講義への案内』を毎年刊行しており、教養教育院特命教授が、自らの教育・研究活動の経験を基に、大学での学びや生活に役立つ本を各自が6冊選び、内容を紹介している。

⑤教養教育への提言

教養教育院の院長（教育担当理事）が主催する教養教育院懇談会（年4回開催）や総長との懇談会の機会に、自らの教養教育での実践に基づいた意見を述べ、東北大学の教養教育改革に寄与している。

2. 業務センター

(1) 教育評価分析センター

使命

- (1) 国内外の高等教育動向および実践に関する調査研究を実施し、教育および学習に関する評価の理論を発展させ、その成果を国際的に発信する。
- (2) 本学の教育学習活動に係る意思決定に資するデータ収集・分析・提供のための効果的システムの開発・運用を通して、本学における持続的な教育改革・改善や学生の幅広い学習活動の実現を支援する。
- (3) 学務審議会、教育改革推進本部、高度教養教育・学生支援機構（業務センター）、各部局、事務組織の有機的連携に基づく一体的な教育マネジメント体制の確立に寄与する。

事業内容及び活動状況

- (1) 本学の教育学習活動・環境に関する基礎的データ収集システム（授業評価アンケート、成績評価・GPA 実施状況、学務情報システムとの連動）を整備する。

平成 27 年度国立大学改革強化推進補助金事業として、教育学習活動に関する IR システムの導入・運用を目指す「国際的通用性のある総合的な『東北大学教育・学習改善システム』構築による IR 活用推進事業」を実施した。本事業では、主要国内大学における IR 先行活用事例調査、学修成果評価に関する企業調査を実施するとともに、教育評価分析センターHP の開設による教育 IR 活動に関する情報発信の強化、既存調査データの格納を行うファイルサーバー（NAS）の設置、学務情報システム等の学内教育データの整備を進めた。

- (2) 新入生調査、卒業時調査、学習経験調査（学士課程レベル、大学院課程レベル）、卒業生調査、学生生活調査、雇用者調査、教職員調査の体系的な設計・実施・分析を通して、東北大学における教育の効果点検・質向上を推進する。

- ①平成 27 年 2・3 月に学務審議会と連携して実施した「第 2 回東北大学の教育と学修成果に関する調査」のデータ整理・分析を行い、第 1 回東北大学教育調査研究会を開催して、全学・部局の教務委員長を中心に結果に関する検討を行った。ここでの検討を受け、全学の状況分析と、部局ごとの調査結果に関する所見に基づく報告書として刊行した。
- ②平成 28 年 1 月に「第 1 回 東北大学教員の教育活動に関する調査」を設計・実施し、東北大学教員の教育活動・教育改善に対する認識及び講義科目・演習科目等の実施状況について基礎的データの収集（有効回答数 1,246、有効回答率 51.0%）を進め、それをまとめた報告書（速報版）を同年 3 月に刊行した。
- ③「第 11 回学生生活調査」WG に教育評価分析センターから 4 名が参画し、設計・実施に貢献した。

- (3) 本学の教育学習活動に係るデータの収集・分析・提供を行うシステムの開発・運用を通して、本学における効果的な意思決定および教育マネジメントを支援する

本学における意思決定や教育マネジメントの支援に向けて、「第 2 回東北大学の教育と学修成果に関する調査」に関する第 1 回東北大学教育調査研究会を開催（平成 27 年 7 月 6 日学務審議会後）し、本学学士課程から大学院課程に至る各レベルの学修成果について現状と課題の共有を行った。今後はこうした研究会やセミナーを定期的に開催して、部局や学務審議会科目委員会との連携を通して、本学の教育学習活動に関する改善・改革の意思決定やマネジメントを支援する取組みの強化を図ることとしている。

(2)大学教育支援センター

使命

- (1) 国際的な連携を基盤に、大学教育内容・方法開発及び教職員の能力開発を推進するための調査研究を行い、その成果に基づくプログラムを開発し、教育関係共同利用拠点として成果を積極的に学内外へ発信し、日本全体の大学教育改革の推進に寄与する。
- (2) 学際融合教育センターと協働した探求型学習や学際融合プログラムの開発、言語・文化教育センター、グローバルラーニングセンターはじめ、各業務センター及び学内内部局・教職員と連携した各種専門性開発活動を行い、全学的な教育改革の推進に寄与する。
- (3) 教育マネジメントを担う教職員の職能開発プログラムを開発・提供し、教育マネジメントの向上に寄与する。

事業内容及び活動状況

- (1) 学習効果を高め、教養ある専門人材を育成する大学教育内容・方法、大学教職員のキャリア開発のための調査研究の推進

「グローバル社会におけるコンピテンシーを具体化する高度教養教育の開発研究」(代表者羽田貴史, 科学研究費基盤研究 A, 2014~2017), 「大学教育の内部質保証を担うミドルマネジメント人材の専門性開発に関する国際比較研究」(代表者杉本和弘, 科学研究費基盤研究 B, 2014~2017), 「教員のキャリアステージに対応したリフレクションによる教授設計研修プログラムの開発」(代表者今野文子, 科学研究費若手研究 B, 2014~2017) を獲得し、機構内外の研究者と連携し、研究およびプログラム開発を行っている。

- (2) 教員のキャリアステージに対応した各種の専門性開発プログラムの開発と提供

平成 27 年度のプログラムについて、4 ゾーンに 52 のプログラムを企画、実施し、計 2,237 名が参加した。

- (3) 国際連携を活用し、大学教員を目指す大学院生のための大学教員準備プログラムの開発と提供

大学教員準備プログラム(PFFP)と新任教員プログラム(NFP)を合わせてジュニアファカルティ・プログラムとして実施し、大学教員の仕事について総合的に学べるフルコースに PFFP 4 名、NFP に 6 名、また、教育実践に主眼を置いたショートコースには PFFP 4 名、NFP 6 名が参加した。フルコースでは、国内他大学調査として立命館大学および同志社大学への研修(平成 27 年 10 月 27~29 日)に計 7 名、海外他大学訪問調査(平成 28 年 2 月 28 日~3 月 5 日)では UC バークレーへ計 7 人が参加した。また、NFP では OB/OG を対象としたメルボルン大学講師によるフォローアップ・コンサルテーション(平成 28 年 3 月 9 日)を東北大学で実施し、参加年度の異なる過去参加者 3 名が参加した。

- (4) 教育マネジメントリーダーを育成する教育マネジメントプログラム(履修証明プログラム)の実施

平成 25 年度に開始した大学教育人材育成プログラムを改編し、新たな履修証明プログラム「アカデミック・リーダー育成プログラム」(平成 27~28 年, 2 ヶ年)を開設し、5 大学 9 名が参加し、受講時間 140 時間のうち、1 年目として国内他大学訪問調査を含め 61 時間を終了した。

- (5) 各業務センター及び学内内部局及び教職員と連携した専門性開発のための諸活動と組織文化の醸成

教育評価分析センターとの共催セミナー1回、学際融合教育推進センターとの共催セミナー14回、学生相談・特別支援センターとの共催セミナー1回、言語・文化教育センターとの共催セミナー5回、保健管理センターとの共催セミナー4回を開催した。部局との連携は、教育情報基盤センターとの共催でセミナー1回、大学本部委員会との共催セミナー1回開催した。

- (6) 高度教養教育・学生支援機構に係る教育関係の共同利用に関する業務

分野別に提供する PD セミナー、キャリア別に構成された PFFP, NFP, LAD, SDP(大学職員能力開発プログラム)と、新規に開発している専門教育指導力育成プログラムを体系的に企画・実施し、学内および全国に広く開かれており、日本の大学教職員の専門性能力開発に寄与している。

(3)入試センター

使命

全学的な各種入試関係委員会との連携のもとに、本学入試の中長期的な企画や改善検討を行うとともに、大学入試センター試験や一般入試をはじめとする入試業務を中核的に担い、また入試広報活動や高大接続・連携事業を企画実施する。これらの活動を通じて、本学アドミッション・ポリシーに合致した優秀な学生の獲得に貢献する。

事業内容及び活動状況

- (1) 本学入試の中長期的な企画・改善検討（入試企画・広報委員会における検討、本学入試・国内外入試の調査研究、追跡調査、受験者・入学者へのアンケート、入試情報の提供、部局への助言・コンサルテーション、国大協・入研協等の外部組織・他大学・高等学校との連携・情報交換）

- ・入試企画・広報委員会にワーキンググループを置き、広報関連の検討、国際バカロレア入試・グローバル入試等の企画、英語外部試験の入試への活用検討、一般入試面接試験及び AO 入試の成績通知の検討を行った。
- ・入学者へのアンケートを例年どおり行い、入学者の動向を分析。回収率は 99%
- ・入研協等の外部組織開催の会議に参加し、他大学との連携・情報交換を行った。
- ・大学院入試と学部編入学入試の対応指針の改訂版を作成した。
- ・国の高大接続会改革における多面的・総合的評価による入学者選抜を本学においても取り組み、AO 入試を定員の 30%に拡大する方針を総長から指示を受け、同拡大戦略に関し入試企画・広報委員会や AO 入試懇談会等で各学部と協議、全学支援体制の強化、広報活動の強化等を提案した。
- ・上記入試改革に関する調査研究を実施。シンポジウム、研究会（(4) 参照）を開催し、その成果を本機構「高等教育ライブラリ」として刊行した。海外調査（韓国、米国）を実施。科研費「大学入試における項目反応理論の活用」（萌芽的研究）が採択された。

- (2) 入学者選抜の実施（入試実施本部、入試実施委員会構成員）

- ・入試実施本部
- ・入学試験審議会、入試実施委員会各委員
- ・AO 入試Ⅱ期実施(志願者 684 人、合格者 209 人)
- ・科学オリンピック入試実施(志願者 2 人、合格者 1 人)
- ・AO 入試Ⅲ期実施(志願者 760 人、合格者 289 人)
- ・一般入試（前期日程）実施（志願者 4,900 人、合格者 1,942 人）
- ・一般入試（後期日程）実施（志願者 1,269 人、合格者 106 人）

- (3) 入試広報活動（高校生・高校教員・保護者対象の説明会開催、高校等主催の説明会・相談会への参加、高校訪問・高校教員との懇談会、冊子・ウェブサイト等による入試情報の提供、学内への情報提供）

- ・入試説明会(高校教員対象)を全国 20 会場にて実施 参加者 526 人
- ・進学説明会(受験生・父兄対象)を 3 会場（札幌、東京、大阪）にて実施 参加者 1,320 人
- ・高校の大学見学の対応 71 件
- ・民間業者等開催の説明会（高校教員との懇談会含む） 14 件
- ・入試センター教員が行う高校訪問 27 校
- ・東北大学案内の作成 78,000 部発行
- ・入試センターウェブサイトによる情報の発信

- (4) 高大接続・連携事業（フォーラム開催、アウトリーチプログラム、出前事業等の企画・学部支援、オープンキャンパスの企画開催・全学支援）

- ・第 22 回高等教育フォーラム（5 月 15 日）「大学入試改革にどう向き合うか」参加者 355 人
- ・オープンキャンパス（7 月 29、30 日）参加者 60,411 人 * H27 年度入学者参加率 54%
- ・日本テスト学会とシンポジウム「テスト学からみた高大接続改革」共催（9 月 10 日）（豪雨のため予定の

仙台会場が中止，学会会場にパネリストが移動して開催)
・高校等主催の入試説明会・相談会に講師を派遣 158 件

(4) 言語・文化教育センター

使命

大学教養教育の基盤として広義のコミュニケーション能力獲得と多文化理解は重要な使命であり、自分の母語のみに限定されない総合的な言語運用能力を基盤として、幅広い価値観と世界観を涵養することは国際的なリーダーシップ力の育成にとって不可欠である。豊かな言語活動を実質化させるためには、言語 4 技能「聞く・話す・読む・書く」の総合力を備えた実践的運用能力の養成が不可欠であり、本センターは、国内外の高等教育機関における言語教授法と言語文化教育カリキュラム編成の在り方に関する調査研究を推進し実践するとともに、具体的かつ実行可能な言語文化教育改善のための提言を行い学生教育に反映することによって、言語文化に関わる教養教育の高度化と更なる発展に寄与することを使命とする。

事業内容及び活動状況

- (1) 全学教育「外国語科目」・「日本語科目」および高年次用英語教育カリキュラムを学務審議会との連携のもと企画・開発し、運営する。

- 全学教育「外国語科目」および「日本語科目」においては、学務審議会科目委員会とも連携し、実施方法やシラバスの見直しを進めている。また一部外国語において展開科目として高年次教育への継続を図っている。
- 英語教育では「多読」や e-learning を活用した授業方法、また 4 技能を伸ばす PDR メソッドの開発と実践を進めている。
- 高年次用英語教育カリキュラムの橋渡しとして、Practical English Skills (PES) においてプレゼンテーションスキルやライティング力を高めるための教材、教授法の開発、また実用的な環境で英語力を向上させるために IPLA の留学生との統合的英語クラスの運営を進めている。
- 全学部の 1, 2 年次学生を対象に実施されている TOEFL ITP テスト®について、英語教科部会と協力し、スコアの変化や英語の授業内容との相関性などについての分析を行っている。
- 初修語教育では、検定試験対策を目的とした授業の開設（スペイン語、DELE 対策）や外国人留学生との定期的な交流の実施（中国語、韓国語）など、学生の海外留学などへの対応、実践的言語運用能力の強化や異文化理解の促進などについて幅広い事業を展開しつつある。その一環として、学生および社会人を対象として、定期的に「韓国語と韓国文化に関する勉強会」および「中国語と中国文化に関する勉強会」を実施した。
- 今後も引き続き、全学教育から高年次教育につながる語学教育の中心的な役割を担っていく体制を構築する。具体的には、ドイツ語の夏期集中講座やスペイン語圏文化の理解のための映画上映、韓国文化講演会などを行っている。
- ロシア交流推進室及びグローバルラーニングセンターと連携し、日露学生の交流を促進するための派遣・受け入れプログラムを開発し、実践している。日露短期研修プログラム TUCPR (Tohoku University Cross-Cultural Program with Russia) として、ロシア極東連邦大生 5 名の受け入れを行った。

- (2) 全学留学生対象「日本語教育プログラム」をグローバルラーニングセンターと連携して企画・開発し、運営する。

- 外国人留学生等特別課程を企画・運営し、のべ約 850 名が受講している。
- 外国人留学生日本語研修コースおよび日韓共同理工系学部留学生プログラム（定員：各学期合わせて 30 名）の研修生の教育指導を担当している。
- グローバルラーニングセンターと連携して国際共修ゼミを開講し、国際理解教育を推進している。平成 27 年度は、外国人留学生等特別課程との合同開講による日本語ベースの国際共修ゼミを 24 クラス開講した。
- 日本語教育セクションのホームページを公開し、全学教育の日本語を含めて本学で開講される日本語プログラムの情報が、日英両言語で一覧できるように整備した。

(3) e-learning 環境を改善し、コミュニケーション能力育成のための学習コンテンツを開発する。

- 平成 26 年度に CALL システムの大幅な機種変更が行われ、機能強化が図られたところである。英語だけでなく、初修語における e-learning 環境整備についても検討を開始している。
- 英語 CALL 教育においては、学習者の興味や関心、専門性を図るために、内容重視の英語教育を目的とする、Web 上のオープンソースコンテンツを活用した Authentic メディア教材の開発を進めている。

(4) 外国語教育研究の成果に基づいて、多読、多聴、速読、CALL 教育等の外国語教授法を改善・開発し、実践する。

- 「多読」については、補助金を得て、附属図書館本館のグローバル学習室における蔵書の強化を図り、英語関係約 1,300 冊（電子ブックを含む）に加え、初修外国語（ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及び朝鮮語）についても約 900 冊の整備を行った。日本語の多読用図書の選定・設置も行っている。さらに、「多聴」についても整備に着手し、教材として英語 DVD の導入を開始した。
- オンライン学習支援システムを用いて、反転授業を展開し、十分な課外学習時間の確保と 4 技能を伸ばす英語教育の実践（PDR メソッド）を進めている。
- 海外、特に日本と同じ非（または準）英語圏における英語教育の先進的事例についての調査を開始し、手始めとして韓国のソウル大学及び高麗大学への訪問調査を行った。
- 中国語ブレンディッドラーニング用教科書・指導法、及びスマートフォン利用の復習教材の開発に取り組み、教材設計指針を明らかにした。

(5) 教育評価分析センターおよび大学教育支援センターと連携し、言語文化教育に携わる教員の教育能力を向上させるためのプログラム開発を推進する。

- 平成 27 年度は、各センターと連携して語学教育に関するセミナーを開催した。
- 大学教育支援センターと連携し、7 月に大学英語教員対象として TESOL などの特別講座を実施した。また、12 月には「発音指導のコツ」、「効果的な授業運営方法」などの FD を行った。
- 大学教育支援センターと共同で 6 月に「第二言語習得論と外国語教育」を開催した。
- グローバルラーニングセンターとの連携のもとに、第二言語習得研究会、CLIL（内容言語統合型学習）研修会、CEFR/JF スタンダード研修会等、日本語教育に関する研究会・研修会を開催した。
- 東北大学専門教育指導力育成プログラムの一環として、全国 13 の大学の 14 名の大学中国語教員に対し北京語言大学での中国語教育指導能力の開発支援研修を実施した。

(6) グローバルラーニングセンターと連携し、海外派遣留学プログラム、外国語・コミュニケーション能力教育プログラムの充実化を図る。

- グローバルラーニングセンターと協力し、平成 26 年度の夏から韓国のソウル大学と短期海外研修スタディアブロードプログラム（SAP）を実施するなど Native 教員を通じた海外留学先との連携やプログラム開発への協力を進めている。また、SAP プログラムの支援活動として、グローバルラーニングセンターと米カリフォルニア大学リバーサイド校との共同開発で、「留学準備実践」を開講実施した。
- 全学教育と、Practical English Skills、グローバルラーニングセンターでの特別講座など英語教育活動への協力と推進を図っている。
- グローバルラーニングセンター及びマンスフィールド財団と連携し、米国モンタナ大学の訪問・調査を行い、大学間協定の締結、共同研究の推進、学生・教職員の交流、単位取得を伴うグローバル・イニシアティブプログラムの開発及び実施を進めている。
- グローバルラーニングセンターと協力し、協定校の日本語既習者（N3 以上、文系）を対象とする、日本語教育と専門教育のハイブリッド型プログラム「DEEp-Bridge」を企画し、開設の準備を行なった。プログラムコーディネータを雇用し、日本語研修教育運営専門委員会のもとに設置したワーキング・グループにおいてカリキュラム開発を行なった。

(5)グローバルラーニングセンター

使命

東北大学の教育国際化戦略の策定・実行と国際交流活動の推進に中心的な役割を果たす。優秀な留学生の戦略的受け入れ推進と教育・支援プログラムの開発・充実及び多様な海外派遣プログラムの開発・実施，教育の国際化の推進等の実践的活動を通じて，国際的な視野を持ち指導的な役割を果たすグローバル人材の育成に大きく貢献する。また，学内外の連携を強化し，グローバルキャンパス構築に寄与するとともに，広報活動や社会連携を推し進める。

事業内容及び活動状況

- (1) 教育国際戦略の策定・実行のために，国内外における高等教育関連の情報収集，本学の国際競争力やネットワークの拡大を目指した発展的な戦略の策定および大学執行部・他部局への情報提供・提言を行う。学術間交流協定校をはじめとする世界各国の有力校との関係構築・強化・連携を強め，国際戦略に基づいた国際交流活動を実施する。

「東北大学グローバルイニシアティブ」構想の中核の一つをなすグローバル教育基盤整備に関して，グローバルラーニングセンターが開発・実施にあたり中心的な役割を果たしている。

学生の留学希望が多い欧米の大学を中心に協定締結のための大学訪問等を積極的に実施した。

海外拠点の整備について，①ベトナム貿易大学に共同事務所を設置し開所式を実施した。②カリフォルニア大学リバーサイド校東北大学センターの機能を拡充し国際学士コースのためのリクルーティング活動を実施した。③東北大学バンコク代表事務所設置に向けた準備を行った。

- (2) 優秀な留学生を獲得するため，多様で魅力的な国際プログラムを開発し，支援を行う。また，留学生支援（学業・生活支援，就職支援，危機管理，相談等）を充実する。

国際教育院がこれまで担当してきた英語による学士課程留学生プログラム「国際学士コース」の運営や全学教育の実施等を改組後引き続きグローバルラーニングセンターが行ってきた。特に，10名の国費留学生配置枠を得，3コースの協力のもと「理・工・農協働プログラム」を開始した。また，ウェブ，サマースクール，留学フェア等を通じた国際学士コースの広報の結果，志願者が大幅に増加した。国際学士コースを含むFGLプログラムに在籍している学生に対してアンケート調査を行い，その結果を受けて国際学士コースの改善を図った。

また，JYPEやIPLAプログラム等の英語で教授する交換留学生の受入プログラムについて，留学生課と協力してグローバルラーニングセンターが運営の中核的役割を果たしている。IPLAプログラムにおいては，今年度からグローバルラーニングセンターの教員が受入の際の担任となっている。理系大学院生を対象にしてCOLABSプログラムを実施し，世界各地から優秀な大学院生を本学の先端的な研究環境に交換留学生として受け入れている。グローバルラーニングセンターはこのプログラムのとりまとめを行うと同時にこれらの留学生に対しフィールドトリップや各種イベントを実施し，日本および大学への適応を支援している。また，理系・文系それぞれにおいて協定校からの学生を受け入れるサマープログラムを実施している。

これらのプログラムにおいて，グローバルラーニングセンターの教員が留学生に対する学業や生活上での支援や相談業務を行っている。また，本学学生による支援団体を統括し，学生による留学生支援の拡大を図っている。学生相談所での対留学生相談に通訳として教員を派遣するなど機構内の組織との連携も図っている。経済支援については，グローバルラーニングセンターが中心となってJASSOへの奨学金の申請を行い，それを留学生の経済支援に充てている。さらに，キャリア支援センターに協力して留学生に対する就職説明会を定期的に開催している。

平成27年度通年で外国人留学生数は2,938人に達し，東日本大震災後の落ち込みを完全に克服しこれまでで最高となった。

- (3) 国際戦略に基づき、質の高い海外研鑽プログラムを開発し、派遣留学支援、派遣留学促進のための教育・支援を充実させる。

3～5 週間の短期海外派遣プログラムである「Study Abroad Program (SAP)」を開発し実施した。今年度は夏休み・春休み合わせ、約 300 名の学部学生が SAP に参加している。SAP においては、語学研修だけでなく様々なテーマを設定してのアクティブラーニングや現地の大学生や地域住民などとの交流の場を設けており、質の高い国際経験ができるプログラムとしている。また、複数回の事前研修及び事後研修を行い、学びの定着と振り返りを図っている。さらに、カリフォルニア大学デビス校やワシントン大学において理工系の大学院生向けの短期海外派遣プログラムを実施した。

交換留学を希望する学生に対して、グローバルラーニングセンターの教員が留学アドバイジングを行っている。交換留学を希望する学生並びに交換留学が決まった学生に対して、留学準備教育を行っている。平成 27 年度は、交換留学者の質の向上をねらい語学要件の厳格化を図った。これにより一時的に派遣者数は減少したが学生の留学・留学準備に対する意識が変化し、来年度の派遣者数に質・量ともに増加の兆しが見られている。

SAP や交換留学に対する JASSO の奨学金を獲得する努力を行い、派遣留学参加者の経済的支援に貢献している。また、交換留学における単位認定・単位互換に関するラーニングアグリーメントについて、全学的な導入の準備を行っている。

昨年度に引き続き 5 月及び 10 月を留学強化月間として留学に興味を持ってもらう様々なイベントを催し、同時に留学に関する情報提供を行った。

本学は平成 26 年 3 月には AOII 期・推薦入試合格者を対象に国立大学では初めてとなる「入学前海外派遣プログラム」を実施したが、3 年目となる今年度は平成 28 年 3 月に 15 名の学生をカリフォルニア大学リバーサイド校へ派遣した。

- (4) 国際社会でリーダーとして活躍する人材を育成するために、国際教養力、行動力、語学・コミュニケーション力等を育む多様な教育プログラムを開発・実施する。

東北大学グローバルリーダー育成プログラムの責任部署として、プログラムの策定・実施にあっている。このプログラムは、本学学部生を対象として、語学・コミュニケーション力、国際教養力、行動力を養成する 3 つのサブプログラムと、海外研鑽サブプログラムからなり、グローバルラーニングセンターは、これらプログラムの方針の決定、指定科目の選別、ポイントの認定、学習アドバイジング、プログラム修了やリーダー認定の判断等多くの事を行っている。昨年度の登録学生数は 2091 名に増加した。また、本プログラムに提供する正課・課外の授業の一部を実施している。特に、外国人留学生と日本人学生が共に学ぶ課題解決型授業「国際共修ゼミ」や、グローバルに活躍する個人や企業人等を招いての「グローバルキャリアセミナー」等を実施し、グローバル人材の育成に貢献している。

課外での英語学習の強化のため、平成 27 年 6 月に東北大学イングリッシュアカデミー (TEA) を開設し、課外英語学習講座、英語アドバイジング、TOEFL-iBT、TOEFL-ITP の試験実施などを行った。特に課外英語学習講座である TEA's English には昨年度延べ 395 名の学生が参加した。

- (5) 学内外との連携を強化し、グローバルキャンパスの実現に寄与する。また、本学の教育国際化について積極的な広報活動を行い、広く社会との連携を図る。

各部局の国際交流担当教職員や、東北大学留学生協会 (TUFSA) 等の学生団体等との学内諸団体との連携を強化している。

世界各国の国際教育・交流教職員が一堂に会す国際学会や協議会 (NAFSA, EAIE, APAIE) 等に教職員を派遣し、本学の取り組みや調査結果を積極的に情報発信するとともに国際ネットワークの拡大に努めている。

グローバルラーニングセンターのホームページを抜本的に改修し、国内外への訴求力を高めた。また、本学の教育国際化の取組についてリーフレットを作成し、民間企業、保護者等を含む一般の方々への広報活動を行っている。

(6)学際融合教育推進センター

使命

- (1) 世界的な視点で、大学における教養教育のありかたを調査研究し、東北大学の学士課程教育、大学院教育の発展に資する提言を行う。
- (2) 全学教育の分野別教育を開発・提供するとともに、学士課程教育、大学院教育を視野に入れ、各分野内の総合科目（自然科学、人文科学、社会科学、スポーツ）、分野を超えて人類社会の課題に応える学際融合型教育科目の開発・実施を行う。
- (3) 学際融合型教育を英語など多言語で提供し、東北大学の教育を国際的視野で推進する。

事業内容及び活動状況

- (1) 人類社会の課題に応える部局横断的な学際融合教育課題・教育プログラムに関わる調査研究とカリキュラムの策定

1. 調査研究については、科学研究費基盤研究 A による共同研究を実施中。2～3 月にかけ、大阪大学・東京大学へ訪問調査をしたほか、アメリカ (CGS,UCB)、イギリス (オックスフォード大) への訪問調査を実施し、イギリスとアメリカにおける学士課程教育の動向について調査を行った。
2. 平成 27 年度の開講科目として、カレントトピックス・展開ゼミ「アジアを知ろう、感じよう」(学士課程 1, 2 年生対象科目, 全学教育開講) を開講し、東アジアの歴史・文化・政治・経済・環境の多方面からとらえる学際融合型授業を提供した。担当教員は、外部講師として佐藤洋一郎, 末永恵子, 内海愛子, 李郁蕙を招いた。※コーディネーター: 芳賀満 (代表, 高度教養教育・学生支援機構)・中川学 (同機構)

- (2) 学部から大学院にいたる学際融合型授業の開発推進

学際融合教育推進センター連続ワークショップ「科学技術と社会ーテクノサイエンスリスク社会と科学技術の課題」(構想) を企画。

概要: 科学と技術の発展が、人類社会の進歩と幸福実現の原動力とみなされた時代から、近代産業社会そのものがリスク発生要因となり、「危険社会」(ベック 1986)、「テクノサイエンスリスク」(松本 2009) を生み出し、「構造災」(松本 2012) とまで言われる科学技術社会の現状を明らかにし、科学技術・経済・政治の密接な相互依存性がもたらす経路依存性を乗り越える科学と社会の関係性を考察し、これから科学を担う大学院生の視野を広げてもらう。年 6 回程度開催し、講義 (80 分)、コメント (10 分)、討論 (50 分) の参加型ワークショップを行うことを企画したが、平成 28 年度に持ち越すこととなった。

- (3) 教育プログラムの実施に必要な実装組織の構築

平成 27 年度から学務審議会に「高度教養教育開発検討ワーキング・グループ」を設置。

(7)学習支援センター

使命

- (1) 学生の主体的・自律的な学習を、実践的に促進・支援し、研究大学で学ぶ学生としての資質を育成する。
- (2) 初年次教育や学習支援に関する国内外の動向を調査研究し、東北大学の学習支援の質的向上に寄与する。
- (3) 教職員・学生の間に「学び合い」文化を醸成し、学習共同体（ラーニング・コミュニティ）の形成に寄与する。

事業内容及び活動状況

- (1) 全学教育段階のリメディアル・レベルアップ学習支援の開発・実践を行う。

本センターの提供する学習支援の柱の1つは、SLA（Student Learning Adviser）による学部1・2年生向けの学習支援である。SLAとは本学学生による学生のための学習支援スタッフを指す。

2015年度前期におけるSLAの人数は62名（学部学生16名、修士学生27名、博士学生19名）、後期は55名（学部学生20名、修士学生19名、博士学生16名）である。前年度は前期46名、後期49名で、後述の利用者数増加というニーズに対応する形で、SLAの採用人数も増加している。うち2015年度新規に採用したSLAは41名である。

このSLAによる学習支援は大きく、①理系科目の学習支援、②英会話支援、③ライティング支援、④その他に分けられる。

①理系科目の学習支援は、質問受付カウンターでSLAが学生への学習支援にあたる個別対応型が中心となる。2015年度の利用者数は2,331名（前期1,545名、後期786名）で、過去最高の利用者数となった前年度（2,803名）からはやや減少したが、変わらぬ学生からの高いニーズが見て取れる。

②英会話支援は個別対応型とSLAによる企画発信型で実施された。2015年度の利用者数は651名（前期427名、後期224名）で、同じく過去最高の利用者数となった前年度（698名）からは微減となった。

③ライティング支援も個別対応型と企画発信型で実施された。2015年度の利用者数は75名（前期54名、後期21名）で、前年度（26名）より増加となった。利用者の多くは連携授業の受講者で、「コンサルティングシート」発行を伴う個別対応型である。ライティング支援の利用促進のためには、授業とのリンクが重要であることがわかる。企画発信型としては、附属図書館との連携により「ライティングセミナー」（全5回）を実施した。

④その他としては、グローバルラーニングセンターと連携し、外国人留学生に対する授業連携型の支援を開始したことがあげられる。これは留学生のSLAが留学生を支援するという新たな試みである。

- (2) 学習支援の組織開発および支援者育成システムの開発・実践を行う。

2015年度には、学習支援のための組織改善を目指し、SLAのサポート機能とセンターの業務運営の一部を担う「シニアSLA」を新たに創設した。また経常的な支援者（SLA）の育成のため、①初任者研修、②センター教員とのリフレクション、③シニアSLAによるメンタリング、④担当科目別の勉強会、⑤合同説明会・報告会、⑥研修合宿（8月31～9月2日、於蔵王）などを実施した。

さらに、前年度に引き続き、北海道大学ラーニングサポート室との合同研修会（3月7・8日、於学習支援センター）を行い、他組織との交流に取り組んだ。

- (3) 情報還元による正課カリキュラムの改善・充実に貢献する。

前年度に引き続き、学務審議会において、センターの利用状況・活動報告を行った（毎年4月・9月に実施）。さらに本センターにおける質問・対応事例の情報をまとめ、①学務審議会科目委員会、②個別の授業担当者へのフィードバックを実施した。

①学務審議会科目委員会（化学）への情報提供を行った。

②2012年度から継続して「自然科学総合実験」担当教員への情報還元に取り組んでいる。当該授業においては、これらの情報を担当する全教員・TAにも即座に共有し、授業改善に役立てている。前年度に引き続き、「数学物理学演習」に関するフィードバックを行った。本センタースタッフと工学教育院スタッフが情報共有を図るとともに、当該授業のTAをSLAの質問窓口へ派遣してもらう形での学習支援を実施

している。

(4) 全学教育範囲における学習支援ネットワーク（部局間連携体制）を構築する。

2015 年度における学習支援ネットワークの構築に関しては、①附属図書館との連携、②学生支援施設との連携、③学内プロジェクト連携に取り組んだ。

①前述のように、ライティング支援をととして附属図書館と連携し、「ライティングセミナー」（全5回）を実施した。

②前年に引き続き、学生相談・特別支援センターとの連携体制を敷いている。

③前年に引き続き、理学研究科のキャンパスライフ支援室と情報交換を行っている。キャンパスライフ支援室における研修にセンタースタッフがアドバイザーとして参加し、キャンパスライフ支援室の室員には SLA 向けの研修会で講師を務めてもらうなど、相互のリソースを活用し、ネットワークを結んでいる。

(8)キャリア支援センター

使命

- (1) 学部・大学院全体に対するキャリア支援を充実し、東北大学の学生が大学での学びを基盤に社会に巣立ち、生涯にわたって発達し、社会に貢献できるよう支援する。
- (2) 就職動向や就業実態、大卒者のキャリア発達など進路選択に関する情報収集・調査研究を行い、各種のキャリア支援・就職支援に活用する。
- (3) 学生個人に対する相談業務を通じて、学生が進路選択を適切に行えるよう支援する。
- (4) 学生相談・特別支援センター、グローバルラーニングセンター及び部局等との連携を強化し、情報共有を進め、東北大学全体のキャリア支援力を向上させる。

事業内容及び活動状況

- (1) キャリア教育としての正課教育の改善・充実を図る。学士課程教育から大学院教育にわたり、学生の成長・発達の節目に対応し、自らのキャリア・デザインを構築する機会を提供するために正課教育を充実させていく。

平成 27 年度にはキャリア教育として全学教育科目 6 科目を開講するとともに、キャリア支援センターで実施している「キャリア支援プログラム」の一部として位置づけ、科目間の体系的整備を進めた。27 年度は、1 セメスターに 1 科目、2 セメスターに 1 科目、1・3 セメスターに 1 科目、2・4 セメスターに 3 科目配置した。また、フィールドワークを取り入れた PBL 科目の 28 年度新規開設に向けた準備を進めている。

- (2) 部局と連携し、正課外としてのキャリア支援の改善・充実を図る。学生個人の発達課題に対応したキャリア相談、就職相談等個別対応を重視し、進路・就職ガイダンス、キャリア支援セミナー、業界仕事研究講座、キャリア・就職フェアなどを企画・実施し、学生の出口支援の充実を図る。

学部 1・2 年次学生から大学院学生までを対象とした「キャリア支援プログラム」を実施している。大人数のセミナーから少人数のワークショップ、個別相談まで、幅広いテーマのプログラムを多様な実施形態で提供している。なかでも個別相談は、キャリア支援センターの教育・学生総合支援センター棟への移転に伴って複数の相談室を運用することが可能となったことから体制強化に努め、2,773 件(川内)の相談対応を行った。

また、部局等の依頼に応じたセミナー開催や F D 等への講師派遣等も行っており、部局との連携強化を図っている。

- (3) 研究科と連携・協力し、学部から大学院への選択・移行・適応を適切に行えるプログラムを開発し、実施する。

大学院進学については進路形成における選択肢の一つとして就職と同等に扱っており、大学院生や大学院進学希望者を対象としたセミナー等を実施している。

また、各研究科からの依頼に基づき、ガイダンス等への講師派遣を行うとともに、生命科学研究科と連携し、ライフサイエンス系大学院生を対象とした進路ガイダンス、キャリアフェアを実施した。

- (4) 大学院生後期課程を主な対象としたイノベーション創発塾を拡大・推進し、社会が求める博士課程修了者の幅広いキャリア支援プログラムを開発・実施する。

「イノベーション創発塾」を開講し、様々な問題を俯瞰した上で自ら課題を設定・解決できる人材の育成に取り組んだ。高度展開スキルや社会人基礎力、グローバルコミュニケーション力等の効果的向上を図るためプログラムの改良にも取り組み、「PBL 実践」を新たに実施した。平成 27 年度受講者は 34 名。

また、中長期インターンシップの推進や、専門スタッフによる個別面談、キャリアパスフォーラムの開催等のキャリアパス支援を通じて、博士人財の産業界への輩出を推進するとともに、安心して博士後期課程に進学できるよう出口支援の充実を図っている。平成 27 年度は個別面談を 406 回(青葉山)実施した。

さらに、文部科学省「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業(次世代研究者育成プログラム)」において北海道大学や名古屋大学と連携して「連携型博士研究人材総合育成システムの構築事業」に取り組

んでおり、博士後期課程学生やポスドクを対象としたキャリア支援の充実を進めている。

- (5) 進路選択に関する情報提供の充実を図る。全学の学生がすべてのキャンパスで等しく進路・就職に関する情報が得られる、ワンストップの支援体制（支援環境）を整備する。

多様な学生の多岐にわたるニーズに対し、進路選択に関する情報を各学生のメインキャンパスにかかわらず均等かつ速やかに提供するため、電子メールや SNS、ホームページを活用した情報提供の充実を進めている。キャリア支援センターホームページは、ワンストップの支援体制を支える重要な柱のひとつとして位置づけており、平成 28 年度にリニューアルを計画している。

- (6) キャリア支援に関する専門的知見を高め、特にキャリア支援担当者としての資質を高める専門性開発を重視する。

平成 26 年度より学生相談・特別支援センター教授を副センター長として、相談員に対する研修・助言等を行い、相談体制の充実を図っている。

また、27 年度には、キャリア支援に関係する教職員のスキル向上を目的とするワークショップを実施した。3 テーマで 6 日程開催し、のべ 58 名の教職員が参加した。

(9)学生相談・特別支援センター

使命

「すべての学生がその学びと成長のプロセスにおいて、本学での経験から最大限の利益を引き出すことができるように、学生および大学コミュニティへの支援を行う」ことを目指して、大学教育の一環としての学生支援において核となる役割を担い、学生の人間形成の促進および大学の学生支援力の向上に寄与する。

事業内容及び活動状況

(1) 相談援助活動

来談学生（留学生を含む）への個別支援、教職員および家族へのコンサルテーション、来談者間の交流支援等

- 学生相談所への来談学生に対して個別面接を通しての支援を行っており、必要に応じて指導教員や事務職員と連携している。また、学生の生活指導に関連して教職員や学生の家族からの相談にも応じている。平成 27 年度の学生相談に対する個別支援：来談者数 665 名、対応回数 2992 回（川内南キャンパスでのキャリア・カウンセリング、雨宮および星陵キャンパスでの出張相談も含む）。
- 受付兼インターカーの職員が、待合室兼グループ室を居場所として利用している学生に対する働きかけや学生間の交流支援を行っている。こういった活動も学生が相談しやすい環境整備に有用であり、また相談業務の大きな支えになっている（平成 27 年度：利用者数延べ 283 名）。
- これまで実施してきた川内南キャンパスでのキャリア・カウンセリング、雨宮キャンパスでの出張相談に加え、平成 26 年 12 月から星陵地区での相談対応を開始し、各キャンパスとの相談業務の連携を図っている。川内南キャンパスでのキャリア・カウンセリング：来談者数 9 名、相談回数 11 回、雨宮キャンパスでの出張相談：来談者数 12 名、相談回数 46 回、星陵キャンパスでの出張相談：来談者数 14 名、相談回数 36 回。

(2) 特別支援活動

特別な支援を必要とする学生への対応策の調査および開発実践

- 入学時に配慮申請のあった学生や、修学面のつまづき等を契機に来談した学生について、特別な支援が必要と判断された場合、個別面接を行うと同時に、授業担当教員や教務事務職員と連携しつつ支援を行っている。また、学生への関わりや支援等に関する教職員・家族からの相談にも対応している。平成 27 年度：来談者 43 名、対応回数 1,618 回。
- 障害のある学生への個別支援、オープンキャンパス来場者のための情報保障、キャンパスバリアフリーマップの作成等のために、学生ピアサポーターの募集・養成を行っている。平成 28 年 2 月には学内外の講師陣による「学生サポーター養成講座」を開催し 17 名が受講した。
- 聴覚障害や視覚障害、肢体不自由の学生等の支援に関して、支援機器の整備・活用、設備・施設の改善等に部局と連携しつつ取り組んでいる。また、キャンパスのバリアフリー化に関するチェックを進めるほか、学生ピアサポーターの協力を得て、川内南キャンパスのバリアフリーマップを完成させた。
- 川内地区のバリアフリー化への対応を進めると共に、障害のある学生の支援及び特別支援室の活動に関するリーフレットを改訂して全教職員に配付し、それらの周知に努めた。
- 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領ワーキンググループ」の委員および事務局を務め、本学における「障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本的考え方及び留意事項」の作成及び「障害のある学生への配慮に関するガイドライン」の作成に取り組んだ。

(3) 予防・教育・広報活動

予防教育、全学 FD、部局オリエンテーション・パンフレット等での広報活動等

- 学生相談・特別支援センターのスタッフ全員の担当で、全学教育科目「学生生活概論—学生が会える学生生活の危機と予防」（全学教育・第 1 セメスター）を開講した。
- 全学 FD として、学生生活支援審議会 FD を年 4 回実施している。平成 27 年度は、ハラスメントに関するテーマ 2 回、障害学生支援に関するテーマ 1 回、学生支援の今日的課題に関するテーマ（特別支援の体

制整備、保健管理、キャリア支援）1回を実施した。SD（教務系職員実務研修）、部局FDにおいて、学生支援やハラスメント、障害学生支援に関するテーマでの講演を実施している（平成27年度：合計14回）。
 ○ 全新入生に対して学生相談・特別支援センターのリーフレットを配付して広報に努めると同時に、新入生特別セミナーや部局オリエンテーションにて学生相談・特別支援センターの利用案内等を行っている（平成27年度：合計18回）。また、メンタルヘルスやハラスメント防止、障害学生支援に関するテーマで、部局と連携した学生対象の講演会を実施している（平成27年度：6回）。
 ○ 工学部・工学研究科の学生支援連絡会議、理学部・理学研究科のキャンパスライフ支援室連絡会議に出席し、部局の学生相談・学生支援担当部署との連携を図った。

（4）調査・研究活動教育活動

学生相談および特別支援の実践法および学生支援活動に関わる研究

○ 震災の心身への影響や大学生活への適応の把握を目的とした全学生対象調査を実施し、結果に応じて個別支援につなげた。平成27年度：調査の回答者数10,488名（回収率58.3%）、そのうちのPTSDハイリスク群346名。また、震災ボランティアに関わる学生の心理的ケアに関する調査研究を行った。

（5）大学としての学生支援施策および危機管理への提言

学内委員会等を通じた提案、ハラスメント全学学生相談窓口における相談対応

○ センター教員は、学生生活支援審議会、G3実施員会、男女共同参画委員会、東日本大震災学生ボランティア活動支援運営委員会、ハラスメント全学防止対策委員会専門委員会の委員を務めている。
 ○ ハラスメント全学学生相談窓口相談員として、来談者への個別支援等を行っている。平成27年度：相談件数20件、対応回数107回。

（6）他大学の学生支援活動との連携および地域連携

他大学等における講演、学生相談・特別支援担当者間の研究会の実施

○ 他大学等の依頼を受け、FD等においてハラスメントや障害学生支援に関する講演を実施した（平成27年度：7回）。また、第52回全国学生相談研修会の講師、第49回全国学生相談研究会議の委員を務めた。
 ○ 仙台学生相談事例研究会、第6回発達障害学生修学支援体制構築に関する合同研究協議会、みやぎ学生相談連絡協議会に出席した。
 ○ 仙台市自殺防止対策連絡協議会の委員を務め、仙台市における自殺対策推進に寄与している。

(10)保健管理センター

使命

保健管理に関する専門的業務及び保健管理についての専門的調査，研究を行い，本学における学生の健康教育及び健康の保持，増進を図ることを目的とする。

事業内容及び活動状況

(1) 保健業務の実行についての企画，立案

- 1) 定期健康診断の企画・実施
- 2) 特殊健康診断（放射線取扱学生特殊健康診断，有機溶剤特定化学物質取扱学生特殊健康診断，VDT 作業従事学生特殊健康診断，結核検診）の企画・実施
- 3) 健康科学セミナーの企画・実施
- 4) 健康科学講演会の企画・実施
- 5) 禁煙外来の企画・実施

(2) 保健管理についての専門的調査，研究

- 1) 学生の尿検査異常からみた改善すべき生活習慣の推測
- 2) 若年化の進む心血管病発症年齢の新しい機序解明と予防法の開発
- 3) ライフスタイルと肥満・高血圧・喫煙習慣の関連
- 4) 学生の難病に関する病因・病態・治療に関する研究

(3) 健康教育に関する専門的業務

- 1) 宮城県内の大学保健施設教職員を対象とした「健康科学セミナー」を4回実施。（第1回：保健管理に関わる最近の話題（木内），第2回：双極性障害について（伊藤），第3回：肥満，糖尿病における尿酸性化のメカニズムとその病的意義（小川），第4回：歯と口に関する健康（北））
- 2) 全学教育「体と健康Ⅱ」
- 3) 健康科学講演会「喫煙と心血管疾患」（佐藤）

(4) 健康診断及びその事後措置

- 1) 定期健康診断を4～5月に実施（受診率 75.2%），事後措置を必要とした学生は 1,887 名であった。事後処置として精密検査及び健康教育，さらに必要に応じて大学病院などへ紹介を行った。
- 2) 6・12月に放射線取扱学生特殊健康診断，7・11月に有機溶剤・特定化学物質取扱学生特殊健康診断，10月に VDT 作業従事学生特殊健康診断，11月に結核検診を実施。特殊健診1名で加療を要する学生を認めた。
- 3) 健康診断証明書の発行

(5) 5保健室（川内地区，片平地区，星陵地区，青葉山地区，雨宮地区）における健康相談，メンタルヘルスケア及び救急措置

- 1) 川内地区では，月～金の午前・午後に医師による健康相談，救急措置を実施し，火・木・金の午前・午後に精神科医師によるメンタルヘルスケア，火・金の午前と月の午後に歯科医師による健康相談，月～金の午前・午後に管理栄養士による栄養相談を実施した。また，片平地区では金の午後，星陵地区では木の午後，青葉山地区では火の午後，雨宮地区では月・水の午後に医師による健康相談，救急措置を実施した。

(6) 学内の環境衛生及び感染症予防の措置についての指導援助

- 1) 中東呼吸器症候群・ジカ熱に関する注意喚起の掲示を行った。
- 2) 大学寮における小児ウイルス感染症対策，ウイルス性胃腸炎対策を行った。

(7) その他健康の保持，増進についての必要な専門的業務

- 1) 東北大学の結核対策について検討した。
- 2) 各種大学行事への医師・看護師の派遣・対応（各種入学試験，入学式，新入生オリエンテーション，北雄杯駅伝大会，オープンキャンパス，キャリア就職フェア，学位授与式，大学祭，深夜マラソンなど）
- 3) 「保健のしおり」の発行
- 4) 第 53 回全国保健管理東北地方研究集会を主管校として開催した。

(11)課外・ボランティア活動支援センター

使命

本学学生の社会性を涵養し、主体的な問題解決能力を備えた指導的人材を育成するために、学生の自主的な課外・ボランティア活動を総合的に支援するとともに、社会貢献型の体験学習を実施し、学生の心身の健康増進に寄与する。

事業内容及び活動状況

(1) 本学学生の自主的な課外活動、文化やスポーツ・ボランティア活動の総合的な支援

平成 27 年度に本学学生の自主的なボランティア活動の支援として、以下を実施した。

【スタートアップフェア】

学外・学内のボランティア団体がブース出展し、東北大学生を対象にボランティア活動の説明会を開催し、東北大学生の自主的なボランティア活動への参加を促す取り組みとして「スタートアップフェア」を開催した。

主に新入生を対象として、東北大学川内北キャンパス等を会場として 4 月に 6 回、6 月に 3 回、10 月に 2 回、1 月に 1 回、2 月 1 回、おのおの開催し、合計で延べ 307 名の参加を得た。

【スタディツアー、ボランティアツアーの実施】

東北大学生に東日本大震災被災地とそこでのボランティア活動に関心を持ってもらうことを目的とした「スタディツアー」および、実際に被災地でのボランティア活動を行ってもらう「ボランティアツアー」を 55 回実施し、延 666 名の東北大学生が参加した。

【学生アシスタントグループの育成】

東北大学のボランティア活動を促進する事業を支援する、ボランティア(無償)の学生アシスタントグループ「東北大学東日本大震災ボランティア支援室学生スタッフ SCRUM」の育成を行った。週 1 回のペースでアシスタントとの会議を実施し、上記の各取組についての企画立案から実施支援まで学生アシスタントの助力を得て行っている。学生アシスタントグループにより、オープンキャンパスや東北大学祭等で、東北大学生のボランティア活動を紹介する展示等の企画を実施した。

平成 27 年度、本学学生の自主的な課外活動の支援として、以下を実施した。

自主的な課外活動の各種支援は、教育・学生支援部学生支援課活動支援係ならびに支援企画係の事務職員 6 名が中心に実施している。また、これら支援に関わる諸判断は、学生生活支援審議会、学友会等々の全学的教員を含む組織委員会を通してなされている。主な支援について以下に記した。

【学生団体への登録ならびに説明会の開催】

今年度の学友会団体は、全 169 団体、約 9,000 名の総数の学生から、団体継続・新規実施届を受付、これら団体の自主的な活動支援を行った。また、10 月 22 日には、全ての届出のなされた団体の代表者に対する説明会を開催し、当日、143 団体の代表者ならびに顧問教員が参加し、課外活動時における様々な注意喚起を行った。

【七大戦の開催支援】

平成 27 年度は本学が七大戦の主管大学となり、平成 26 年 12 月から冬季競技、平成 27 年 6 月から夏季競技が開催された。学生が主体となり 43 種目(応援団演舞を含む)の運営を行ったが、大学として関係する種々のサポート(総長等役員が出席する開会式の会場確保、連絡調整、競技運営にあたり消耗品及び会場使用料の補助、運営担当学生への指導助言)を行った。なお、七大戦総合優勝の結果となり、3 連覇を果たした。

【新歓および大学祭の支援】

平成 27 年度の新入生歓迎行事ならびに大学祭においては、それぞれ学生の自主的な実行委員会が組織され運営は全て学生に任されているが、それら運営を指導・サポートする教職員による体制を構築し支援を行ってきた。大学祭では、延べ 28,000 名の来場者(大学祭実行委員会報告)があり、無事、成功裏に終えることができた。

以上、学生の正規な課外活動の支援を通して、主体的に活動できる強い人材育成にも貢献している。

(2) 東日本大震災被災地復興および地域社会・国際社会に貢献し得る人材の育成を目的とした、社会貢献型の体験学習（サービスマーケティング）の企画・実施

東日本大震災被災地復興および地域社会・国際社会に貢献し得る人材の育成を目的として、正課授業や復興大学人材育成コース、TGL プログラム等と連携し、社会貢献型の体験学習（サービスマーケティング）の企画・実施を以下の通り行った。

【基礎ゼミ「地域復興とボランティア」の開講】

センター専任教員により基礎ゼミ「地域復興とボランティア」（前期、受講生 20 名）と連携し、受講生を 4 班に分け、各班に前述のスタディツアーないしボランティアツアーの企画を立案・実施させるとともに、報告書（500 部）を作成した。

【全学教育科目「震災復興とボランティア活動」との連携】

経済学研究科・西出優子准教授による全学教育科目「震災復興とボランティア活動」（後期・受講生 20 名）と連携し、支援センタースタッフも講師を務めた他、授業の一環として受講生に対して実際のボランティア活動を紹介し、報告書（500 部）を作成した。

【TGL プログラムとの連携】

上記基礎ゼミ「地域復興とボランティア」を東北大学グローバル人材育成プログラム（TGL）に提供し、TGL「スペシャルポイント」を認定した。申請者は 6 名、認定者は 5 名である。

【留学生を主要対象とするボランティアツアーの実施】

ビジョン経費を活用し、留学生向けの説明会およびツアーをグローバルラーニングセンターと連携して実施し、国際共修の機会とした。参加者は 48 名（うち留学生 36 名）であった。

(3) 国内外の大学との課外・ボランティア活動における交流・連携の促進

国内外の大学との課外・ボランティア活動における交流・連携の促進として、以下を実施した。

【海外ベイラー大学被災地訪問プログラムの受入れ】

ベイラー大学（アメリカ、1 日間）、あしなが育英会海外インターンシップ 2 件（のべ 6 日間）、ガジャ・マダ大学（インドネシア、1 日）、メリーランド大学（アメリカ、1 日）の被災地訪問プログラムをコーディネートするとともに、本学学生との交流の場を設けた。のべ 135 名の海外学生等が参加した。

【国内複数大学によるスタディツアー】

- ・多大学によるスタディツアーとして 3 泊 4 日のツアーおよびシンポジウムを主催し、12 名の参加を得た。
- ・福島大学との交流会を開催し、本学学生 14 名・福島大学生 10 名の参加を得た。
- ・他大学等での研修に学生を派遣した。具体的には、大阪での他大学との交流・研修会 1 名、神戸大学での研修 3 名、岩手大学での研修 2 名、合計 3 件である。

Ⅲ 平成 27 年度の機構全体の活動

1. 機構主催のシンポジウム・研究会・セミナー等

No.	開催日	事業名	参加者数
高等教育のリテラシー形成関連			
1	2015 5.15	第22回東北大学高等教育フォーラム（新時代の大学教育を考える [12]）「大学入試改革にどう向き合うか—中教審高大接続答申を受けて—」 基調講演1「中教審高大接続答申を読む—大学入試改革を着実に実現するために—」 土井 真一（京都大学大学院法学研究科 教授） 基調講演2「国立大学の入試改革の歴史と展望」 川嶋 太津夫（大阪大学未来戦略機構 教授） 現状報告1「高校現場から見た大学入試改革」 浜田 伸一（福島県立福島高等学校 教諭） 現状報告2「大学入試改革モデルとしての『東北大学型 AO 入試』」 倉元 直樹（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	355
2	2015 7.9	『『しまった!!』とならないために—ICT 時代の教育で押さえておきたい法』 講師：三石 大（東北大学教育情報基盤センター 准教授） 金谷 吉成（東北大学大学院法学研究科 准教授）	28
3	2015 8.2	「大学教育改革のトレンドと日本が目指すべき 21 世紀の学士課程教育像」 講師：小笠原 正明（北海道大学 名誉教授）	36
4	2015 8.25	「授業デザインとシラバス作成」 講師：串本 剛（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	26
5	2015 9.10	「学習と教育の科学：日本の子どもの数学的・科学的リテラシーはどう高まるか —国際比較から」 講師：藤村 宣之（東京大学大学院教育学研究科 教授）	29
6	2015 9.16	「授業づくり：準備と運営」 講師：呂本 俊亮（東北大学災害科学国際研究所 教授）	25
7	2015 10.12	「質の高い学生の学びを実現する大学教授法 ～ヘルシンキ大学・東北大学共催セミナー」 ワークショップ「質の高い学生の学びを実現する大学教授法」 Sari Lindblom-Ylänne（ヘルシンキ大学 教授） 「ヘルシンキ大学の大学教育学プログラムおよびセンターの活動」 櫻井 勇介（東京大学 特任助教）	14
8	2015 12.19	「学びの深化と学習の評価 —パフォーマンス評価を中心に—」 講師：松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター 教授）	53
9	2016 1.9	「日本の高等教育政策」 講師：羽田 貴史（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授）	69
10	2016 1.10	「世界の高等教育」 講師：杉本 和弘（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授）	54
専門教育での指導力形成関連（各専門分野）			
11	2015 4.27	研究倫理ワークショップ「科学の健全な発展のための責任体制の構築へ向けて」 講演1「研究不正防止の動向と新ガイドライン」 中村 征樹（大阪大学全学教育推進機構 准教授） 講演2「外国の失敗から学ぶ研究倫理構築の課題」 市川 家國（信州大学医学部 特任教授） 講演3「RCR 教育の目的と方法」 札幌 順（金沢工業大学基礎教育部 教授） 講演4「論文不正をめぐる具体的なケースから」 山崎 茂明（愛知淑徳大学人間情報学部 教授）	63

No.	開催日	事業名	参加者数
12	2015 6.22	研究倫理シリーズ 第3回「盗用と言われない英語論文の執筆 ―大学教員は何を指導すべきか」 講師：吉村 富美子（東北学院大学文学部 教授）	34
13	2015 6.29	「Second language acquisition theory and language pedagogy ―第二言語習得論と外国語教育―」 講師：Rod Ellis（ニュージーランド オークランド大学 教授）	65
14	2015 7.25-26	専門教育指導力育成プログラム 「大学英語教育法強化講座：英語を教える大学教員のためのスキルアップコース ―インタラクティブな教授法で英語力を向上させる」 基調講演「The Plurilingual Principle and the Innovation of English Education in Japan」 吉田 研作（上智大学言語教育研究センター長） ワークショップ Todd Enslen（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師） Daniel Eichhorst（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師） Ben Shearon（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師）	42
15	2015 8.4	「体育を通して見る人間教育」 講演1「体育科教育において育成される人間の能力 ―小・中学校の授業研究の事例から―」 木原 成一郎（広島大学大学院教育学研究科 教授） 講演2「大学設置基準大綱化後の大学体育の現状と課題」 小林 勝法（文教大学国際学部 教授） 事例報告1「東京大学における体育を通じた教養教育」 大築 立志（東京大学 名誉教授） 事例報告2「京都大学における保健体育教育を通じた人間教育 ―自己信頼性と社会的交流性を育てる健康教育・スポーツ教育の実践―」 田中 真介（京都大学国際高等教育院 准教授） 事例報告3「愛媛大学における体育授業改革の取り組みと現状」 浅井 英典（愛媛大学教育学部 教授）	51
16	2015 9.1-10	専門教育指導力育成プログラム 「大学中国語教育法強化講座：中国語を教える大学教員のためのスキルアップコース（海外集中コース，1週間）」 場所：東北大学東京分室・北京語言大学	21
17	2015 10.26	専門教育指導力育成プログラム 「数理科学教育の新たな展開 ―文系基礎学・市民的教養としての数理科学」 報告1「日本の数理科学教育の現状と課題」 長崎 栄三（国立教育政策研究所 名誉所員） 報告2「大学における統計科学・データサイエンス教育の課題と展望」 渡辺 美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科 教授） 報告3「教育学教育の課題 ―エビデンスを支える教育測定学から―」 柴山 直（東北大学大学院教育学研究科 教授） 報告4「社会学における数理科学教育の現状と課題」 盛山 和夫（関西学院大学社会学部 教授） 報告5「経済学と数理科学教育の課題」 秋田 次郎（東北大学大学院経済学研究科 研究科長） 報告6「大学教育における数理科学教育の現状と課題」 宇野 勝博（大阪大学大学院理学研究科 教授）	65
18	2015 11.26	「Classroom English : Expressions」 講師：Todd Enslen（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師）	22

No.	開催日	事業名	参加者数
19	2015 12.3	「コーチングを活用した院生指導」 講演「コーチングを活用した院生指導」 出江 紳一（東北大学大学院医工学研究科長） ワークショップ 倉重 知也（株式会社コーチ・エィ）	36
20	2015 12.11	「Classroom English : Pronunciation」 講師：Vincent Scura（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師）	17
学生支援力形成関連			
21	2015 9.30	「高等教育機関における障害学生教育・支援の体制整備を考える」 講演 1「九州大学における障害学生支援の実践と課題」 田中 真理（九州大学基幹教育院 教授） 講演 2「京都大学における障害学生支援の実践と課題」 村田 淳（京都大学学生総合支援センター 助教） 講演 3「東北大学における障害学生支援の実践と課題」 池田 忠義（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授） 長友 周悟（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師） ワークショップ 吉武 清實（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教授）	37
マネジメント力			
22	2015 7.4	「若手職員のための大学職員論(4)－『つながり』のススメー」 コーディネーター：川面 きよ（大学コンソーシアム京都 専門研究員）	20
23	2015 8.1	「データ分析・解釈の技法」 講師：串本 剛（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	30
24	2015 8.2	「大学における教育マネジメントと質保証」 講師：大森 不二雄（首都大学東京大学教育センター 教授）	35
25	2015 9.5	「組織のパフォーマンスを向上させるマネジメント」 講師：藤本 雅彦（東北大学大学院経済学研究科 教授）	29
26	2015 9.18 10.16 12.4	「東北大学職員のための『大学変革力』育成講座（3回シリーズ）」[学内限定] 第1回目「ワークショップⅠ」 第2回目「ワークショップⅡ」 第3回目「企画提案会議」	12
27	2015 11.16	IDE 大学セミナー 「地域のグローバル化と外国人留学生 ～大学と社会のできること～」 基調講演「留学生の社会統合と頭脳循環ー日本とドイツの場合ー」 佐藤 由利子（東京工業大学 准教授） 講演 1「外国人留学生支援の取り組みに関する課題」 大泉 常長（青森中央学院大学 准教授） 講演 2「外国人留学生の日本における就職支援の課題と企業の取り組み事例」 田籠 喜三（株式会社TAGS 代表取締役社長） 講演 3「外国人留学生から見た大学と地域への期待」 沈 悠然（仙台地区中国学生学者友好联谊会 会長）	55

No.	開催日	事業名	参加者数
28	2015 11.23	国際シンポジウム「変貌する高等教育におけるアカデミック・リーダーシップ」 基調講演「なぜアカデミック・リーダーシップを問うのか」 杉本 和弘（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授） 講演1「高等教育におけるアカデミック・リーダーシップと現在の課題：オーストラリアの視点から」 Peter McPhee（メルボルン大学 名誉教授／元筆頭副学長） 講演2「英国高等教育リーダーシップ財団—リーダーシップを鼓舞し改革を促すために」 Doug Parkin（高等教育リーダーシップ財団(英) プログラム・ディレクター） 講演3「優良な大学を目指すためのアカデミック・リーダーシップ：台湾における経験」 郭 鴻基（国立台湾大学 研究担当副学長） 講演4「日本の大学ガバナンスとアカデミック・リーダーシップ」 金子 元久（東京大学 名誉教授） 討議 Discussant Richard James（メルボルン大学 学術担当副学長）	74
29	2015 12.19	「データを活用した教育改善へのステップ」 講演「データを活用した教育改善へのステップ」 鳥居 朋子（立命館大学教育開発推進機構 教授） ワークショップ 川那部 隆司（立命館大学教育開発推進機構 准教授）	38
30	2016 1.9	「私立大学のガバナンスの課題と展望 —地方中・小私学の可能性を考える」 講師：合田 隆史（尚綱学院大学長）	63
31	2016 1.10	「国立大学のガバナンスとリーダーシップ」 講師：吉武 博通（筑波大学大学院ビジネス科学研究科 教授）	49
32	2016 2.27	「若手職員のための大学職員論(5) —先達の『一皮むけた経験』に学ぶ— 話題提供1 江島 定人（九州大学学務部長） 話題提供2 伊丹 信祐（尚綱学院大学政策企画室 室長補佐） 話題提供3 青木 加奈子（高崎経済大学研究グループ研究支援チーム） 話題提供4 川面 きよ（東北大学高度教養教育・学生支援機構 特任講師）	32
正午 PD 会			
33	2015 4.15	正午 PD 会 第12回「東北大学と私、そして高度教養教育・学生支援機構」 講師：花輪 公雄（東北大学高度教養教育・学生支援機構長）	42
34	2015 4.23	正午 PD 会 第13回「高等教育研究者の作られ方—『評価』をネタにした若手の一事例— 講師：串本 剛（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	24
35	2015 5.13	正午 PD 会 第14回「SDP をデザインする」 講師：稲田ゆき乃（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教育研究支援者） 杉本 和弘（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授）	24
36	2015 5.22	正午 PD 会 第15回「大学入試改革モデルとしての東北大学の入試設計」 講師：倉元 直樹（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	22
37	2015 6.12	正午 PD 会 第16回「大学における初修中国語学習のためのブレンディッドラーニングの開発と実践」 講師：趙 秀敏（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師）	16
38	2015 7.7	正午 PD 会 第17回「留学生と日本人学生の共生 —国際共修授業で双方が言語の壁を乗り越える方策— 講師：宮本 美能（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	17

No.	開催日	事業名	参加者数
39	2015 7.21	正午 PD 会 第 18 回『『Global Education and Skills Forum 2015』からの課題と学び』 講師：Ben Shearon（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師）	15
40	2015 10.9	正午 PD 会 第 19 回「大学におけるメンタルヘルスマネジメント」 講師：伊藤 千裕（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授）	12
41	2015 10.19	正午 PD 会 第 20 回『『B2 英語コミュニケーション』カリキュラムにおけるプレゼンテーションとディスカッションスキルの統合～21 世紀のグローバルな舞台での活躍のために～』 講師：Richard Meres（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師）	12
42	2015 11.12	正午 PD 会 第 21 回「開発途上国援助と大学の貢献」 講師：熊代 輝義（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授）	8
43	2015 11.24	正午 PD 会 第 22 回「Richard JAMES 教授に聞くー研究・教育・マネジメントの軌跡ー」 講師：Richard James（メルボルン大学 学術担当副学長）	17
44	2015 12.9	正午 PD 会 第 23 回「草の根からの日中友好～仙台における中国人留学生の学友会～」 講師：張 立波（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師） 趙 秀敏（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師） 沈 悠然（東北大学大学院国際文化研究科 修士 2 年） 董 雅楠（東北大学大学院経済学研究科 修士 2 年）	13
45	2015 12.18	正午 PD 会 第 24 回「東北大学・ノースカロライナ大学間のスカイプ・パートナー・プログラム：その成果と可能性をめぐって」 講師：Ryan Spring（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師） 加藤 富美江（ノースカロライナ大学シャーロット校） 森 千加香（ノースカロライナ大学シャーロット校）	17
46	2016 1.29	正午 PD 会 第 25 回「本学における学生相談の現状」 講師：佐藤 静香（東北大学高度教養教育・学生支援機構 助手）	15
健康科学セミナー			
47	2015 10.27	2015 年度第 1 回健康科学セミナー 「保健管理に関わる最近の話題」 講師：木内 喜孝（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授） 北 浩樹（東北大学高度教養教育・学生支援機構 助教）	12
48	2015 11.24	2015 年度第 2 回健康科学セミナー 「双極性障害について」 講師：伊藤 千裕（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授）	16
49	2015 12.15	2015 年度第 3 回健康科学セミナー 「肥満、糖尿病における尿酸性化のメカニズムとその病的意義」 講師：小川 晋（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	12
50	2016 2.2	2015 年度第 4 回健康科学セミナー 「歯と口に関する健康」 講師：北 浩樹（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	11
その他			
51	2015 11.26	高度教養教育・学生支援機構 国際セミナー「多様な大学生と教育の質保証 -グローバル化時代における大学のあり方 メルボルン大学／東北大学-」 講演 “Curriculum reform in Australian universities: Management for internationalization” Peter McPhee（メルボルン大学 名誉教授／元筆頭副学長） 指定討論 1 山口 昌弘（東北大学 総長特別補佐（国際交流）） 指定討論 2 小笠原 正明（北海道大学 名誉教授）	35

2. 刊行物一覧

発行年月	発 行	刊 行 物 名
2015.3	高度教養教育・学生支援機構	東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要 第1号 2015
2015.9	高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report 60 第22回東北大学高等教育フォーラム／新時代の大学教育を考える [12]報告書 大学入試改革に どう向き合うかー中教審高大接続答申を受けてー
2015.10	学務審議会 高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report 61 「第9回東北大学全学教育FD」報告書
2016.2	高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report 62 東北大学 高度教養教育・学生支援機構 高度教養教育諮問会議報告書 2015
2016.3	学務審議会 高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report 63 「第9回東北大学基礎ゼミFD・ワークショップ」報告書
2016.3	IDE 大学協会東北支部 高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report 64 平成27年度IDE 東北支部 IDE 大学セミナー／第23回東北大学高等教育フォーラム 報告書 平成27年度IDE 大学セミナー「地域のグローバル化と外国人留学生ー大学と社会のできることー」
2016.3	高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report 65 数理科学教育シンポジウム報告書
2016.3	学務審議会 高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report 66 「第10回東北大学全学教育FD」報告書
2016.3	高度教養教育・学生支援機構	PD ブックレット Vol.7 「ディスカッションが英語授業を変える」 Preparation / Discussion / Reaction Method Handbook

3. 教員の活動（平成27年4月～平成28年3月の主な活動）

所 属	職 名	氏 名	備 考
機構長	東北大学理事	花 輪 公 雄	
副機構長	教 授	羽 田 貴 史	
副機構長	工学研究科教授	安 藤 晃	
教育評価分析 センター (Center for Institutional Research)	センター長/教授	関 内 隆	
	副センター長/教授	杉 本 和 弘	
	准教授	串 本 剛	
	准教授	猪 股 歳 之(兼)	
	特任講師	川 面 き よ	
大学教育支援 センター (Center for Professional Development)	センター長/副機構長/教授	羽 田 貴 史	
	副センター長/教授	杉 本 和 弘	
	講 師	今 野 文 子	
入試センター (Admission Center)	センター長/国際文化研究科教授	鈴 木 道 男	
	副センター長/教授	石 井 光 夫	
	教 授	鈴 木 敏 明	
	教 授	倉 元 直 樹	
言語・文化教育 センター (Center for Culture and Language Education)	センター長/副機構長/工学研究科教授	安 藤 晃	
	副センター長/教授	北 原 良 夫	
	教 授	上 原 聡	
	教 授	佐 藤 勢 紀 子	
	教 授	吉 本 啓	
	教 授	橘 由 加	
	准教授	菅 谷 奈 津 恵	
	准教授	副 島 健 作	
	准教授	中 村 渉	
	講 師	ダニエル・アイコースト (Daniel EICHHORST)	
	講 師	トッド・エンズレン (Todd ENSLEN)	
	講 師	鎌田 ローレル (Laurel KAMADA)	
	講 師	ベン・シャーロン (Ben SHEARON)	
	講 師	ビンセント・スクラ (Vincent SCURA)	
	講 師	ジョセフ・スタボイ (Joseph STAVOY)	
	講 師	ライアン・スプリング (Ryan SPRING)	
	講 師	リチャード・メレス (Richard MERES)	
	講 師	バリー・カヴァナ (Barry KAVANAGH)	
	講 師	張 立 波 (チョウ・リツハ)	
	講 師	趙 秀 敏 (チョウ・シュウビン)	
	講 師	金 鉉 哲 (キム・ヒョン Chol)	
	講 師	セシリア・シルバ (Cecilia SILVA)	
	講 師	ベルント・シャハト (Bernd SCHACHT)	
	講 師	ベルトラン・ソゼド (Bertrand SAUZEDDE)	
グローバルラーニング センター (Global Learning Center)	センター長/理学研究科教授	山 口 昌 弘	
	副センター長/教授	粕 壁 善 隆	
	副センター長/教授	末 松 和 子	
	教 授	熊 代 輝 義	
	教 授	フランク・ハンセン (Frank HANSEN)	
	特任教授	渡 邊 由 美 子	
	准教授	ノルボシン・ザンペイソフ (Nurbosyn ZHANPEISOV)	
	准教授	イゴール・トルシン (Igor TRUSHIN)	
	准教授	マルタン・ロベール (Martin ROBERT)	
	准教授	高 橋 美 能	
	准教授	富 田 真 紀	
	准教授	島 田 和 久	
	特任准教授	田 口 香 織	
	講 師	島 崎 薫	
	助 手	水 松 巳 奈	

所 属	職 名	氏 名	備 考
学際融合教育推進 センター (Center for Interdisciplinary Studies and Education)	センター長/副機構長/教授	羽 田 貴 史	
	副センター長/教授	芳 賀 満	
	総長特命教授	森 田 康 夫	
	総長特命教授	工 藤 昭 彦	
	総長特命教授	野 家 啓 一	
	総長特命教授	吉 野 博	
	総長特命教授	座小田 豊	
	総長特命教授/医学系研究科教授	山 口 隆 美	
	教 授	関 根 勉	
	准教授	葛 生 政 則	
	准教授	田 嶋 玄 一	
	准教授	藤 本 敏 彦	
	講 師	中 川 学	
	助 教	高 橋 禎 雄	
	助 教	太 田 宏	
	助 教	岡 壽 崇	
	助 教	小 俣 乾 二	
	助 教	福 谷 圭 祐	
	助 教	武 藤 潤	
	助 教	中 山 耕 輔	
	助 教	大 下 慶次郎	
学習支援センター (Center for Learning Support)	センター長/教授	関 根 勉	
	副センター長/講師	中 川 学	
	助 手	足 立 佳 菜	
	助 手	鈴 木 学	
キャリア支援センター (Center for Career Support)	センター長/副機構長/教授	羽 田 貴 史	
	副センター長/理学研究科教授	松 澤 暢	
	副センター長/教授	吉 武 清 實	
	客員教授	若 林 利 男	
	特任教授	田 中 泰 光	
	准教授	猪 股 歳 之	
	准教授	高 橋 修	
	特任准教授	富 田 京 子	
学生相談・特別支援 センター (Center for Counseling and Disability Services)	センター長/副機構長/工学研究科教授	安 藤 晃	
	副センター長/教授	池 田 忠 義	
	教 授	吉 武 清 實	
	准教授	中 島 正 雄	
	助 手	佐 藤 静 香	
	特任助教	松 川 春 樹	
	講 師	長 友 周 悟	
	助 手	佐々木 真 理	
保健管理センター (Student Health Care Center)	センター長/教授	木 内 喜 孝	
	副センター長/准教授	小 川 晋	
	教 授	伊 藤 千 裕	
	准教授	佐 藤 公 雄	
	助 教	石 田 晶 玄	
	助 教	遠 藤 克 哉	
	助 教	嘉 数 英 二	
	助 教	北 浩 樹	
	助 教	玉 井 ときわ	
	助 教	中 西 史	
	助 教	山 本 沙 織	
課外・ボランティア 活動支援センター (Center for Service Learning and Extracurricular Activities)	センター長/経済学研究科教授	小田中 直 樹	
	副センター長/医工学研究科教授	永 富 良 一	
	特任准教授	藤 室 玲 治	

羽田 貴史 教授

〔専門分野〕 高等教育論

〔教育活動〕

授業担当：学際融合教育科目「アジアを知ろう、感じよう」の企画に参加

その他：1) 東京大学教育学研究科講演、「研究倫理をめぐる世界の動向と日本の課題」（教職員・大学院生を対象）、2015年7月8日、2) 東北大学文系4研究科FD講演、「研究倫理の確立と東北大学の課題」（教職員・大学院生を対象）2015年7月22日、3) 玉川大学講演会、「研究倫理と管理責任」（教職員・大学院生を対象）、2015年8月18日、4) 東北大学歯学研究科研究倫理セミナー講演「責任ある研究活動を進めるために」（教職員・大学院生を対象）2015年9月2日、5) 東北大学生命科学研究科研究倫理講習会「責任ある研究活動を進めるために」（教職員・大学院生を対象）2015年12月21日

〔研究活動〕

研究業績：1) (単著)「巻頭言 グローバル人材は、大学教育の目標足りうるか？」『東北大学全学教育広報 曙光』No.39、3-5頁、2015年4月、2) (司会)「座談会 戦後70年の私立大学の歴史、はたしてきた役割を振り返る」『大学時報』No.363、2015年7月、3) (編著)『報告書 年俸制教員の業績評価の在り方に関する調査研究』国立大学協会政策研究所、研究代表、1-2頁、2015年7月、4) (編著)『もっと知りたい大学教員の仕事 大学を理解するための12章』、ナカニシヤ出版、全256頁、1-17頁、211-224頁、255-246頁、2015年12月25日、5) (単著)「高等教育大衆化での研究大学の役割－研究と教育を統合した高大接続の展開－」『大学教育』13-1、大阪市立大学大学教育研究センター、41-56頁、2015年10月、6) (単著)「教育活動の組織化と分業化－教育・学修支援専門職の可能性」『ALPSブックレットシリーズ』Vol.1、千葉大学アカデミック・リンク・センター、20-35頁、2016年3月

講演等：1) (依頼報告)「統合的専門職として大学教員をどう育てるか『国際連携を活用した大学教育力開発の支援拠点』の視線とPFFP」、大学教育学会第37回大会ラウンドテーブル報告、長崎大学、2015年6月6日、2) (招待講演)「責任ある研究活動 (Responsible Conduct of Research) と日本の課題」、日本社会学会 早稲田大学、2015年9月19日、3) (招待講演)「東北大学におけるRCR体制の整備と教育」、日本機械学会2015年度年次大会、北海道大学、2015年9月13日、4) (基調講演)RIHE第43回研究員集会、「大学の統合・連携とガバナンス：地域分散、適正規模、機能分化の在り方を巡って」、広島大学、2015年11月3日

科研費：「グローバル社会におけるコンピテンシーを育成する高度教養教育カリキュラムの開発研究」(基盤研究(A)2014～2017)

〔大学運営〕

大学運営：1) 総長特別補佐(研究倫理担当)及び公正な研究推進委員会副委員長、同専門委員会委員長として、文科省ガイドラインの制度化に務めた。2) 教育研究評議員として全学の運営に参加した。

全学委員会：学務審議会委員、同評価・改善委員会委員、学術資源研究公開センター運営専門委員会史料館部会委員を務めた。

部局内委員会等：高度教養教育・学生支援機構副機構長及び機構長補佐会議メンバーとして高度教養教育・学生支援機構の運営に参加したほか、大学教育支援センター長、キャリア支援センター長、学際融合教育推進センター長を務め、教育関係共同利用拠点事業の運営を行った。

〔業務活動〕

大学教育支援センター長として、教育関係共同利用拠点事業の実施に責任を持つとともに、再申請し、採択された。

〔社会貢献〕

各種委員等：1) 国立大学協会調査企画会議委員、政策研究所委員として活動し、委嘱研究「大学のコンプライアンスの在り方に関する調査研究」(平成27年7月22日～28年3月31日)に参加し調査研究を行った。2) 同事業委員会研修小委員会委員として、学長マネジメント研修の企画・運営に参加した。3) 文部科学省先導的大学改革推進委託事業審査委員として審査を行った。4) 公正研究推進協会(APRIN)の発足に参加し、理事となった。5) 日本私立大学高等教育研究所研究員を務めた。6) 大学基準協会高等教育の在り方研究会委員を務めた。7) IDE東北地区セミナー実行委員を務めた。

学会活動：日本高等教育学会理事、大学教育学会理事、同常任理事、同学会課題研究候補選定委員会委員長、日本教育社会学会理事を務めた。

国際交流活動：大学教育支援センター長として、「国際連携を活用した大学教育力の開発支援拠点」教育関係共同利用拠点活動を進め、アメリカ(UCバークレー)、オーストラリア(メルボルン大学)、カナダ(クィーンズ大学)と連携し、大学教員を目指す大学院生をメルボルン大学及びUCバークレーに派遣した。

社会教育活動：次の講演を行った。1) 全国大学教育研究センター等協議会報告、「教員の統合的専門能力と組織マネジメント力の開発を目指して－東北大学の教育関係共同利用拠点構想－」、筑波大学、2015年8月26-27日、2) 平成27年度公立大学職員研修会講演、教育改革と大学の未来、2015年8月28日、3) 「教育活動の組織化と分業－教育・学修支援専門職の可能性」、千葉大学ALPSプログラムキックオフシンポジウム 教育・学修支援専門職の確立に向けて、講演、2015年12月7日(千葉大学)、4) 東北大学 大学教育支援センターPDプログラム(PDP/LAD)「日本の高等教育政策」、講演、2016年1月9日、5) シンポジウムFDの実質化に向けた協力体制の構築、報告「東北大学の事例」、2015年2月12日(北海道大学)

関内 隆 教授

【専門分野】 西洋近代史・高等教育論

【教育活動】

授業担当：全学教育では基幹科目「歴史と人間社会」2 コマ、「基礎ゼミ」「歴史学」「カレントトピックス（展開ゼミ）」「復興の思想」各 1 コマの合計 6 コマ（いずれも代表）を担当。

大学院教育（学部専門教育）では文学研究科において欧米近現代史特論（ヨーロッパ史各論）2 コマを担当。

【研究活動】

研究業績：著書（分担執筆）「イギリスの内政と外交」南塚信吾ほか責任編集『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える—』ミネルヴァ書房（2016 年 2 月）207～208 頁

講演等：（公開講演会講師）「自由貿易に異を唱えた政治家—J.チェンバレンの夢と現実—」東北大学文学研究科ヨーロッパ史研究室主催公開講演会『100 年前のイギリスはなぜ自由貿易を選択したか—帝国・関税・福祉—』（2016 年 3 月 5 日）

【大学運営】

大学運営：評価分析室副室長（総長特別補佐）として、第 2 期中期目標期間評価への対応作業の取りまとめ、部局評価の分析作業全体取りまとめを担当。

全学委員会：学務審議会委員，同審議会の教務委員会，教育情報・評価改善委員会，基幹科目委員会，基礎ゼミ委員会の各委員を担当。

部局内委員会等：機構長補佐会議メンバー，高等教育開発部門長，教育評価分析センター長として管理運営業務に従事。

【業務活動】

機構の業務：高等教育開発部門長として毎月第 1 木曜日に高等教育開発部門会議を開催し，審議・報告において構成メンバー間での意見交換を継続的に行った。

教育評価分析センター業務：センター長として，学務審議会と共同で前年度末に実施した「第 2 回東北大学の教育と学修成果に関する調査」の報告書をまとめ刊行するとともに，「第 1 回東北大学教員の教育活動に関する調査」を新たに実施し，その速報版を刊行するというセンター活動の統括役を果たした。

【社会貢献】

各種委員等：公益財団法人大学基準協会の大学評価委員会委員および基準委員会委員，岩手県地方行政法人評価委員会専門委員，東北学院大学外部評価委員，東北大学出版会理事，学都仙台コンソーシアム「復興大学」運営幹事会委員

学会活動：西洋史研究会理事，社会経済史学会評議員，東北史学会評議員

杉本 和弘 教授

【専門分野】 比較教育学・高等教育論

【教育活動】

授業担当：1) 全学教育基礎ゼミ「多文化共生社会へのアプローチを探る」新開講（受講者数 13 名），2) 全学教育展開科目（社会学）「現代大学論」担当（受講者数 24 名），3) 人文・社会科学短期留学生受入プログラム（IPLA）「フィールドワークで学ぶ日本の社会と教育（Fieldwork on Society and Education in Japan）」担当（受講者数 20 名）

【研究活動】

研究業績：1)（分担執筆）「第 12 章 高等教育を理解する」羽田貴史編著『もっと知りたい大学教員の仕事 大学を理解するための 12 章』（2015 年 12 月，ナカニシヤ出版，237-245 頁），2)（共同発表）‘Opportunities for International Collaboration and Dialogue: A Joint Program for Canadian and Japanese University Education Managers and Developers, Roundtable Discussions’，STLHE2015（6 月 18 日，Vancouver），3)（共同発表）「アメリカの大学における教養教育カリキュラムと実施体制：カリフォルニア大学バークレー校・サンフランシスコ州立大学の事例」，大学教育学会第 37 回大会（6 月 7 日，長崎大学），4)（共同発表）「米豪におけるアカデミック・リーダー育成プログラムの内容と構造」，日本教育学会第 74 回大会（8 月 29 日，お茶の水女子大学）講演等：（基調講演）「なぜアカデミック・リーダーシップを問うのか」，国際シンポジウム「変貌する高等教育におけるアカデミック・リーダーシップ」（11 月 23 日，仙台国際センター）

科研費：1) 基盤研究（B）「大学教育の内部質保証を担うミドルマネジメント人材の専門性開発に関する国際比較研究」（代表），2) 基盤研究（A）「グローバル社会におけるコンピテンシーを育成する高度教養教育カリキュラムの開発研究」（分担），3) 基盤研究（B）「大学の教学マネジメントにおける教育情報の実践的活用及び公表のシステムに関する研究」（分担），4) 基盤研究（B）「外国人大学教員の採用に関する国際比較研究」（分担）

【大学運営】

全学委員会：1) 学務審議会委員，2) 同 教育情報・評価改善委員会委員，3) 同 基礎ゼミ委員会委員，4) 同 学務情報システム運営委員会委員，5) グローバル人材育成推進事業実施委員会委員，6) 評価分析室員

部局内委員会等：1) 高度教養教育・学生支援機構教育評価分析センター副センター長，2) 同大学教育支援センター副センター長，3) 同総務委員会委員，4) 同施設整備委員会委員

〔業務活動〕

機構の業務：1) 国際シンポジウム「変貌する高等教育におけるアカデミック・リーダーシップ」（2015 年 11 月 23 日開催）の企画・運営を担当

教育評価分析センター業務：副センター長を務め，「第 1 回 東北大学教員の教育活動に関する調査」の企画・実施，IR に関する調査研究を推進

大学教育支援センター業務：副センター長を務め，履修証明プログラム「アカデミック・リーダー育成プログラム（LAD）」の開発・提供，大学職員能力開発プログラム（SDP）の開発・提供をはじめ，各種 PD プログラムの企画・提供を担当

〔社会貢献〕

各種委員等：文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業選定委員会」委員

学会活動：オセアニア教育学会理事・編集委員長，日本高等教育学会編集委員，日本比較教育学会編集委員，国際ジャーナル「Higher Education Research and Development」Associate Editor

社会教育活動：1) 国立大学協会「日豪大学職員短期交流研修事業」講師，「オーストラリア高等教育—歴史・現状・改革」（11 月 10 日，東京），2) 大阪大学国際シンポジウム「新しい教養の学びとその質保証—グローバル化時代における教養の学びを考える」講師，「東北大学における教養教育と質保証」，（1 月 27 日，大阪），3) 京都大学第 22 回大学教育研究フォーラム講師，「大学教育の質保証—誰が何をどう保証するのか—」（3 月 17 日，京都）

串本 剛 准教授

〔専門分野〕 高等教育論

〔教育活動〕

授業担当：1) 全学教育基幹科目「人間と文化」前期：大学教育論，2) 全学教育共通科目「基礎ゼミ」前期：社会調査入門，3) 全学教育基幹科目「人間と文化」後期：大学教育論，4) 全学教育展開科目「総合科学」後期：文章による議論の方法（国際共修ゼミ）

教材開発：初年次のレポート作成とその指導を支援する共通教材の開発

その他：1) 「東北大学教育調査研究会（第 1 回）」で報告，2) 「データ分析・解釈の技法」でワークショップ講師，3) 「授業デザインとシラバス作成」でワークショップ講師

〔研究活動〕

研究業績：1) （分担執筆）「第 3 章 大学のカリキュラムを理解する」羽田貴史編著『もっと知りたい大学教員の仕事』ナカニシヤ出版，49-61 頁（2015），2) （分担執筆）「第 4 章 1 回の授業をデザインする：シラバス作成を手がかりに」羽田貴史編著『もっと知りたい大学教員の仕事』ナカニシヤ出版，62-75 頁（2015），3) （分担執筆）「第 5 章 学士課程の構造とアウトプット指標の関係：専門分野別の分析」株式会社 リベリタス・コンサルティング『「大学教育改革の実態の把握及び分析等に関する調査研究」調査報告書』（平成 27 年度 文部科学省委託調査），128-136 頁（2016），4) （共同発表）Paths from formative assessments to learning outcomes: a between-course approach study of undergraduate freshman in two Japanese universities. 14th Annual Hawaii International Conference on Education (Honolulu, Jan. 4th, 2016)

科研費：「大学生の学習活動との関係に見る成績評価の適切性」（基盤 C，2013-2015 年度）

〔大学運営〕

全学委員会：1) 基礎ゼミ委員会委員，2) 基幹科目委員会委員，3) 教育情報・評価改善委員会委員，4) 学務審議会委員，5) 柔軟な学事暦検討プロジェクト・チーム メンバー，6) 評価分析室 室員

部局内委員会：紀要編集委員会委員

その他：IDE 大学セミナー実行委員会委員

〔業務活動〕

教育評価分析センター業務：1) 「第 2 回 東北大学の教育と学修成果に関する調査」の成果周知，2) 「第 1 回 東北大学教員の教育活動に関する調査」の企画・実施

〔社会貢献〕

各種委員等：1) 関西国際大学教育総合研究所：客員研究員，2) リベリタスコンサルティング：文部科学省委託研究の研究会委員，3) 大学間連携事業：中間評価に係る書面評価委員

学会活動：大学教育学会 編集幹事

他大学での講演等：1) 岩手県立大学看護 FD 研修会：セミナー「高等教育における評価を考える」を担当，2) 東北文化学園大学 FD：ワークショップ「授業デザインとシラバス作成」を担当，3) 仙台青葉学院短期大学 教員の資質向上に向けた研究会：ワークショップ「授業デザインとシラバス作成」を担当

川面 きよ 特任講師

【専門分野】 高等教育における組織開発・職能開発

【研究活動】

研究業績：第 22 回大学教育研究フォーラムにて企画者参加セッション「ラーニングコモンズの設計・運営・研究を考える」に企画者・話題提供者として参加。

【業務活動】

教育評価分析センター業務：第 2 回学修成果報告書の編集，第 1 回教員の教育活動に関する調査の企画・実施・速報版報告書作成，ウェブサイト企画・制作，教学改善プロセス設計の予備調査として先行して IR 活動に取り組む大学に対する教学 IR に関するインタビュー調査，企業調査および予算管理を担当した。

高等教育開発室業務：教育関係共同利用拠点における SD 事業の企画立案，運営，研修講師を担当した。

【社会貢献】

東北大学 大学職員能力開発プログラム(SDP) 若手職員のための大学職員論 (4)「「つながり」のススメ」の研修講師を担当した。

今野 文子 講師

【専門分野】 教育工学

【教育活動】

授業担当：全学教育 基礎ゼミ「映像作成を通して情報発信力を鍛えよう（前期開講・2 単位）」当該授業の受講学生は基礎ゼミ成果発表会にて学生審査員賞を受賞

大学院教育 教育情報学教育部 自由聴講科目「リフレクションの理論と実践（後期開講・2 単位）」

大学院教育 教育情報学教育部 「研究方法入門セミナー（オムニバス形式）」1 コマ担当

【研究活動】

研究業績：1) (論文・共著)「授業計画と実施内容との差異に着目した授業リフレクションによる教師の気づきの効果」、『高度教養教育・学生支援機構紀要』, 1, 11-21 頁, 東北大学高度教養教育・学生支援機構, 2015 年, 2) (論文・共著) Initial Development and Use of Materials, Based on the Theory of Instructional Design, for Blended Learning of Chinese as a Second Foreign Language in a Japanese University, *A Journal of the Association of Teaching Chinese as a Second Language*, DECEMBER 2015, Vol. 2, pp.23-40 (in Chinese), 2015 年 12 月, 3) (分担翻訳)「第 2 章 インストラクションを理解する」30-44 頁,「第 5 章 直接教授法を用いたアプローチ」80-103 頁, C. M. ライゲルース・A. A. カー＝シェルマン 編, 鈴木克明・林雄介 監訳『インストラクショナルデザインの理論とモデル：共通知識基盤の構築に向けて』, 北大路書房, 2016 年 2 月, 4) (学会発表・共著)「閲覧ログからみる教職員向けセミナー動画配信サイト PDPonline の利用状況」,『教育システム情報学会研究報告』, vol.30, no.7 (2016-3), 187-192 頁, 教育システム情報学会, 2016 年 3 月, 他 7 件

科研費：若手研究(B)「成長型教授設計プロセスモデルに基づく授業リフレクションプログラムの開発」代表者, 他 2 件

【大学運営】

各種支援活動：「授業収録配信・学習支援システム仕様策定委員」に従事

【業務活動】

機構の業務：「国際連携を活用した大学教育力開発の支援拠点」として, 大学教員準備プログラム (PFFP), 新任教員プログラム (NFP) 等の開発・実施に携わり, 将来大学教員を目指す大学院生・博士研究員, および新任教員の職能開発支援に従事。また, 各種セミナーを動画コンテンツ化し, 広く一般に公開する PDPonline の開発を実施

【社会貢献】

社会教育活動：宮城県による ICT 技術者 UIJ ターン等促進事業「伊達な ICT-WORK」への知識提供・講師を務め, 民間企業の新入社員研修等 4 件において講義を提供

その他：NPO 子どもの村東北において, 震災孤児支援に関するセミナーの通訳に従事

石井 光夫 教授

【専門分野】 比較教育学（現代中国・東アジア），大学入試論

【教育活動】

授業担当：大学院教育（教育学研究科 比較教育システム論・講義及び演習各 2 単位）

学位論文指導・審査：教育学研究科・学生（博士 1 名）の副指導教員，博士審査（1 名，副査）

留学生受入れ：博士審査 1 名は台湾留学生（博士論文），このほかに個別に中国人留学生の指導をしている。

【研究活動】

研究業績：1) (単著)「国立大学入試における個別選抜のゆくえ」『東北大学高等教育ライブラリ』第 10 号 1-20 頁 (2015.3), 2)

(単著)「2014 年度 I D E 大学セミナー報告 大学教育における ICT 活用の光と影」『IDE 現代の高等教育』77-80 頁 (2015.6)
講演等: 国立大学アドミッションセンター連絡会議総会講演「大学入試改革にどう向き合うか」(2015.5.27)
科研費: 1) 基盤研究 (A)「グローバル社会におけるコンピテンシーを具体化する高度教養教育の開発研究」(課題番号 26245074
代表・羽田貴史), 研究分担者

〔大学運営〕

全学委員会: 入学試験審議会委員, 入試企画・広報委員会副委員長, 入試実施委員会委員, 広報戦略室委員, FGL 実施委員会委員, 国際交流委員会委員

各種支援活動: 中国代表事務所所長補佐

〔業務活動〕

入試センター業務: 工学部入試検討委員会委員 (AO 入試実施業務 (作題, 選抜審査等) を含む), 他学部の AO 入試への情報提供・助言, 入試広報活動 (大学案内編集, 各種説明会の主催, 高校訪問等), センター試験および一般入試の実施 (入試実施本部員), その他関連入試業務

入試開発室業務: 東北大学高等教育フォーラムの企画・運営

〔社会貢献〕

各種委員等: 1) IDE 大学協会 東北支部のセミナー開催 (実行委員) 報告書作成, 2) 国立大学アドミッションセンター連絡会議 (幹事)

入試広報: 1) 入試説明会 (高校教員対象) 18 会場のうち 6 会場担当, 2) 進学説明会 (札幌会場 6 月・東京会場 7 月・大阪会場 7 月) を担当, 3) 高校訪問 (3 校)・進学講演会講師 (2 会場), 4) 各種入試説明会・ガイダンスへの参加 (5 会場), 5) 宮城県進路指導研究会講演 (5 月), 日本教育新聞セミナー講演 (8 月)

鈴木 敏明 教授

〔専門分野〕教育心理学, 発達心理学, 発達臨床行動論

〔教育活動〕

授業担当: 教育学研究科「発達臨床論特論Ⅱ」, 「発達心理学特論Ⅱ」。仙台大学体育学部「教育相談」(教職に関する科目)。宮城高等歯科衛生士学院「心理学」(基礎科目)。

〔大学運営〕

全学委員会: 入試企画・広報委員会委員, 広報連絡会議委員

〔業務活動〕

機構の業務: 紀要編集委員会委員

入試センター業務: 各種入試広報活動担当 (本学主催入試説明会, 本学主催進学説明会, 『東北大学案内』編集作業部会委員, 業者主催進学説明会等)。

〔社会貢献〕

各種委員等: 宮城県教育庁生涯学習課登録講師

学会活動: 大学入試センター『大学入試研究ジャーナル』査読委員

社会教育活動: 『Y-SAPIX Journal』(2015 8-9 月号) (Y-SAPIX) への取材 (東北大学の入試の特徴について) 対応

倉元 直樹 教授

〔専門分野〕教育心理学・大学入試研究他

〔教育活動〕

授業担当: 大学院文学研究科「心理学特論Ⅰ」, 「心理学研究演習Ⅵ」, 大学院教育情報学教育部「IT 教育基礎論特論 C」を担当した。「研究方法入セミナー」, 「医療教育論」は年 1 コマ出講している。

学位論文指導: 博士 5 名, 審査: 主査 1 名 (課程博士, 学位記授与式において受領総代を務めた)。

〔研究活動〕

論文: 1) (単著)「国立大学におけるアドミッションセンターの組織と機能」『大学入試研究ジャーナル』26, 2016 年 3 月, 89-96,

2) (単著)「大学入学者選抜における高校調査書」『教育情報学研究』14, 2015 年 10 月, 103, 他共著 1 編

総説・解説記事: (単著)「受験生に求められる審美眼」『2016 年版大学ランキング』(朝日新聞出版), 担当項目「オープンキャンパス」, 80-81, 他単著 1 編

学会発表: (単著) 看護系志望の高校生に求められる学力・適性に関する研究 (4) ——高等学校教員の意識——, 日本教育心理学会第 57 回総会発表論文集, 569, 2015 年 8 月, 他単独発表 1 件, 共同発表 4 件

受賞: 日本テスト学会第 13 回大会発表賞

講演等: (招待講演)「東北大学における入試のトータルプランニング—AO 入試成功のカギを握る一般選抜個別試験の設計戦略—」

入研協第10回大会，2015年5月，他講演1件，司会（企画）1件

科研費：挑戦的萌芽研究「大学入試における多面的・総合的な評価方法の開発ーテストレットモデルの応用ー」（代表）（2013～2015），他分担3件

〔大学運営〕

各種支援活動：正午PD会講師1件，学部等主催の入試関連FD講師6件

〔業務活動〕

機構の業務：第22回東北大学高等教育フォーラム「大学入試改革にどう向き合うか——中教審高大接続答申を受けて——」の企画立案，現状報告，運営。

入試センター業務：1) 本学主催教員対象入試説明会9回（うち講演8回），2) 高校主催教員対象入試説明会2回，3) 本学主催進学説明会3回（うち講演2回），4) 高校別東北大学入試説明会（含，教員との意見交換）14回，5) 業者等主催合同進学相談会等6回（うち講演4回），6) 高校訪問（意見交換）12回，7) 模擬講義等2回

〔社会貢献〕

各種委員等：1) 入研協企画委員会委員，2) 公益財団法人日本英語検定協会理事，3) お茶の水女子大学新フンボルト入試外部評価委員

学会活動：1) 日本テスト学会理事，2) 同編集出版委員会委員長（倫理綱領を制定，投稿基準を明確化した。），3) 同研究委員会主催シンポジウム企画2回，基調講演，司会各1回，4) 国際教育学会（ISE）理事，5) 同学会誌編集委員，6) 同学会賞選考委員

社会教育活動：1) 高校教員等研修講師3回，2) 静岡県立大学入試面接FD講師1回，3) ラジオ生放送出演1回，新聞・雑誌取材2件

北原 良夫 教授

〔専門分野〕英語学，言語学，高等教育論，英語教育

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「英語 A1」（医（保）1），「英語 A2」（工 2），「英語 B1」（文教 1，工 1），「英語 C1」（法 1），「英語 C2」（文教 1，農 1）

大学院教育（国際文化研究科）「言語データ解析論Ⅰ」×1，「応用言語研究総合演習 A 及び B」各 1，「応用言語研究特別演習 A 及び B」各 1，「応用言語研究特別研究 A 及び B」各 1，「応用言語研究特別講義 A 及び B」各 1

学位論文指導：修士 6 名，審査：副査 6 名，試験委員 6 名

留学生受入れ：中国人留学生（1 名）を国際文化研究科の研究生として受け入れ

〔研究活動〕

研究業績：1)（分担執筆）『もっと知りたい大学教員の仕事ー大学を理解するための 12 章』（ナカニシヤ出版，2015 年 12 月 25 日，コラム 4），2)（単著）「第 1 部 資料」『平成 26 年度 TOEFL ITP テスト実施報告書』（東北大学学務審議会外国語委員会英語教科部会，2015 年 5 月，9-78）

その他：「建設的協働学習による企業・海外大学・全学参加型スキルアップ研修」（高度教養教育開発推進事業），「新しい e ラーニングシステムを活用した高年次学部生に対する EGAP 教育の展開」（同），「語学学習における能力獲得分析と語学授業への活用」（高度教養教育・学生支援機構部局ビジョン推進経費）等の共同研究にメンバーとして参画

〔大学運営〕

全学委員会：1) 学務審議会委員，2) 同外国語委員会委員，3) 同外国語委員会学習専門部会委員（施設設備小委員会），4) 同学務情報システム運営委員会委員，5) 同高度教養教育内容開発検討ワーキンググループメンバー，6) 海外専門家による東北大学全学教育レビュー企画・運営ワーキンググループ及び作業ワーキンググループメンバー，7) 人文・社会科学系学生交流実施委員会委員

部局内委員会：1) 高度教養教育・学生支援機構言語・文化教育センター副センター長，2) 同大学教育支援センタープログラム開発部門長，3) 同総務委員会委員，4) 同総務委員会英語化ワーキンググループリーダー，5) 同施設設備委員会委員

〔業務活動〕

機構の業務：総務委員会に設置された「英語化ワーキンググループ」のリーダーとして，機構の規程（新規制定，改定）等，業務センターのホームページをはじめ各種の文書等の英語化に主体的に従事した。

言語・文化教育センター業務：副センター長として，センターの運営業務，シンポジウムやセミナーの企画・実施などをはじめ，センターに関わるさまざまな業務に主体的に従事した。今年度新たに開始したこととして，『言語・文化教育センター年報』（第 1 号）の刊行（資料編の原稿作成及び全体の編集作業を担当）やオープンキャンパスへの出展に際して中心となって従事した。

〔社会貢献〕

「英語を教える大学教員のためのスキルアップコース」（7 月 25 日～26 日，仙台）

上原 聡 教授

【専門分野】 認知言語学・日本語教育

【教育活動】

授業担当：国際共修クラス（全学教育カレントトピックス，同展開ゼミ）「歌に学ぶ日本の言葉と心-国際共修ゼミ-」，「日本語の文法を外から見て考える-国際共修ゼミ-」（以上前後期とも）；日本語特別課程クラス「日本語読解中級前期」（自然科学系短期留学プログラム）（前後期とも）；大学院教育「言語科学特別講義」「言語科学特別演習」「言語科学演習」（以上前後期とも）「認知言語学Ⅰ」（国際文化研究科言語科学研究専攻）

学位論文指導：博士4名，修士2名，審査：主査3名，副査2名

留学生受入れ：日本語研修コース（国費留学生予備教育プログラム）受入指導，大学院担当講座受入（留学生20名，専門研究員3名）

その他：国際言語総合科学大学院コース（国際文化研究科英語コース）参画・授業実施・学生受入

【研究活動】

研究業績：1) (共著) Lexical Categories. *Handbook of Japanese Lexicon and Word Formation*. Mouton de Gruyter, 2016, 51-91, 2) (単著)「日本語の「人称制限」は「人称」制限ではない-内的状態述語における話者・概念化者・体験者を区別する-」『日本認知言語学会論文集』第15巻, 2015, 112-124, 3) (共著)「共修による日本語・日本文化学習の効果-平成26年度「国際共修ゼミ」開講状況をふまえて-」『東北大学言語・文化教育センター年報』No.1, 2016年, 1-10, 4) (単著)「言語対照のための主観性表現の類型試案-日本語を題材として-」『東北大学言語・文化教育センター年報』No.1, 2016年, 33-43, 5) (共同発表)「感謝場面における日タイ語の言語行動パターンの対照分析-テレビドラマを資料として-」言語処理学会第22回年次大会発表（2016年3月8日，東北大学），6) (共同発表)「日本人大学生と中国人留学生におけるあいさつの使用実態について-出会いの場面を中心に-」言語処理学会第22回年次大会発表（2016年3月9日，東北大学），7) (共同発表)「日本語心理動詞文のスル/ナル表現の選択に見られる中古から現代にかけての事態把握の変化」言語処理学会第22回年次大会発表（2016年3月10日，東北大学）

科研費：基盤研究（C）「アジア諸語を対象とした主体・主観性の構文と語彙化に関する認知類型論的実証研究」（2012-2015）

その他：国立国語研究所日本語レキシコン共同研究プロジェクト

【大学運営】

全学委員会：1) 国際連携推進機構 国際交流委員会 日本語研修教育運営実施委員会委員，2) 同日本語研修教育運営専門委員会委員

部局内委員会：1) 高度教養教育・学生支援機構紀要編集委員会委員，2) 大学院国際文化研究科附属言語・脳・認知総合科学研究センター運営委員会委員，3) 東北大学国際文化学会役員会総務・監事

各種支援活動：言語・文化教育センター日本語教育セクションHP管理

【業務活動】

学生支援業務：日本語特別課程における学生支援（全学の留学生の履修上の問題や相談に対する対応）

言語・文化教育センター業務：日本語特別課程コーディネーター（カリキュラム編成および運営業務，全学へのオリエンテーション及びブレスメントテストの実施など），センター日本語教育セクションのHP情報ネットワークの構築維持（和文・英文版合わせてのリニューアル，新短期留学プログラムDEEP-Bridgeのための全シラバス掲載の案内ページの設営）

【社会貢献】

国際交流活動：特別訪問研修生受入れ（7月，7-8月）

社会教育活動：Journal of Letters（タイ国チュラロンコーン大学文学部発行）編集委員

佐藤 勢紀子 教授

【専門分野】 日本思想史学・日本語教育学

【教育活動】

授業担当：全学教育【展開ゼミ】「日本文化を考える-国際共修ゼミ-」，大学院教育「日本文化基層論Ⅰ（光源氏のモデル）」（国際文化研究科），「研究のための日本語スキル」（同），「国際日本研究総合演習・特別演習」（同），「国際日本研究特別講義」（同），「国際日本研究特別研究」（同），その他「初級前期日本語応用速修（P1-E）」（外国人留学生等特別課程），「初級後期日本語応用速修（P2-E）」（同），「中級後期日本語作文（W4）」（同），「上級日本語応用（P5）」（同，上記展開ゼミと合同開講），「上級日本文化演習（日本文化を考える）（JC5）」（同），「上級日本文化演習（古典入門）（CL5）」（同）

学位論文指導：博士3名，修士6名（国際文化研究科），審査：主査2名（同）

テキスト：アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『大学・大学院留学生の日本語』シリーズ（アルク）の改訂版を開発，出版（2015年5月）

留学生の受入れ：1) 日本語研修コース研修生21名を受け入れ・指導，2) 留学生5名を主指導教員として指導（国際文化研究科）

〔研究活動〕

研究業績：1) (単著)『源氏物語』に描かれた陸奥憧憬—河原院伝説との関係を中心に—『東北大学国際文化研究科論集』第23号、2015年12月、pp.109-122、2) (単著)「文語文を学ぶ漢字系学習者が困難を感じる点—中国・台湾の日本学研究者に聞く—」『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』第7号、2015年7月、pp.25-32、3) (単著)「留学生を対象とする文語文読解の授業—「日本文化演習（古典入門）」実践報告—」『東北大学言語・文化教育センター年報』第1号、2016年3月、pp.19-25、4) (共著)「共修による日本文化学習の効果—平成26年度「国際共修ゼミ」開講状況をふまえて—」同上、2016年3月、pp.1-10、5) (単独発表)「日本語学習者が求める文語文読解教材—中国・台湾の日本学研究者への調査から—」、2015年度日本語教育と日本学国際シンポジウム（2015年5月、上海理工大学）

講演等：(招待講演)「古典を通じた中日言語・文化交流」、国際シンポジウム「言語・文化の交流と発展」、2015年9月、吉林大學科研費：基盤研究(C)「日本語学習者を対象とする文語文読解教育の実態調査および教材開発」（代表）

共同研究：1) パネル・ディスカッション「海外における日本語文語文教育の現状と課題」、2015年8月、東北大学、2) 国際共修に関する教育実践事例集の作成

〔大学運営〕

全学委員会：1) 日本語研修教育運営委員会委員、2) 日本語研修教育運営専門委員会委員長、3) 日韓共同理工系学部留学生事業運営委員会委員

部局内委員会：1) 高度教養教育・学生支援機構言語・文化教育開発室室長、2) 同総務委員会委員、3) 同研究倫理委員会副委員長、4) 同言語・文化教育センター運営会議委員

各種支援活動：大学教育支援センターの若手教員対象大学教員養成プログラムNFPに「先達教員」として協力（授業公開、模擬授業へのコメント付与、先達コンサルテーション等）

〔業務活動〕

学生支援業務：外国人留学生日本語研修コース研修生の相談への対応（随時）

機構の業務：1) 日本語研修教育全体の企画・運営、2) 外国人留学生日本語研修コースの企画・運営及び研修生指導（2015年度前期：副担当、同後期：主担当）、3) 2016年度開設予定の新規交換留学プログラムDEEP-Bridgeの企画・カリキュラム策定、4) 夏季・冬季短期日本語・日本文化研修プログラム（KEYAKI）のコーディネーションおよび研修生指導

言語・文化教育センター業務：センターの運営に関する諸業務

言語・文化教育開発室業務：室関連の人事に関する諸業務

〔社会貢献〕

学会活動：1) 日本語教育学会理事、2) 専門日本語教育学会編集幹事、3) 日本文芸研究会編集委員会委員

国際交流活動：1) 吉林大学、南開大学、東南大学、厦門大学等を訪問、共同研究を実施／教育・研究交流について協議、2) 北京大学、輔仁大学、プリンストン大学、ヴェネツィア大学から研究者招聘（2015年8月、2016年1月）、3) (一財)東北多文化アカデミー理事として複数の日本語・日本文化研修プログラムを企画・実施、参加学生を東北大学の特別訪問研修生として受け入れ（参加者：計94名、うち機構17名）、4) 短期日本語教育／日本学教員研修プログラムを企画・実施（参加者：9名）

社会教育活動：公開講座「塩竈に憧れた平安人—光源氏のモデル源融をめぐる—」、仙台ユネスコ協会「ユネスココレッジ講座」、2015年10月

その他：(一財)東北多文化アカデミー理事

吉本 啓 教授

〔専門分野〕 形式文法、言語認知科学

〔教育活動〕

授業担当：英語による入門・初級日本語授業（Basic Japanese）に関し、教材を含めた授業準備、授業の実施、および学生への補習を行う体制を菅谷准教授および非常勤講師、TA とともにさらに整備した。また引き続き、留学生日本語教育において、学生の勉学・生活への応用力向上を目指して、4技能のバランスの取れた学力の発展に努力した。兼担する大学院国際文化研究科では、形式言語学にもとづく日本語解析をテーマとして講義「意味論」を行った。

学位論文指導：主指導教員として修士学位取得者2名を指導した。

学振特別研究員（DC2）1名、産学連携研究員1名を受け入れた。

〔研究活動〕

研究業績：形式文法および言語情報処理研究の基礎の上に立って、コーパス構築法や日本語文意味解析の研究を行った。その成果を次世代型日本語コーパスの構築に発展させた。この1年間で、著書1本、論文3本を公表し、学会発表を2回、学会ワークショップ企画を1回行った。

科研費：基盤研究（C）「次世代日本語コーパスプロトタイプの構築とその脳認知言語学実験への応用」（2013-2015）研究代表者

共同研究：産学連携研究員として受入れているバトラー氏との自然言語の文の意味解析に関する共同研究は、形式意味論を用いて

大量の言語データの自動意味解析を行い多様な用途に供する実証的な試みとして成果を産みつつある。成果としての日本語コーパスの構築に関連して、NTT コミュニケーション科学基礎研究所より研究費を得て、共同研究を行っている。また、国立国語研究所との共同研究プロジェクトを平成 28 年度より開始したが、そのための予備研究（フィージビリティスタディ）を平成 26 年 8 月より 1 年間、同研究所より研究費を得て行った。

〔大学運営〕

全学委員会：学務審議会外国語委員会専門委員（日本語）として、全学留学生日本語教育の体制整備を行った。学術資源研究公開センター運営専門委員会委員として、博物館、史料館、植物園の運営に参画した。

〔業務活動〕

機構の業務：高度教養教育・学生支援機構 FD「科研費獲得のカンとコツ」において、科研費申請書の書き方について講演を行い、また申請を行う同僚に対してアドバイスした。

〔社会貢献〕

学会活動：Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation の運営委員を担当している。同学会は、東アジア地域のコンピュータ言語学、形式文法の活性化および研究者間の交流に貢献している。同学会を支える国内組織である言語情報科学会の会長をつとめた。

国際交流活動：人工知能学会国際ワークショップ Logic and Engineering of Natural Language Semantics の実施委員会の一員として、形式意味論を中心とするワークショップを各年行っている。国際的な学術交流の核として貢献している。また、産学連携研究員として Alastair Butler さんを受け入れ、高度文解析情報付き日本語コーパスの開発および意味論にもとづく日本語文解析に関して共同研究を行った。

橋 由加 教授

〔専門分野〕 教授法、CALL、日本語・英語教育、高等教育論、日米比較文化論

〔教育活動〕

授業担当：（全学教育）前期、後期トータルで 12 コマ担当。科目名：CALL 演習英語 B1, B2, C1, C2（毎学期 400 名、年間を通して約 800 名前後の学生に講義を行う）。

教材開発：全学、学部、大学院レベルで指導できる、オンライン英語学習教材 Presentation Course 開発（東北大学用の URL：tohoku1.lincenglish.com）。自己開発（主幹）On-line 教材 LincEnglish を授業のメイン教材とし、毎週 179 問の予習を義務付け QA 方式により Listening 力、速読力の向上を目指す。また自主制作による www.yukameida.com を副教材として Reading 力と Writing 力の更なる向上も図る。この教材では、辞書に頼らずに動画ニュースや TED などのプレゼンテーションをスピーディーに音声を通じて読み進めるための教授法で指導、英文のスク립トや質問文なども準備。高校や他校の教員にシラバス及び模擬授業公開。

その他：情報科学研究科において前期：博士課程の学生にアカデミック・ライティング論文指導、後期：修士の学生に英語コミュニケーションの講義担当

〔研究活動〕

講演等：1)「On-line カリキュラムで伸ばす英語運用能力―東北大学での実践事例」（大阪大学）、2)「中学高校でも応用・活用できる e-Learning を使った大学での英語指導成果と秘訣」（アイエスエイ FIT 事業部主催、全国公私立中高役職者、担当教員対象）、3)「Planning and Presenting an Effective Presentation」（東北大学工学教育院）、4)「LincEnglish（反転授業）を用いた大学英語教育とその実践事例」（大阪成蹊大学）、5)「Authentic Media を利用した内容重視の英語教材の開発」（尚絅学院大学）、6)「デジタル教材勉強会 in Tokyo～英語授業力向上を目指して～」(デジタル教科書協議会、英語教育・達人セミナー、未来教育研究機構)

科研費：挑戦的萌芽研究「On-line カリキュラム Presentation Course 及び動画教材開発」

その他：1) パナソニック教育ソリューションとの共同研究(産学連携プロジェクト)、2) 中学英語教科書 New Horizon 用のシャードイン演習動画教材の制作（東京書籍）

〔大学運営〕

全学委員会：学務審議会委員

〔業務活動〕

学生支援業務：工学教育院、国際交流室における連携支援（留学生相談）

機構の業務：1) グローバル人材育成推進事業実施委員、2) 高度教養教育・学生支援機構 紀要編集委員

言語・文化教育センター業務：センター運営業務（定例会議など）

言語・文化教育開発室業務：室の運営（定例会議、模擬授業、オープンキャンパス模擬授業他）

〔社会貢献〕

各種委員等：1) 宮城県高等学校英語弁論大会審査員、2) E.S.S ディベート審査委員、3) 仙台市教育審議会語学教育推進アドバイ

ザー、4) 宮城学院中・高等学校 英語教育顧問、5) 尚綱学院 英語教育カリキュラム改革アドバイザー、6) 「日本私学教育研究所委託事業」英語助言指導委員
国際交流活動：1) モンタナ大学マンスフィールド使節団訪問・本学におけるシンポジウム世話人（2月、片平キャンパス）、2) グローバルラーニングセンターと連携し、モンタナ大学との大学間協定の交渉
社会教育活動：1) 出前授業（宮城学院高校、尚綱学院高校、聖徳学園高校）、2) 科学者の養成卵講座（英語学習法）、3) FD（大阪大学、大阪成蹊大学 CALL 教育担当者対象）

菅谷 奈津恵 准教授

【専門分野】 日本語教育・第二言語習得

【教育活動】

授業担当：全学教育「Basic Japanese 1, 2」「日本語 E, F, I, J」

Basic Japanese では授業計画の複数の担当教員、TA との共同作業が円滑に進むよう調整役を務めている。各授業では配布資料の一部をネット上で公開し、授業外学習を支援した。

大学院教育（国際文化研究科）「第二言語教授法 I」「応用言語研究特別講義 AB」

修士論文審査：主査 1 名、副査 5 名

【研究活動】

研究業績：1) (単著)「レポート指導のための剽窃判断課題の試作」『東北大学言語・文化教育センター年報』1, 27-31, 2) (分担執筆)『最新英語学・言語学用語辞典』開拓社, 3) (単独発表) Teaching basic Japanese characters and vocabulary at Tohoku University. The third international conference on methods of teaching oriental languages, Higher School of Economics, Russia, 2015 年 10 月, 4) (共同発表) Is a separate task for perceptual training necessary for the acquisition of Japanese pitch accent? The 1st International Symposium on Applied Phonetics, Chubu University

その他：高度教養教育開発推進事業「初年次のレポート作成とその指導を支援する共通教材の開発」（事業代表）

【大学運営】

部局内委員会：言語・文化教育センター運営委員

各種支援活動：「第二言語習得論と外国語教育」など言語教育に関するセミナー 5 件を企画・実施した。

【業務活動】

言語・文化教育センター業務：センター運営委員としての業務、日本語教育セクションのホームページ更新業務

【社会貢献】

学会活動：1) 第二言語習得研究会大会運営委員長、開催校実行委員長として、本学での第 26 回全国大会の開催に尽力した。2) 第 2 言語習得研究会（関東）運営委員を務めた。

国際交流活動：1) ロシア国立高等経済学院（HSE）にて開催された国際会議に招待され、HSE の教員との交流を継続した。2) 極東連邦大学の学生を対象とした短期研修プログラムの実施に貢献した。

副島 健作 准教授

【専門分野】 現代日本語文法・言語学・日本語教育

【教育活動】

授業担当：日本語教育 外国人留学生等特別課程日本語科目「G3（中級前期日本語文法）」「W3（中級前期日本語作文）」「R3（中級前期日本語読解）」「G4（中級後期日本語文法）」「JF5（上級日本文化演習）」＝全学教育科目「映像に見る日本語と日本文化」（基礎ゼミ）

日韓共同理工系学部留学生プログラム日本語科目「P4-E/P5-E（上級日本語応用）」

大学院教育 国際文化研究科「日本語解析論 I」「言語科学研究総合演習 A, B」「言語科学研究特別研究 A, B」「言語科学研究特別講義 A, B」

TUCPR（極東連邦大学とのショートステイ交換留学プログラム）の日本語科目（初級）2 コマ（全 4 コマ）

学位論文指導：博士 1 名、修士 4 名、審査：博士 1 名（副査）、修士 6 名（主査 3 名、副査 3 名）

留学生の受入れ：年 2 回（2015 年 7-8 月、2016 年 1-2 月）、特別訪問研修生として中国からの留学生を数名受入れた。

【研究活動】

研究業績：1) (単著)「若者の地方共通語使用に関する一考察—沖縄地域のアスペクトの使用意識調査から—」『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』第 2 号（2016 年 3 月）、2) (単独発表)「ロシアとフランスの大学における日本語学習者の動機づけと学習ストラテジー」、CAJLE (Canadian Association for Japanese Language Education) 2015 年次大会（2015 年 8 月 22 日、Simon Fraser University at Harbour Centre (カナダ)、3) (単独発表)「日本語の『動作主が不特定の人為的事態』の表現—ロシア語の不定人称文との比較をかねて—」、日本語学会 2015 年度秋季大会（2015 年 10 月 31 日、於山口大学）

科研費：1) 基盤研究 (C)「主要部後置型言語におけるアスペクトとヴォイスの「自然な言い回し」に関する研究」(2015～2018) (代表), 2) 基盤研究 (C)「複数の言語における『味を表す表現』に関する研究」(2012～2015) (分担)

〔大学運営〕

各種支援活動：ロシア交流推進室員としてロシアとの交流促進に貢献した。TUCPR（ロシアとの異文化体験型学生交流プログラム）の運営に協力し、日本語クラスのコーディネーターや授業を実際に担当した（2015年9月）。

〔業務活動〕

機構の業務：高度教養教育・学生支援機構の紀要編集委員として紀要の編集作業に協力した。

〔社会貢献〕

学会活動：公益社団法人日本語教育学会研究集会委員会 委員

その他：東北学院大学において「日本語教育教材論（通年）」の授業を担当し、地域の日本語教員の人材育成に貢献した。

中村 渉 准教授

〔専門分野〕 言語類型論・意味論・第二言語習得

〔教育活動〕

授業担当：全学教育 27年度は全学教育の英語の授業でマルチメディア教材を使用した。

大学院教育 平成27年度後期に「対照言語学Ⅰ」（国際文化研究科）を担当した。この授業は英語で運営される大学院の言語総合科学コース（Global 30）の科目でもある。また、応用言語研究総合演習・特別講義を前期・後期とも分担した。

学位論文指導・審査：協力教員を務める大学院国際文化研究科応用言語研究講座において、主指導教員・主査を務めた修士課程の大学院生は2名、研究生が1名（平成28年度春に修士課程に入学）、論文審査の副査を務めた修士課程の大学院生は3名である。

教材開発：大学院の講義（「対照言語学」）で教科書として用いる予定の和書1冊（分担執筆：第1～3章、第5章）をくろしお出版から刊行した。

その他：前期に、国費留学生に対して集中的な日本語教育を施す日本語研修コースの主担当として、13名の学生を（授業を含め）指導・修了させた。後期には、理系の短期留学プログラムに所属する留学生を対象とする日本語コースのカリキュラムの作成及びコースの運営を担当した。

〔研究活動〕

研究業績：1)『認知類型論』をくろしお出版から刊行した（共著：第1～3、5章を担当）。2) 最適性理論に基づく格理論の構築作業の一環として、平成27年6月に第150回日本言語学会で、「ヒンディ語の重層的格標示システム」を口頭発表し、同学会予稿集（単著、査読無、2015年、pp.314-319）に掲載した。3) 関西言語学会の第35回大会の論文集（単著、査読有、2015年、pp.181-192）に「第2与格」対「第2主格」：デフォルト格としての与格／主格」を掲載した。

科研費：基盤研究(C)「非定型節の格フレームの通言語的研究」（課題番号 26370434）を研究代表者として、平成27(～28)年度に受給した。

〔大学運営〕

各種支援活動：学内の留学生に日本語を教える専任・非常勤教員・職員に共通の複数のメーリング・リストの運用及び管理を担当し、教職員間の情報共有を促進している。また、留学生課の協力の下、留学生のオンライン登録のシステムを導入した。

〔業務活動〕

言語・文化教育開発室業務：前期は、国費留学生を対象として集中的な日本語教育を行う日本語研修コースの運営を担当し、カリキュラムの作成・（一部）授業を担当した。後期は短期留学生プログラムの日本語クラスの運営を担当し、カリキュラムの作成・（一部）授業を担当した。さらに、海外の学生に本学の日本語教育のカリキュラムを伝えるとともに、本学にすでに在籍する、日本語が初級レベルの留学生の便宜を図るため、当機構の日本語グループ（日本語教育を担当する教員）のホームページの英語版を作成した。

Daniel EICHHORST 講師

〔専門分野〕 ESL/EFL, Extensive Reading, Task-based Learning, Active Learning

〔教育活動〕

I prepare original materials for use in all of my classes. The content is determined based on input I receive from students. My goal is to have students develop specific abilities and become autonomous learners.

English A1/2

The focus of this class is extensive reading. Students are required to read a certain amount and given autonomy to choose what they want to read. This class is coordinated with the library and *kyoumuka*. In addition to reading books students do timed reading exercises and speaking/listening activities about books. An innovation this past year was using the MREader quiz system to check student reading.

English B1/2

A discussion format called the PDR Method has been developed involving preparation about a topic, discussion of the topic, and reaction about the topic. The input about a topic is an article of native level English with topics being chosen based on student recommendations. This has been an extremely successful activity and will continue to be developed.

English C1/C2

A discussion format called the PDR Method has been developed involving preparation about a topic, discussion of the topic, and reaction about the topic. The input about a topic is a video and article with topics being chosen based on student recommendations. This has been an extremely successful activity and in particular has been positively received by international students.

CPD program participants observe my class and I discuss about it with them afterwards.

In conjunction with Ben Shearon and Todd Enslen wrote a PD Booklet on running a discussion-based English class called **Preparation / Discussion / Reaction Method Handbook**.

[研究活動]

PUBLICATIONS

Eichhorst, D., Enslen, T., Shearon, B., (March 31, 2016), PD ブックレット Vol. 7, ディスカッションが英語授業を変える
Preparation / Discussion / Reaction Method Handbook

WORKSHOPS / SEMINARS

専門教育指導力育成プログラム July 25 – 26, 2015 Tohoku University

大学英語教授法強化講座：英語を教える大学教員のためのスキルアップコース — インタラクティブな教授法で英語力を向上させる — (国内集中コース, 2日間)

Strengthening University English Classes: A Workshop to Help Teachers Build Better Teaching Practices - Improving English Language Skills through Interactive Teaching Methods"

[大学運営]

Interpreting for the Counseling Office

[業務活動]

Proofreading for the Center Office

[社会貢献]

Member of JALT

Todd ENSLEN 講師

[専門分野] Teaching English as a Second Language, English for Specific Purposes, Professional Development, Active Learning

[教育活動]

Each semester, I teach a total of 8 classes, which include English B1, B2, A1, A2, C1 and C2 classes. In addition to my teaching responsibilities, I work with other English faculty to develop new curriculum for our classes. I continually cooperate with other faculty using the same teaching approach to develop new materials and revise old materials for improvement.

In cooperation with two IEHE faculty members, we published a handbook about discussion-based classes through the Center for Professional Development to help others in their teaching. I also helped in mentoring new faculty and graduate students with regards to their classes, which includes inviting participants in the New Faculty Program and the Preparing Future Faculty Program to my classes to observe my teaching.

[大学運営]

Translation/Proofreading Committee Member

Center for Professional Development Advisory Committee Member

[業務活動]

I help organize workshops and events related to English and teaching in general. This includes working with the Center for Professional development to organize the workshops that I present in and meeting and attending to visiting faculty who come to Tohoku University to present.

I helped to develop a 2 day (8- hour) workshop on best practices in teaching and learning. The main topics covered included learner-centered syllabus design, fostering a classroom community, techniques for making classes more student-centered, flipped classrooms, and overcoming barriers to active learning. Since 2012, I have been the main presenter for these sessions. I developed a 1-day (3-hour) workshop to help teachers and graduate students aspiring to be teachers, who would be teaching in English, develop the basic phrases, vocabulary, classroom management techniques and politeness levels necessary to

conduct a class.

I developed and conducted a workshop focused on the Principles of Effective Language Teaching and Learning and provided teachers with examples of how these principles are being realized in classes at Tohoku University. The workshop also gave teachers the opportunity to explore how these principles could be incorporated into their own teaching contexts.

〔社会貢献〕

I help with Yamagata International Cooperation Center with cultural and language related activities.

Laurel KAMADA 講師（休職中）

Ben SHEARON 講師

〔専門分野〕 TEFL, Curriculum Design, Extensive Reading, Classroom Management, English in the Japanese School System

〔教育活動〕

Taught general education classes (A1, A2, B1, B2, C1, C1R, C2, C2R).

Worked with colleagues to develop extensive reading and discussion curricula.

Worked with 教務課 to administer extensive reading classrooms and cabinets.

Taught a guest lecture on UK universities to students in Prof. Sugimoto's class.

〔研究活動〕

Published PDR Method Handbook. Presented extensively on reading, presentation skills, English education, and personal finance.

〔大学運営〕

Entrance test marking, working with the library to maintain and expand the extensive reading collection, working with the university administration to schedule extensive reading classrooms.

〔業務活動〕

I continued serving as a volunteer interpreter for the counselling services and worked with the Centre for Professional Development to provide lectures and work on materials for publication.

〔社会貢献〕

I continued serving as a school advisory board member for Nika High School. I also gave lectures to students at 2nd High School on English education, as well as a public lectures to librarians in Fukushima and citizens of Sendai concerning English education. Supported Niko and Nika with student research activities, and gave advice to Niko teachers about establishing an extensive reading program in the school.

Vincent SCURA 講師

〔専門分野〕 応用言語学, EFL/ESL, Communication Apprehension[CA], Language Anxiety[LA], Willingness to Communicate [WTC], Language Learning Motivation, 異文化コミュニケーション

〔教育活動〕

English A1 (Reading)- Implemented, modified, enhanced and expanded existing extensive reading program.

English A2 (Reading) - Implemented, modified, enhanced and expanded existing extensive reading program to a higher level than English A1.

English B1 (Communication) Introduced fluency drills that motivated students to use already acquired language skills in natural communicative situations.

English B2 (TOEFL Preparation) Introduced TOEFL test taking techniques resulting in demonstratively higher TOEFL scores.

English B2 (CALL) Implemented and administered on-line learning system with a view to enhance listening skills and improve TOEFL scores.

〔研究活動〕

Educating for Careers Conference, USA February 2016

Academic FORA Committee Chair, Osaka March 2016

Task Based Teaching Methods for SLA Report (To be published mid 2016)

〔社会貢献〕

Invited Speaker

Furukawa Junior High School (February 2016)

Joseph STAVOY 講師

〔専門分野〕 ESL, Communicative Language Teaching Techniques

〔教育活動〕

Courses taught:

English Communication B1, B2 with TOEFL emphasis

English Communication C1, C2 with TOEFL emphasis

Practical English Skills 1 and with TOEFL emphasis

Advanced Reading C1, C2

Developed syllabus for the Practical English Skills Presentation class

〔研究活動〕

Published Book:

Can't Stop Writing, Revised, With Manabu Miyata, Sanshusha Publishers, 111 pages, ISBN978-4-384-33434-0

Ryan SPRING 講師

〔専門分野〕 英語学, 第二言語習得

〔教育活動〕

授業担当: 平成 27 年度は東北大学の全学教育授業「英語 A1・A2, B1・B2, C1・C2, プラクティカル・イングリッシュ」を全部で 16 コマ担当した。また、東北大学の IPLA 授業「International Team Building」と東北大学大学院国際文化研究科の授業「言語研究法」を担当した。平成 26 年度の授業評価アンケートに基づいて、英語 A1・A2 にレッスンを増やし、授業の環境改善に挑んだ。また、英語 C1・C2 の授業の教材などを編集して、授業改善を目指した。

その他: ノースカロライナ大学と協力し、スカイプ・パートナー・プログラムを改善し、平成 27 年度に実施・担当した。

〔研究活動〕

研究業績: 1) (単著) ‘Using advances in SLA research practically in the EFL classroom’, 言語・文化教育センター年報 (2016), pp.46-50, 2) (共著) 「会話能力向上のためのスカイプ利用の有効性」第二言語習得研究会 (JASLA) 第 26 回全国大会予稿集(2015), pp.28-33, 3) (共著) ‘Pilot Study: Investigation of the Effectiveness of Skype for Enhancing the Oral Abilities of Japanese and English Learners’. Proceedings of the 30th Annual Conference of Southeastern Association of Teachers of Japanese (SEATJ) (2015), pp.87-100, 4) (単著) ‘The purpose of the TOEFL ITP test at Tohoku University and its effect on English education’, 東北大学 2014 TOEFL ITP テスト実施報告書(2015), pp.80-89, 5) (分担執筆) 「事象フレームの言語類型と第二言語習得: 移動と状態変化の表現をめぐって」, 由本陽子・小野尚之 (編) 『語彙意味論の新たな可能性を探って』(2015), pp.408-431, 開拓社
受賞: 2015 年 Foreign Language Association of North Carolina 49th Fall Conference において「優秀賞 (Certificate of Appreciation)」受賞

講演等: 1) February 8th, 2016 「留学する前の英語勉強」東北大学交換留学オリエンテーション, 2) December 20th, 2015 「会話能力向上のためのスカイプ利用の有効性」Japan Association of Second Language Acquisition 26th Annual Conference. 東北大学. (With Kato Fumie, Chikako Mori), 3) December 18th, 2015 「東北大学・ノースカロライナ大学間のスカイプ・パートナー・プログラム: その成果と可能性をめぐって」Invited talk at 第 5 回正午 PD 会, 東北大学, 仙台 (with Kato Fumie, Chikako Mori), 4) October 24th, 2015 “The effectiveness of using Skype to improve communicative abilities” The Foreign Language Association of North Carolina 49th Fall Conference. Sheraton Imperial Hotel & Convention Center, Durham, NC, USA. (With Kato Fumie, Chikako Mori)

その他: ノースカロライナ大学の加藤先生, 森先生と一緒にスカイプ会話の第二言語教育に適用する共同研究を行った。

〔大学運営〕

ノースカロライナ大学シャーロット校と東北大学の交換留学協定締結の副担当者。

メリーランド大学と東北大学の交換留学協定締結の副担当者。

〔業務活動〕

学生相談室の通訳業務を行った。

スカイプ・パートナー・プログラムを TGL ポイント対象科目として登録。

〔社会貢献〕

東北大学新聞の記事「スカイプで伸ばす英語力」(平成 27 年 12 月 16 日, 426 号 3 頁)に取り上げられ, 記事の協力をした。

Richard MERES 講師

〔専門分野〕 Communication, English Linguistics

〔教育活動〕

A1 and A2 English Reading

B1 and B2 Communication (Presentation and Discussion)

B1 and B2 English Communication (CALL)

C1 and C2 English Communication (CALL)

Helped build student English reading skills through extensive reading techniques

Helped build student English presentation and discussion skills

Helped increase student knowledge and interest in foreign culture

Used the CALL system to improve student English speaking, listening, and reading skills

〔研究活動〕

Researched and reported on the importance of global competencies in English communication education

〔大学運営〕

Provided model lessons at the 2015 OPEN CAMPUS events July 2th and July 30th, 2015 on the Kawauchi Campus

Presented English language e-learning techniques to promote 高大連携 at the 科学者卵の養成講座 event July 18th, 2015 on the Aoba Campus

〔業務活動〕

Presented at IEHE's Lunchtime PD Presentation event in October, 2015.

The PD title was:

Integrating presentation and discussion skills into the B2 English Communication curriculum. Helping university students meet the challenges of a global work environment in the 21st century.

〔社会貢献〕

Served as a judge for The 1st A.T.E.L. English Oratorical Contest for ATEL Cup on October 25th, 2015 at Tohoku Gakuin University's, Tsuchitai Campus

Barry KAVANAGH 講師

〔専門分野〕 Sociolinguistic, English Linguistics, Applied Linguistics

〔教育活動〕

Courses taught

A1, A2, B1, B2, C1, C2, CALL, PES2

Educational Activities

Development of syllabi for the above courses

Development and creation of teaching materials

Creation of assessment criteria

Team teaching with other lecturers

Development of a new CALL course

Group / individual advising

Gave advice to students regarding studying abroad

〔研究活動〕

研究業績 : 1) "The relationship between smoking mothers and their children's lifestyle", 12th Asian Congress of Nutrition, Yokohama, Japan, May 14th-18th 2015, 2) "Environmental factors effecting the bringing up of a bilingual child: A study of the bilingual *haafu* in rural Japan", The 21st International Conference of the IAICS cum The 11th Biennial International conference of the IAICS, July 15th-18th The Hong Kong Polytechnic University, Hong Kong, 3) "Bilingualism among mixed race children in Japan", The 20th PAAL Conference proceedings (p.120-121), December 5-6th 2015, Korea University, Seoul, Korea, 4)「英国在住日系国際児のバイリンガル育成に関する要因」, 第 26 回第二言語習得研究会 (JASLA) 全国大会 proceedings (p.65-66), 2015 年 12 月 19 日—20 日, 東北大学 (川内キャンパス), 5) "Sociolinguistic factors that influence the bringing up of biracial bilingual child in England and Japan", 1st Bristol Postgraduate Conference on Language and Society Clifton Hill House, University of Bristol, 4th March 2016, 6) "An examination of CMC theory and online relational communication through extra-linguistic signs", Journal of International Cultural Studies, Vol.22 (p183-201), 7) "Native speakerism and English language education in Japan", 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要 (第 2 号) (p.201-209)

科研費 : I continued with the second year of my research on bilingualism among bicultural children in the UK and Japan. In addition to visiting schools and educational establishments and meeting teachers I interviewed families and their children

in Japan and the UK and along with questionnaire data was able to present my findings at conferences and write papers.

共同研究：Collaborated on a piece of research that examined the relationship between smoking mothers and their children's lifestyle.

〔大学運営〕

Tohoku University Open campus. English demo lesson, July 29th.

〔業務活動〕

TOEFL report 「東北大学平成 27 年度 TOEFL ITP テスト実施報告書」

Building for a better TOEFL future

〔社会貢献〕

東北大学大学院国際文化研究科の公表雑誌 Globe (No.28)に「博士論文を終えて」という記事を投稿した。

張 立波 講師

〔専門分野〕 中国語教育・日本文学・中国文学

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ」, 「展開中国語Ⅰ・Ⅱ」, 「展開中国語Ⅲ・Ⅳ」, 現代大学論「中国の大学」, 学際融合教育科目「アジアを知ろう、感じよう」

留学生の受入れ：中国からの特別訪問研究生の受け入れ, 世界大学生中国語コンテスト指導（2015 年度“漢語橋”世界大学生中国語コンテスト新潟予選大会に関連して, 本大会に出場する学生の学内選抜, 指導及び引率）, 東北大学 専門教育指導力育成 2015 年度北京語言大学研修プログラムの開発・実施

その他：学生の中国大学留学への推薦状の作成及び手続きのサポート, 学生の中国語学習のモチベーションを高めるため, 「漢語角」（中国語コミュニティ）活動の継続

〔研究活動〕

研究業績：（共著）「日本における大学中国語教育の充実を目指して—教育関係共同利用拠点プログラム「中国語教育強化講座」の取り組み—」, 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要 第 2 号, 2016.3, 271~279

〔大学運営〕

部局内委員会：言語・文化教育センター運営会議メンバー

〔業務活動〕

学生支援業務：留学生相談通訳支援者

言語・文化教育センター業務：2015 年度のオープンキャンパスにおいて, 中国語コーナーの企画, ネイティブ教員による授業デモの実施

〔社会貢献〕

全日本中国語スピーチコンテスト宮城県大会審査員

趙 秀敏 講師

〔専門分野〕 中国語教育, 教育工学, e ラーニング

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「基礎中国語ⅠとⅡ」の各 8 コマを担当し, 各授業において, 学習意欲の向上, 効果的な教育の実現を目指して, ICT（情報通信技術）を活用したブレンディッドラーニングを実施した。

教材開発：中国語ブレンディッドラーニング用教科書・指導法, 及びスマートフォン利用の復習教材の開発に取り組み, 教材設計方針を明らかにした。

その他：東北大学 専門教育指導力育成プログラムの開発・実施（平成 27 年度北京語言大学研修を実施し, 大学教員の中国語教育指導能力の開発支援に従事した。また, 本研修に対し, 研修参加者から比較的高い評価を得た。）

世界大学生中国語コンテスト指導（2015 年度“漢語橋”世界大学生中国語コンテスト新潟予選大会に関連して, 本大会に出場する学生の選抜, 指導及び引率に従事した。参加した学生のうち, 1 名が最優秀賞, 2 名が優秀賞を受賞した。）

〔研究活動〕

研究業績：1)（共著）「基於教學設計理論的日本首次出版的大學初級華語 Blended Learning 教材の開発と実践」, 臺灣華語文教學學會『華語學刊』, Vol.19, pp.23-40 (2015.12), 2)（共同発表）「基於教學設計理論的日本大学初級漢語 Blended Learning 中的 e-Learning 教材の開発——從個人電腦教材向智能手機的轉換」, 世界漢語教學学会, 12th International Symposium on Chinese Language Teaching, 於：上海（中国）華東師範大学 (2015.12), 3)（共同発表）「大学初修中国語ブレンディッドラーニングのためのスマートフォン利用復習教材の設計」, 教育システム情報学会研究報告, Vol.30, No.4, pp.3-8, 於：岩手県立大学 (2015.11), 4)（共同発表）「大学初修中国語授業でのリフレッシュタイムに対する受講者の意識調査」, 教育システム情報学会研究報告, Vol.30,

No.3, pp.43-48, 於：静岡大学 (2015.9), 5) (共著)「初修中国語ブレンディッドラーニング用教科書及びその指導法と評価方法の設計方針」, 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要 (第2号), pp.281-295 (2016.3), 6) (共著)「日本における大学中国語教育の充実を目指して一教育関係共同利用拠点プログラム「中国語教育強化講座」の取り組み」, 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要 (第2号), pp.271-279 (2016.3)

科研費：基盤研究(C)「中国語ブレンディッドラーニングのためのスマートフォン利用復習教材の開発と評価」(H27～H30)

その他：平成 27 年度国立大学改革強化推進補助金事業「実践的中国語コミュニケーション能力を育成するためのブレンディッドラーニング用教科書及びその指導法と評価法の開発」において、研究代表者として本事業に取り組んだ。

【業務活動】

機構の業務：東北大学専門教育指導力育成プログラムにおいて、中国語を教える大学教員のためのスキルアップコース（海外研修）の開発・実施に携わり、スキルアップを目指す大学教員の職能開発支援に従事

言語・文化教育開発室業務：東北多文化アカデミー財団と本機構の共催事業「TTA-夏季短期留学 日本語研修プログラム」に協力し、平成 27 年度特別訪問研修生 2 名を受け入れ

【社会貢献】

年 3 回実施する日本中国語検定協会検定試験の仙台会場の試験監督を担当。

平成 27 年度のオープンキャンパスにおいて、言語・文化教育センターの初の試みとして、ネイティブ教員による授業デモを行うとともに、我々が開発し、現在東北大学の初修中国語教育において使用している e ラーニング教材を展示。

金 鉉哲 講師

【専門分野】 韓国文学・伝統芸能

【教育活動】

授業担当：全学教育「基礎朝鮮語Ⅰ」「基礎朝鮮語Ⅱ」

この科目は韓国語の学習歴が殆ど無い学生が中心となっている。そのため、何よりも学生たちに韓国と韓国文化に関する興味を持たせることが大事である。興味を呼び起こす方法として一ヶ月に一回程度は日本と深く関わりがある韓国の最新ニュース、話題などを中心に韓国文化・韓国人の考え方を紹介している。さらに学生の興味が高い歌・ドラマ・映画なども学習教材として積極的に取り入れている。

全学教育「展開朝鮮語Ⅰ」「展開朝鮮語Ⅱ」

この科目は中級レベルの受講者が中心となっている。そのため、学生の興味とレベルに合わせて日常会話の決まり文句を中心にしつつ歌・TV ドラマ・映画・最新ニュースなどを学習教材として使っている。特に、異文化理解も視野に入れて、韓国人の思考や哲学を把握できるテーマも授業内容に入れた。

全学教育「展開朝鮮語Ⅲ」「展開朝鮮語Ⅳ」

この科目は中級・上級レベルの受講者が中心となっている。単なる韓国語の習得だけではなく、比較文化的な観点から異文化(韓国)についても理解を深める。特に、韓国人の感情表現、韓国旅行と地域文化の特徴、韓国料理と食文化、韓国大学生のキャンパスライフなどが授業内容である。

教育支援活動：さらに上のレベルを目指す学生のために一ヶ月に二回程度「韓国人ネイティブサポート」という勉強会を行っている。韓国人の留学生、大学院生、研究員、教員と一緒に参加して、学生たちの韓国理解や韓国語学習をサポートしている。

【研究活動】

研究業績：1) (共著)『韓国民俗芸術事典』, ソウル国立民俗博物館, 2015, 2) (単著)「日本における韓国語教育の現況と課題」, 『韓国初等国語教育』59, 韓国初等国語教育学会, 2015.12.13, 127～154 頁

講演等：「韓国 TV ドラマのリメイク特徴に関する研究」, The Central and East European Society of Koreanology, Russia, Moscow State Linguistic University, 2015 年 10 月 29 日～30 日

科研費：「日韓テレビドラマおよび映画にみる大衆の欲望の特徴に関する研究」(基盤研究(C), 平成 25 年度～平成 27 年度)

【社会貢献】

各種委員等：宮古市の「宮古市震災の記憶伝承事業」に東日本大震災記録調査会の調査員として参加している。

学会活動：海外では、韓国の「パンソリ学会」で海外交渉理事として活動しながら、日韓芸能研究者の研究交流のために努力している。日本国内では、「日本韓国語教育学会」の東北理事を務めている。

Cecilia SILVA 講師

【専門分野】 Foreign Language Education

【教育活動】

I am in charge of three Spanish courses in level A1 and two courses in level A2.

As regard development of educational material, in 2015 I made some necessary changes in the handbook I have been writing

since 2012, developed videos for increasing listening skills, practicing grammar, and introducing conversational and cultural features.

Regarding extra-curricular activities, I searched for information about Spanish studies abroad and researched about the Spanish proficiency test (DELE). As a result of such research, we are having the DELE exam for the first time in May 2016.

As regards Spanish studies abroad, I joined the Faculty-Led program proposed by the Global Learning Center. In March 2016, together with Professor Kazuko Suematsu, I visited two universities in Spain, Complutense University and Carlos III University, in order to find a suitable place for students to pursue Spanish language and culture courses.

〔研究活動〕

a) Regarding introduction of cultural issues in the syllabus, I synthesized theory and practice in the following article:

- 1) *Language and culture: atheoretical and practical classroom suggestion for closing the gap*. Studia Romanica Posnaniensia XLIII-4 (2016). Posnan, Poland. (accepted)

Besides, I made a synthesis of practical issues related to language and culture and conducted the following workshops:

- 2) *Bridging the Gap between Students and Textbooks and Integrating Culture in Language Teaching*. Presidency University, Dhaka, Bangladesh. Sep. 19, 2015.

b) With regard to the development of educational material, I presented a synthesis of the results in the following conference:

- 3) *Narrativa profesional: herramientas para reflexionar, enseñar y aprender*. XXVI International Conference of ASELE (Association for Teaching Spanish as a Foreign Language). Granada University, Spain. Sep. 16-19, 2015.

c) I started a portfolio project which I describe in the following conference:

- 4) *Self assessment of Speaking and Writing as Factor of Motivation in Foreign Language Learning*. JSET 第31回全国大会, 日本教育工学会, 電気通信大学, Sep. 21-23, 2015.

Besides educational topics, I am profoundly interested in literature and I am nowadays researching Kazuo Ishiguro's works. As a partial result of such research I published an article about memory as topic and technique, and made a presentation on historical and metaphorical places described in Ishiguro's works.

- 5) *Los Personajes de Kazuo Ishiguro: en Busca de Respuestas en el Pasado*. (Ishiguro's characters: in search of answers in their pasts). Confederación Académica, Nipona, Española y Latinoamericana Cuadernos ISSN 1344-9109, Canela Vol. 26, May 2015 (pp.9-23).

- 6) *Marcos históricos y mundos imaginarios en la obra de Kazuo Ishiguro* (Historical frames and imaginary worlds in Kazuo Ishiguro's works). XXVII Conference of CANELA (Confederación Académica, Nipona, Española y Latinoamericana), Nanzan University, Nagoya. May 16-17, 2015.

Also, within the field of literature, I am researching historical novels in Argentina, and gave the following presentations:

- 7) *La reconstrucción femenina del espacio en la novela histórica de Cristina Bajo* (Feminine reconstruction of space in Cristina Bajo's historical novels). XVII Conference of the International Federation of Latin American and Caribbean Studies, Busan University of Foreign Studies, Busan, Korea. Aug. 25-28, 2015.
- 8) *Francisco Maldonado da Silva, un marrano en el Nuevo Mundo* (Francisco Maldonado da Silva, a pig in the New World). IX International Conference of Asian Hispanic Studies. Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand. Jan. 22-24, 2016.

Bernd SCHACHT 講師

〔専門分野〕 German Travel Literature, Teaching German as a Foreign Language

〔教育活動〕

授業担当: 全学教育「基礎ドイツ語 I, II」(理農, 工学, 医歯薬, 法経)

その他: オープンキャンパスの体験授業(ドイツ語)の担当(7月29日~30日)

〔大学運営〕

交換留学派遣候補者の二次選考 ドイツ留学希望者の面接試験(11月26日~27日)

〔社会貢献〕

タイのスリン市とロイエット市の地元ボランティア団体と連携し, 収入が少ない農家の子供たちに玩具やゴム製の小型プールを無償で配るボランティア活動の参加(3月4日~9日)

Bertrand SAUZEDDE 講師

〔専門分野〕 French Phonetic, Linguistic

粕壁 善隆 教授

〔専門分野〕 粒子線材料工学

〔教育活動〕

授業担当：学部専門教育「量子力学入門」（工学部生 70 名ほど）では、量子力学の学問体系の学修を第一としながら、量子力学の創世記の多くの研究者の国際交流、協定校のウィーン大学出身のシュレーディンガーが波動力学を確立したことなどを含めて、量子力学の創生の意義、相補性を基礎とした世界観等についても興味を持つよう工夫した。大学院科目「材料界面機能学」、「先端マテリアル物理化学セミナー」、「金属プロセス工学セミナー」および研究室での「金属フロンティア工学修士研修」などを担当し、物性物理学、材料工学の発展に寄与するよう工夫した。

学位論文指導：修士 1 名

留学生の受入れ：短期留学生受入れプログラム学生（1 名）を受入れて教育・研究指導を行った。

その他：以上の部局教員としての教育活動とは別に、大学全体としての短期留学生受入れプログラム（JYPE 83 名）、短期共同研究留学生交流プログラム（COLABS 53 名）、などを担当し、研修による指導と発表会（審査会）による指導・評価を行った。また、COLABS 派遣学生の研修発表会（審査会）を行い、指導・評価した。

〔研究活動〕

研究業績：1) (共著) Evolution of Transformation Processes due to the Correlation of Implanted N-ions with Ti Thin Films, JAEA-Review 2014-050 (2015) 141, 2) (共著) Characterization of (111)-oriented Ti_{1-x}Al_xN Thin Films on Monocrystalline AlN by Reactive CVD, JAEA-Review, 2015-022 (2016) 123, 3) (共著) SYNTHESIS AND CHARACTERIZATION OF TITANIUM ALUMINIUM NITRIDE THIN FILMS DEPOSITED BY REACTIVE-CVD, Proc. 20th BIENNIAL European Conference on Chemical Vapor Deposition, Sempach, Switzerland, in press

科研費：基盤研究(C) 「レーザーアシスト・イオン注入法によるシリコン・チタン窒化物の不定比物性と機能化」（代表）

共同研究：原子力機構施設利用総合共同研究「イオン注入法によるアルミニウム・チタン・シリコン窒化不定比化合物薄膜の成長過程のその場観察」（代表）

〔大学運営〕

全学委員会：国際交流委員会委員，教育国際交流運営委員会委員，学術交流協定調査検討委員会委員，学務審議会委員，学生生活協議会委員，国際共同大学院プログラム部門教務委員会委員，安全保障輸出管理委員会委員，自然科学系学生交流実施委員会委員長などとして，東北大学の国際交流，特に教育国際交流について立案，提言，実施などに寄与した。国際共同教育実施委員会委員長として，ダブルディグリープログラムの質保証を伴った推進を図るために，ダブルディグリープログラムガイドラインの大幅な改定を推進した。

部局内委員会：高度教養教育・学生支援機構では，総務委員会委員，紀要編集委員会委員などとして，教養教育・学生支援などに寄与した。グローバルラーニングセンター副センター長として所掌する様々な案件について，センター長を補佐し，JYPE，COLABS，DEEP，TSSP，ダブルディグリープログラムなどの確実な運営に寄与した。

〔業務活動〕

機構の業務：総務委員会委員，紀要編集委員会委員などとして，機構における教養教育・学生支援について，立案，提言，実施などに寄与した。

グローバルラーニングセンター業務：副センター長としてセンターが所掌する様々な案件について，センター長を補佐し，JYPE，COLABS，DEEP，TSSP，ダブルディグリープログラムなどの確実な運営に寄与した。COLABS カリフォルニア大学デイビス校派遣プログラム，COLABS ワシントン大学派遣プログラムを計画立案し実施した。これらの遂行のため，協定校訪問，日本留学フェア・協定校での東北大学留学説明会等を行った。東北大学の FGL，TGL の所掌委員会の委員として学部留学生，派遣学生関係業務を推進した。

〔社会貢献〕

各種委員等：独立行政法人日本学生支援機構海外留学支援制度（短期受入れ・短期派遣）実施委員会委員として，国の留学生施策についての立案，提言，評価などを行い，国の積極的な留学生施策に寄与した。

国際交流活動：米国・ワシントン大学との協働授業を含む国際共同教育プログラムの計画・立案・実施に尽力した。

社会教育活動：東北大学校友会の登録同窓会である，交換留学生同窓会の教員代議員として，交換留学生の本国国際交流への支援を促進した。

末松 和子 教授

〔専門分野〕 異文化間教育学

〔教育活動〕

○以下の PBL 型国際共修科目（全学教育）を前・後期 2 科目ずつ担当した。

1) キャンパス国際化への貢献：留学生との協働プロジェクトを通して国際性を身につけよう II（英語・前期），同 I（英語・後期）

2) 異文化コミュニケーションを通じて世界を知ろう（日本語・前期・後期）

○文系交換留学プログラム（英語、日本語）の責任者としてプログラムの統括、運営、カリキュラム開発にあたった。

○東北大学グローバルリーダー育成プログラムの統括として指定科目の選定、制度設計、リーダーや修了認定審査を担当した。

○留学相談を毎週 2 時間、交換留学申請時期は週に 10 時間以上実施し、留学前研修、留学中および帰国後の教育・進路指導にあたった。文科省のトビタテ JAPAN 留学奨学金採択者数拡大を目的とした申請書作成指導を行った。

○学内の国際交流関連学生団体の指導・支援を行った。

○短期海外研修（スタディアブロードプログラム）の開発・運営にあたり 300 名以上の学生を派遣した。

○高校生向け海外短期留学プログラムを実施し 18 名の学生をカリフォルニア大学リバーサイド校に派遣した。

○短期受入プログラム（東北大学日本語サマープログラム）を開発・実施した。

○新規プログラム（Faculty-led, AO 入試合格者向けプログラム）の開発にあたった。

【研究活動】

論文：『課題解決型の学び合い：プロジェクトを取り入れた国際共修』、『多文化間共修：多様な文化背景の大学生の学び合いを支援する』、坂本利子、堀江未来、米澤由香子（編著）2015、学文社

学会発表：1) A New Trend of Japan-Southeast Asia Student Mobility: What is Happening Now? Annual Conference of Asia Pacific Association of International Education, Melbourne, March 6, 2015, 2) 課題解決型の国際共修が大学を変える：学生の学びと成果、留学生教育学会研究大会、日本電子専門学校、2015 年 8 月 29 日

科研費：基盤研究(C)「グローバル人材育成における国際共修：教授法の確立に向けて」（研究代表者）

その他：1)「国立大学改革強化事業（部局ビジョン）」プロジェクト・リーダー、2)「高度教養教育開発推進事業」研究プロジェクト・リーダー、3) 国際共修事例集作成、4) 国際共修に関する研究会開催（10 月、2 月）

【大学運営】

全学委員会：

●委員長；人文・社会科学系学生交流実施委員会、短期派遣留学実施委員会

◎副委員長；グローバル人材育成事業実施委員会

○委員；国際連携推進機構、国際交流委員会、学術交流協定調査検討委員会、ロシア交流支援室、東北大学基金企画推進室、教育国際化運営委員会、日本語教育研修運営委員会、国際化拠点整備実施委員会、学務審議会・基礎ゼミ委員会

部局内委員会：総務委員会、施設整備委員会、グローバルラーニングセンター幹事会（副センター長）、カリフォルニア大学リバーサイド校東北大学センター運営委員。その他、国際交流関係 WG メンバー、オブザーバー等。

各種支援活動：全学的な留学生オリエンテーション、教職員向けチューター制度運用説明会、チューター向けガイダンスの実施
学生相談所通訳支援、留学生相談員（全学）、国際交流・留学生支援学生団体の取りまとめ、東北大学留学生協会（TUFSA）アドバイザー、東北大学人文社会科学短期留学生受入プログラム学生支援団体 IPLANET アドバイザー、サークル顧問（Del Mundo, International Football Team）、言語文化学習支援活動 Global Café 運営指導

【業務活動】

学生支援業務：留学相談、留学生相談（キャリア支援含む）、留学支援、留学生適応支援

機構の業務：全学教育レビュー、高度教養教育開発推進事業審査員、国立大学改革強化「部局ビジョン」事業審査員

グローバルラーニングセンター業務：センターの運営補助（新任教員研修、対教員相談、教職員間の業務調整等）、東北大学グローバルラーニングセンターリエゾンオフィス設立準備（タイ、ベトナム等）

【社会貢献】

学会活動：留学生教育学会理事、留学生教育学会学会誌「留学生教育」査読委員、留学生教育学会留学生担当教職員分科会総括

国際交流活動：欧米・アジアを中心に学術交流協定校の開拓・関係構築、海外からの訪問者対応は一年を通して約 30 名に上る

社会教育活動：仙台二華高等学校で出前授業

その他：宮城県多文化共生社会推進審議会副委員長、仙台二華高等学校スーパーグローバル高校運営委員

熊代 輝義 教授

【専門分野】国際協力論

【教育活動】

授業担当：全学教育「国際協力：開発途上国の開発と国際社会の貢献」、「International Cooperation」（英語による授業）、「国際開発をめぐる諸課題」

【大学運営】

部局内委員会：グローバル人材育成推進事業実施委員会委員

【業務活動】

グローバルラーニングセンター業務：センターの広報ユニットに所属して広報に関する業務

Frank HANSEN 教授

〔専門分野〕 Functional Analysis

〔教育活動〕

Courses taught:

Foundations of linear algebra

Foundations of calculus

Calculus C (ordinary differential equations)

Probability and statistics

Advanced calculus for functions of several variables (introductory seminar)

Supplemental lessons of calculus

Education support activities:

Comprehensive body of teaching materials placed at the homepage of my courses, including approximately 600 color slides with illustrations and interactive animations and 60 pages of exercises for the students.

〔研究活動〕

Publication of research achievements:

1. An inequality for expectations of means of positive random variables (with P. Gibilisco). Preprint 2016.
2. Quantum entropy derived from first principles. ArXiv 1604.05093 (2016).
3. Perspectives and partial traces. ArXiv 1601.06723 (2016).
4. A note on quantum entropy. ArXiv 1511.09189 (2015). Accepted for publication in Math Phys Anal Geom. Doi 10.1007/s11040-016-9213-1.

Invitations to speak at international conferences:

Invitations to give 3 talks at international conferences.

External research funds:

Grant-in-Aid (科研費) for 2014-2017 in total of 4,030,000 yen.

渡邊 由美子 特任教授

〔専門分野〕 地球化学, アストロバイオロジー

〔教育活動〕

教育支援活動: ファカルティーレッドプログラム(フィールドワークショップ)を企画・開設し, 理学研究科教員とともに地学専攻大学院生 8 名を引率, ペンシルヴェニア州立大学, カーネギー研究所, スミソニアン博物館を訪問。ペンステートではラボセッション, フィールドでの通訳, 大学院生の研究発表会審査員。

その他: 1) 英語での授業の質向上のために学生アンケート, その結果に基づく FD プログラムを企画, 実施。2) 地球科学系学生の卒業論文, 修士論文執筆のための研究遂行に対して助言。3) 大学院生の留学相談, 指導教官の紹介(マッチング)。外国人学生 1 名は今年度 10 月から IGPAS で受け入れが決定, 日本人学生 1 名は 3 月末からペンステートに留学中。

〔大学運営〕

全学委員会: FGL 実施委員会・委員として実施, 運営に貢献。

〔業務活動〕

学生支援業務: 留学生に対する英語での学習, 生活相談支援(学生相談センター, 学習支援センターと連携)。FGL 学生出身国の日経企業紹介セッション開催。アドミニストレイティブ・アシスタント活動の管理。

グローバルラーニングセンター業務: FGL プログラムコーディネーターの諸活動。1) 教員間の交流促進・連携強化(月例 FGL 教員会議開催), 2) 学部, 大学院の FGL プログラム実施状況把握・分析, 3) 英語での授業担当教員対象の FD プログラム企画, 実施, 4) FGL 学生のメーリングリスト整備, 情報提供, 5) 学生リクルーティングのため, 留学フェア参加・海外高校訪問, 6) サマースクール企画, 7) 業務に関連する委員会, 各種シンポジウム, 勉強会への出席。

〔社会貢献〕

国際交流活動: SGU プログラムの共同大学院(地球科学系, joint/double degree コース)設立に向けた, ペンシルヴェニア州立大学と理学研究科の部局間交流協定締結に貢献。

その他: FGL コース学生及び他コースの留学生による仙台市内小学校訪問実施。

Nurbosyn ZHANPEISOV 准教授

〔専門分野〕 Theoretical Chemistry

〔教育活動〕

I have had my lecture courses on Chemistry A (Fundamentals of Chemical Bond Theory), Chemistry B (Fundamentals of Physical Chemistry), Chemistry C (Fundamentals of Basic Organic Chemistry), Mineralogy & Petrology (Fundamentals of Crystalline Structures of Solids) and Fundamental Chemistry Seminar for the FGL and other registered undergraduate students. In addition, I am continuing my interactions and discussions with Professors of Department of Chemistry of the School of Science, Tohoku University.

〔研究活動〕

I have completed the final year of my Grants-in-Aid project (Scientific Research C No. 25390144) which is devoted on theoretical study on new metallic Carbon K4 and metal-organic frameworks. The results of my study are presented in International Congresses and Conferences. They are as follows:

(Poster) Modified Metal-Organic Framework and Metallic Carbon K4 Structures. A Theoretical DFT Study. The 15th International Congress of Quantum Chemistry (15th ICQC), Beijing, China. June 8-13, 2015

(Invited Lecture) Cluster Approach to New Materials Design. International Catalysis Symposium, Osaka Prefecture University, Osaka, Japan. June 27th, 2015

(Invited Lecture) Theoretical DFT Study on Structure and Chemical Activity of Complex Modified Catalysts. The International Conference on Functional Materials for Frontier Energy Issues (ICFMFEI 2015), Novosibirsk, Russia. October 1-5, 2015

(Invited Lecture) Structure and Chemical Activity of Complex Modified Catalysts. A Theoretical DFT Study. The 6th Japan-Chech-Slovak International Symposium on Theoretical Chemistry (6th JCS), Smolenice, Slovakia. October 11-15, 2015

(Invited Lecture) Structure and Chemical Activity of Complex Modified Catalysts. The 10th International Conference of Asian Consortium on Computational Materials Science (10th ACCMS-VO), Sendai, Japan. November 1-3, 2015

(Invited Lecture) Theoretical Insights into the Structure and Chemical Activity of Complex Modified Catalysts. The 7th Asia-Pacific Conference on Theoretical Computational Chemistry (7th APCTCC), Kaohsiung, Taiwan. January 25-28, 2016

〔大学運営〕

I am a member of the Japan-Russia relations office of Tohoku University as well as FGL Implementation Committee member. I have been a Steering Committee Member for the Japan-Russia Joint Seminar (Sendai, Japan, March 18-19, 2016) on Advanced Materials Synthesis Process and Nanostructure organized by “Re-inventing Japan Project” of JSPS and Japan-Russia Relations Office of Tohoku University.

〔社会貢献〕

I am an acting Reviewer in a number of Academic Scientific Journals (The Journal of Physical Chemistry (A, B, C, Letters), Organic Letters, Journal of Organic Chemistry, Chemical Physics Letters and many others). I have given also a welcome address and round-table discussions for the Russian students (from Far-Eastern Federal University, Russia) who have visited Tohoku University for one week (exchange program of Tohoku University). Also, I have participated in a Symposium on “How to create Innovative Leaders for new Japan-Russia Relations” of Tohoku University.

Igor TRUSHIN 准教授

〔専門分野〕 Mathematical Analysis and Partial Differential Equation Theory

〔教育活動〕

Courses taught: Calculus A, Calculus B, Linear Algebra A, Linear Algebra B, Mathematics Seminar, Supplementary Lessons on Calculus

〔研究活動〕

Publications:

1. On Inverse Scattering on a Sun-Type Graph (with K.Mochizuki), Trends in Mathematics/ Research Perspectives, Springer, in press
2. Spectral problems and scattering on noncompact graphs containing finite rays (with K.Mochizuki), J.Inverse Ill-Posed Probl., 23, No.1 23-40, 2015
3. A stationary approach to the scattering on noncompact graphs containing finite rays (with K.Mochizuki), Current Trends in Analysis and its Applications/ Proceedings of the 9th ISAAC Congress, Kraków 2013, Springer Proceedings in Mathematics and Statistic, 253-263, 2015

〔社会貢献〕

Academic conferences organizer:

1.12th Aobayama seminar (30.6.2.7.2015)

2.14th Aobayama seminar (3.3.2016)

Reviewing committees member: 7 committees

International Exchange activities of Graduate School of Information Sciences, joint GSIS and Faculty of Computational Mathematics and Cybernetics MSU Seminar (Moscow, 7.9.2015)

Martin ROBERT 准教授

〔専門分野〕 Life Science

〔教育活動〕

During Fiscal year 2015, I spent most of my time further developing and teaching five different courses (described below) and held at Tohoku University (Liberal Arts Education). In addition, I also taught one intensive course at Yamagata University.

Courses (Liberal Education) - Tohoku University in 2014

1. Biology A - Essential Cell Biology (Fall, Tuesdays 10:30-12:00)
2. Biology B - Essential Biochemistry (Spring, Tuesdays 10:30-12:00)
3. Biology C - Integrative and engineering concepts in biology: Elements of Physiology and Systems biology (Spring, Wednesdays 14:40-16:10)
4. Life and Nature (Fall, Mondays 14:40-16:20)
5. Introductory seminar: Interactive short course in Marine Biology (July 30 -August 2)

Other courses (Undergraduate and Graduate Education)

6. Yamagata University, Faculty of Agriculture (Summer 2015) Introduction to Effective Scientific Communication (Intensive course, 15 hours over 3 days)

Educational activities

- In all courses I implemented the use of social network-based course Community and online resources to share course information with students. This system is also used to stimulate student interest and interactions outside the classroom and also a platform to distribute content provided by students themselves. This lead to successful out of class interactions and discussions complementary to what happens in class.
- The instructor-assigned Student Learning Assistant (SLA) system was developed, arranged and utilized for the first time, for two of my courses to provide additional support for students and help their learning.
- I also participated in Professional Development activities held both at TU and the University of Tokyo, that targeted activities to improve the international students experience as well as improve the use of active-learning based approaches.

〔研究活動〕

Publication of research achievements

Articles

1. Iuchi H., Tomita M. and Robert M. (2015) Amino acid acetylation by orphan enzyme YhhY in Escherichia coli. Keio SFC Journal, 15, 1, 402-413

Presentations at conferences/seminars

(Oral)

1. Insight into bacterial metabolic function: from enzymes to cell-cell. FRIS informal seminar series, Tohoku University, Sendai, Japan, December 16, 2015
2. Robert M. and Ogryzko V. Quantum biology at the cellular level: are we getting there? Conference on Complex Systems 2015, Tempe, Arizona, USA, September 29-October 2, 2015
3. Bacterial metabolic function: mass and energy conversions at the center of living processes. FRIS research seminar series, Tohoku University, Sendai, Japan, June 5, 2015
4. Conserved patterns of metabolic activity suggest general principles of regulation based on cellular objectives and community constraints. Second symposium on Complex Biodynamics and Networks (cBio 2015), Institute for Advanced Biosciences, Keio University, Tsuruoka, Japan, May 11-13, 2015
5. Metabolic synchronization and possible links to pattern formation in E. coli. Mini workshop on “A crossroad of Biology and Mathematics” Research Institute for Electronic Science, Hokkaido University, Sapporo, Japan, April 30, 2015
6. Metabolic phenotype of Escherichia coli adapted for fast growth on glycerol. Nara Institute of Science and Technology (NAIST), Nara, Japan, April 17, 2015

(Poster)

7. Robert M. Metabolic synchronization and possible links to pattern formation in E. coli. Conference on Complex Systems 2015, Tempe, Arizona, USA, September 29-October 2, 2015
8. Robert M. Insight into E. coli adaptation to glycerol from multi-omics data. QBiC Symposium 2015, High-dimensional data for the design principles of life. RIKEN Quantitative Biology Center (QBiC) Suita, Osaka, Japan, August 24-26, 2015

Acquired Research funds

Frontier Research Institute for Interdisciplinary Science grant (Tohoku University)

Title: Elucidation of metabolic dynamics during pattern formation in bacteria

Amount: 2 000 000 JPY for 07/2015-03/2017 (2 years)

As principal investigator

〔社会貢献〕

In FY 2015, I continued to be active in academic societies, and contributed to an international conference.

Academic societies

International conference

- Session chair: Second symposium on Complex Biodynamics and Networks (cBio 2015), (Tsuruoka, Japan)

Editorial boards

- Member of Editorial Board of Advances in Systems Biology, 2012-
- Member of Editorial Board of Frontiers in Plant Systems Biology, 2012-
- Referee: PLoS Computational Biology, 2015

Academic exchanges

1. Visited the University of Waterloo and University of Ottawa to discuss ways to increase the number of exchange activities within our existing partnership. This is now leading to a new SAP program for TU students, at Renison College organized by Prof. Suematsu for 2016
2. Visited the University of Toronto and contributed to the discussions and preparation for a new faculty-level agreement with the Faculty of Applied Science and Engineering which should be signed in the near future
3. Also visited McGill University, University of Montreal, and McMaster University to start some discussions about possible new exchange agreements with these institutions and examine the best opportunities

I also continued to promote internationally our FGL educational programs as well as starting discussions and contacts to develop and expand Tohoku University's partner network.

Participation in University International Exchanges and student recruitment activities

Summer school 2015 (Several High School Delegations)

July-August 2015

- Helped prepare presentation and organization documents
- Made contact and discussions with participants (School Principals, teachers, and students)
- Hosted closing event

Contribution to International Affairs of Tohoku University

- As mentioned above, I visited several Canadian universities in September 2015
- Made progress so that we are now close to signing agreement with University of Toronto's Faculty of Applied Science and Engineering
- Also visited the General Consulate of Japan in Montreal and the Japanese Embassy in Ottawa
- Visited Canadian Embassy in Tokyo to explain our programs and discuss support for promoting interactions between TU and Canadian Universities
- Participated in meetings during U. Sydney delegation visit to TU.

Others:

- Held discussions/meetings with GLC/TGL program staff members to improve internationalization through increased interactions between foreign and Japanese students

高橋 美能 准教授

〔専門分野〕 異文化間教育, 人権教育

〔教育活動〕

授業担当: 国際共修授業「人権教育の促進」「国際理解教育の実践」(指導言語は英語), 「留学生と日本人学生の協働プロジェクト (美術館編)」「留学生と日本人学生の協働プロジェクト (博物館編)」(指導言語は日本語)を担当。

加えて、「海外研修」科目を担当。これは春・夏休みの間の短期留学であるが、これらのプログラムに参加する学生に対して、出発前、留学中、帰国後のサポートに当たるとともに、事前・事後研修、成績判定等に携わった。

学生会活動の指導：混声合唱団の顧問を務め、定期演奏会の出席や日々の活動が円滑に進むようさまざまなサポートにあたった。
その他：交換留学生（IPLA）の担任を務めた。毎学期の履修相談や、生活上のさまざまな悩みへの対応、研修旅行の引率など、留学生の学業・生活面でのサポートにあたった。

【研究活動】

論文：1) “Case Study of An International Joint Class With International and Japanese students: Learning Effects and Approaches taken regarding Language” “Osaka Human Sciences,” Graduate School of Human Sciences, Osaka University, 第2号, 151-169, 2016年, 2) 「国際共修授業における言語の障壁を低減するための方策」『大阪大学大学院 人間科学研究科紀要』, 第42巻, 123-139頁, 2016年, 3) 「第IV部 第14章 人権と教育」『教育学入門』, ミネルヴァ書房, 103-110頁, 2015年, 4) 「留学生と日本人学生の国際共修授業における一考察—言語の問題へのアプローチと学習効果—」, 『大阪大学大学院 人間科学研究科紀要』, 第41巻, 173-192頁, 2015年

口頭発表：「国際共修授業における言語の障壁を乗り越える方策—学生と教員のアクション・リサーチを基に—」, 国立大学留学指導研究協議会『留学生交流・指導研究会』, 2015年2月

【大学運営】

全学委員会：短期派遣留学実施委員会, 人文・社会系学生交流実施委員会, グローバル人材育成推進事業実施委員会の委員を務めた。

部局内委員会：研究倫理委員会の委員を務めた。

【業務活動】

学生支援業務：1) 海外留学全般（大学間学術交流協定校の交換留学, SAP, 危機管理, 事前・事後研修）。2) 学生の留学相談を担当。留学の目的やプログラムの紹介など, 個々の学生の相談内容に合わせて, 適切なアドバイスに努めた。3) さまざまな問題を抱えて学生相談所に来る留学生の通訳を務め, 単に言葉を訳すだけでなく, 留学生特有の心の悩みについて, カウンセラーと一緒に解決策を考え, 学生のサポートに全力を注いだ。

【社会貢献】

各種委員等：独立行政法人日本学生支援機構の海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）に関わる評価分析委員会ワーキンググループの構成員を務め, 大学の国際担当者とのネットワークを広げ, 大学の国際化の取り組みを知り, 日本の派遣促進に努めた。

学会活動：国立大学留学生研究協議会の紀要編集委員を務め, 投稿論文の審査と, 査読者の選定, 校正等の作業に携わり, 委員会を通じて国立大学の留学生教育の動向を深く知ることができた。

その他：宮城県仙台二華高等学校スーパーグローバルハイスクール運営指導委員会委員を務め, 委員会への参加や授業参観を通じて高校の国際化に必要なことは何かを考えて意見交換をしながら, 高大連携を図った。

富田 真紀 准教授

【専門分野】 国際教育開発・評価

【教育活動】

授業担当：全学教育「国際課題について知り、考えよう—国連アカデミックインパクト—」（後期）, 「海外研修」（前期集中・後期集中）, 「海外フィールドワーク」（前期集中・後期集中）

教育支援活動：グローバル人材育成プログラム（以下, TGLプログラム）アドバイジング（担当学生：約150名）

目標設定セミナー開催（全TGL生対象）, 目標設定面談, グローバルリーダー面談, 各種アドバイジング（目標設定シート, グローバルリーダーおよびTGL修了報告書等）

その他：海外フィールドワークの科目の立ち上げ（対象プログラムの基準の決定, 単位認定ガイドライン作成, 事前事後研修を含むシラバスの決定等）

【研究活動】

学会発表：「Is Heyneman-Loxley Effect identified? - From the analysis of TIMSS data in South East Asia -», Comparative and International Education Society 60th Annual Conference, 10 March 2016, Vancouver

科研費：「基礎研究C」, 課題番号：26381161（直接360万円, 総額468万円）

「経済水準と学校要因および家庭環境要因が学力に与える影響との関係についての研究」（2014～2017）

その他：2015年10月 専門社会調査士資格取得

【大学運営】

全学委員会：1) グローバル人材育成推進事業実施委員会委員, 2) TGLプログラム制度改革ワーキンググループリーダー（制度変更についての協議, 提案のとりまとめ, 実施委員会の議題資料の作成）

【業務活動】

グローバルラーニングセンター業務：

1) TGL プログラムの運営

- ・部局連携：理学部、薬学部（部局でのプログラム説明、指定科目確認等）
- ・「グローバルゼミ」の発案、構想、ルール整備、説明資料の作成。
- ・目標設定セミナーの見直し、改善。（チェックシート、ワークシートも更新）
- ・グローバルリーダー、TGL 修了報告書のガイドライン作成。
- ・ポイント審査関連業務

2) 英語関連業務

- ・TEA の講座（学期内、長期休暇）のスケジュール、カリキュラムの協議・調整。
- ・28 年度の TEA の英語講座、アドバイジングの委託業者の選定。
- ・TOEFL IBT の委託業者の選定、年度内に IBT を 2 度実施。（28 年度以降も継続）
- ・TOEFL ITP の委託業者との実施調整、次年度に向けた運営改善協議。
- ・英語試験説明会、TOEFL IBT スキルアップセミナー等英語関連の各種説明会、セミナーの開催。

島田 和久 准教授

【専門分野】国際政治学（東南アジア）

【教育活動】

授業担当：TGL プログラムにグローバルゼミを新設した。グローバルゼミは新 1 年生より適用される TGL 新制度の柱として位置づけられており、1 クラス 20 人限定の授業である。この授業は TGL のグローバルリーダーとなるための必須科目であり、入学間もない学生に対して、様々な視点からグローバル人材として必要な素養の習得に寄与するものである。

教育支援活動：留学アドバイジングについては、理系・文系問わずにアドバイジングを行い、理系であっても文系の素養が必要であることや、また、その逆についても学生に指導をしてきた。このように分野を横断的に理解していくことが複雑化するグローバル社会で大きく役立つことを学生に説いてきた。

2016 春 SAP を 3 プログラム担当し、45 人の学生をイギリス、カナダ、アメリカに派遣した。事前研修、事後研修、成績評価などを通して、学生に留学の楽しさ、海外に出ることの意味などを伝えた。多くの参加学生が帰国後に有意義だったという感想を送ってきており、そのうちの 2 人は交換留学のための留学相談に申し込んできた。今後、交換留学の奨励について継続的に指導を行っていく。また、トビタテ！留学 JAPAN の説明会および二次面接前の模擬面接実施の運営担当、応募書類の事前レビューを担当。トビタテ！留学 JAPAN の合格者を増加させつつある。

【研究活動】

講演等：1) “A New Security Concept is forged in ASEAN?: In the Interplay between the US and China over Southeast Asia”, Malaysia-Japan Global Seminar Series, University of Malaya, Malaysia（2016 年 3 月 8 日、Malaya 大学人文社会学部招聘講演、人文社会学部長会議室）、2) “Five years on, Japan’s Recovery Process after the Earthquake of March 2011”, Asian Studies Seminar Series, University of Adelaide, Australia（2016 年 3 月 11 日、Adelaide 大学人文社会学部）

【大学運営】

全学委員会：短期派遣留学実施委員会委員、グローバル人材育成推進事業実施委員会委員として大学のグローバル化を担当してきた。特に、後者では、TGL の制度見直しを行い、新制度を委員会に諮るに至るまでの制度設計に深く関与してきた。TGL ポイント審査会の運営を担当し、ポイント審査会の月例化、および、審査フローの制度整備などを行った。

【業務活動】

グローバルラーニングセンター業務：TGL の新制度設計に深く従事してきた。特に、4 年後に 100 人の TGL 修了と GL 認定学生を輩出するための仕組みの提案を行った。また、SAP については、プログラム数の増加、参加学生の増加によって事務負担が増大しており、これを軽減するための業務効率化や外部委託などの検討に従事した。さらに、GLC の組織体制や業務分担の見直しについて業務分担表の作成を担当した。

【社会貢献】

2016 年 2 月 12 日に会津高校のグローバル人材育成プログラム発表会に招聘され、学生たちの発表に対して指導・助言を行った。

田口 香織 特任准教授

【専門分野】留学生キャリア支援論

島崎 薫 講師

【専門分野】日本語教育、留学生教育、教育人類学

【教育活動】

授業担当：全学教育/IPLA「宮城の伝統文化を通じた日本理解」，「日本の伝統文化を通じた日本理解」を担当。Study Abroad Program (SAP)の事前・事後研修を担当（UNSW，台湾政治大学・東呉大学，貿易大学）。

教育支援活動：IPLA アカデミックアドバイザー，TGL アカデミックアドバイザー

その他：サマープログラム（TUJP）のコーディネーター，超短期プログラムの受け入れコーディネーター

【研究活動】

論文：1) (単著)「学生と学生をつなぐ：学生はどうつながり合い，そこからどう学んでいるのかを考える」トムソン木下千尋（編）『人をつなぐ、世界をつなぐ、日本語教育』くろしお出版（印刷中），2) (共著)「次世代をになう大学院生ネットワーク：縦糸と横糸を編んでつながる」トムソン木下千尋（編）『人をつなぐ、世界をつなぐ、日本語教育』くろしお出版（印刷中），3) (単著)「「教える」日本語教育から「デザインする」日本語教育へ」『日本語教育学のデザイナー—その地と図を描く—』，凡人社，(2015) pp.200-201，4) (共著) Disaster Risk Reduction Education for International Students through Inter-University Collaboration, *Journal of the International Education & Exchange Center*, Volume 2, (2015)

口頭発表：1) (共同発表) Overcoming the Isolation and Creating the Community of Postgraduate Students: A Case of a Postgraduate Workshop, Languages and Cultures Network for Australian Universities 2015 National Colloquium, Sydney, 2015 年 11 月 25～27 日，2) (単独発表) The role of *senpai* in a Community of Practice: a case study of a Japanese Student Association, Japanese Studies Association of Australia 2015, Melbourne, 2015 年 6 月 30 日～7 月 3 日，3) (単独発表) 実践コミュニティで日本語学習者はどのように学んでいるのか—「なりたい自分」と「今の自分」との相互作用，日本語教育学会春季大会 2015，東京，2015 年 5 月 29～30 日，4) (共同発表) 大学の枠組みを越境した連携：防災・減災に関する東北大学・名古屋大学での授業の実践報告，留学生教育学会留学生担当教職員分科会研究会，東京，2015 年 2 月 19～20 日

その他：東北大学大学改革強化推進補助事業「地域の人々とともに体験しながら学ぶ国際共修授業のモデル開発」（50 万円），2015～2017 年

【大学運営】

全学委員会：国際交流委員会 日本語研修教育運営委員・日本語研修教育運営専門委員

【業務活動】

学生支援業務：学生相談所で留学生の通訳・関係書類作成・メール対応（計 30 時間程度），ボランティア支援室と共同で留学生向け被災地スタディーツアーを実施

【社会貢献】

国際交流活動：留学生の雀踊りチームの演舞を地域の行事で披露（2015 年 5 月，6 月，7 月）

水松 巳奈 助手

【専門分野】国際高等教育

【教育活動】

授業担当：全学教育（前期）「世界に飛び出そう！留学のすすめ」（日本語），「グローバル社会で活躍する人材のための国際教養」（日本語），「海外研修」（日本語）
（後期）「世界に飛び出そう！留学のすすめ」（日本語），「仙台の国際化推進プロジェクト：留学生と共に地元百貨店に貢献しよう！」（国際共修授業：英語），「海外研修」（日本語）

教育支援活動：

- ・東北大学グローバルリーダー育成プログラム（以下，TGL プログラム）でのアカデミックアドバイジングの実施し，担当学生 7 名がグローバルリーダー認定，3 名が TGL プログラム修了をした。また，TGL プログラム関連の各種イベントの実施，特に目標設定セミナーの企画，実施なども担当した。
- ・入学前海外研修における事前研修（4 回）を担当し，また，現地では振り返りセッションを行った。
- ・SAP の担当プログラム参加者のための事前研修，事後研修及び事後報告会の実施。協定校の学生と本学学生とのメール交換やジャーナル記入など，現地での学びの定着をさせるためのしくみ作りをした。
- ・平成 28 年夏実施に向けて，カナダ・ウォータールー大学へ視察，SAP の新規開拓について現地担当者との打ち合わせ，メールでのやり取りを行った。

【研究活動】

研究業績：1) (単独発表)「東北大学における高大接続及び高大連携の事例紹介～入学前海外研修を中心に～」，平成 27 年度第 2 回 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援 Go Global Japan 東日本第一ブロックシンポジウム「連携で育てるグローバル人材」，東北大学（仙台），2016 年 2 月 16 日，2) (単独発表) *International Students' Recruitment and Support at Tohoku University*. KAIE (Korean Association of International Educators) Joint Seminar, ソウル（韓国），2015 年 11 月 3 日

科研費：基盤研究 C「グローバル人材における国際共修：教授法の確立に向けて（末松和子教授）」の研究協力者

その他：「留学生と日本人学生が共に学ぶ国際共修：教育実践事例集」作成（2016 年 3 月）

〔大学運営〕

TGLプログラムの制度設計を引き続き行い、体系的なプログラムとしての確立を目指す。平成27年度は登録者数が2,100名に達し、学部生の約20%が所属するプログラムになった。

〔業務活動〕

機構の業務：学生相談所に相談に来た留学生のための通訳（2015年1月～現在：計10時間程度）

グローバルラーニングセンター業務：

- ・グローバルキャンパスサポーター（GCS）の採用・統括・アドバイジング（2013年～2015年9月）。毎月1回実施したミーティングへの参加、及びGCSレターの作成、各種イベント運営や議事録のまとめなどについて指導した。
- ・インド（8月）及びネパール（2月）における留学フェアに参加、本学についての広報活動を行った。
- ・カナダ・ウォータールー大学にてSAPの新規実施等に関する交渉を行った（3月）。

〔社会貢献〕

国際交流活動：学外の学生団体（米国大学院学生会や日米学生会議など）の学内での説明会実施の取りまとめや運営を行った。

芳賀 満 教授

〔専門分野〕 古代ギリシア・ローマ・オリエント考古学

〔教育活動〕

授業担当：英語による歴史学の共修授業に力を傾注した。対象学生は、中国、韓国、インドネシア、タイなどのアジア諸国、イタリア、イギリス、スウェーデン、オーストリアなどの欧州諸国そしてアメリカ、そして何よりも日本、以上の国々からの学生である。つまり国際学士コース、IPLA、そして通常の全学教育としての本学の学生である。

全学教育で主に修得すべき力として「対象を相対化する力」、副次的には「造形言語を理解する力」と設定した。具体的な授業内容は、以下の2つである。

- 1) History of Art in Ancient Eurasia ~Diffusion of Classical Greek Art into Central Asia：西洋中心史観でも中華思想でもない、ユーラシア大陸からの世界観を重視した。このような視点からの授業はこれまで本学に欠如していたように思う。
- 2) Japanese Art History：美術という視覚哲学から見た日本史である。特にアジア諸国、特に中国と韓国からの学生に日本の歴史を教授することは、困難で且つ重責の伴う行為であった。アジアあるいはユーラシア大陸全体から見た日本との視点を常に保持するように努めた。

他にも、以下の授業等を行った。

- 3) 基礎ゼミ「ユーラシア大陸から考える～反「大勢」の視点の重要性」
- 4) 展開ゼミ「ギリシア・ローマ美術と仏教美術～神々の変容を追う」
- 5) 中川学講師と文理融合授業「アジアを知ろう、感じよう」を開発し、秋季セメスターに実施した。

〔研究活動〕

研究業績：1) (単著)「ギリシア美術の歴史」、天理大学附属天理参考館編『ギリシア考古学の父 シュリーマン ティリンス遺跡原画の全貌』(天理大学創立90周年記念特別展カタログ) 山川出版, 2015.4.10, pp.22-27, 2) (単著)「地中海の考古学」, 上掲書, pp.92-94, 3) (単著)「シュリーマンと考古学(中)」毎日新聞(夕刊)2015年4月23日(木), 4) (単著)「教養の定義～歴史学の立場から～」『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』第1号, 2015年3月, pp.213-227, 5) (単著)「ゲニウス・ロキ(地霊)のデザイン、人間のデザイン、国のデザイン 文明のデザイン? 災害モニュメントを考える」「震災後のデザイン～残すべきものとは(日本デザイン学会第60回春季研究発表大会オーガナイズドセッション 2013年6月23日 記録)」, 『日本デザイン学会誌 デザイン学研究特集号(Specila Issue of Japanese Society for the Science of Design) 特集/震災後の環境デザイン～残すべきものとは(The Vision of Enviromental Design After Earthquake Disaster - What Should We Leave for Future?)』, 第23号巻1号(通巻89号)(Vol23-1 No.89), 2015, pp.26-31

講演等：1)「トロイの木馬の東漸～仏教の中のギリシア図像～」天理大学創立90周年記念特別展「ギリシア考古学の父シュリーマン―初公開! ティリンス遺跡原画の全貌―」(天理参考館) 特別講演会(於天理大学天理参考館2015年5月30日(土)), 2)「仏教美術の中のギリシア図像～トロイの木馬の東漸を追う～」特別講演会(於 岡山市立オリエント美術館 2015年8月29日(土)), 3)「事後の個別・臨機応変の対応から 事前のシステム論への転換 ―日本学術会議の提言―」, 東北アジア研究センター主催ワークショップ『地震災害後の人文学プロジェクトの回顧と研究者の役割の探求』(2015年10月25日, 於東北大学東京分室), 4) "CYBER MUSEUM and CYBER ARCHEOLOGY for Humankind - Some proposals from an Archeological point of view -", UNESCO PERSIST(Platform to Enhance the Sustainability of the Information Society Transglobally) Meeting at Abu Dhabi, 14-16 March 2016

〔大学運営〕

全学委員会：1) 学務審議会委員, 2) 同全学教育科目委員会基礎ゼミ委員会委員長, 3) 同全学教育科目委員会基幹科目委員会委員, 4) 同全学教育科目委員会人文科学委員会委員, 5) 東北大学附属図書館商議会商議員, 6) 同本館学生用図書選書委員会委員, 7) 同

学術情報整備検討委員会委員, 8) 同学術情報資料選定小委員会委員, 9) 同学術情報資料選定小委員会分野別(人文)ワーキング・グループ委員。以上の諸委員会では特に電子ジャーナルの契約に関して審議し, また頻繁に選書作業を行った。10) 人文社会科学系学生交流実施委員会委員としては特に外国学生の受け入れに関わった。11) 生命科学研究科浅虫海洋生物学教育研究センター運営委員会委員, 12) 同センター共同利用協議会委員, 13) 高度教養教育開発検討ワーキング・グループ委員

部局内委員会: 1) 高度教養教育・学生支援機構人間総合科学教育室室長, 2) 同機構学際融合教育推進センター副センター長, 3) 同機構総務委員会委員, 4) 同機構紀要編集委員会委員長, 5) 同機構図書・資料委員会委員長

【業務活動】

人間総合科学教育開発室業務: 中川学講師と正午 PD 会の企画・運営を行い, 13 回実施した。

【社会貢献】

各種委員等: 1) 日本ユネスコ国内委員会ユネスコ記憶遺産選考委員会委員として国内外で種々の活動を行った。2) 日本学術会議連携会員史学委員会「博物館・美術館等の組織運営に関する分科会」幹事, 3) 日本学術会議連携会員史学委員会「文化財の保護と活用に関する分科会」委員, 4) 日本学術会議連携会員史学委員会「アジア研究・対アジア関係に関する分科会」委員, 5) 日本学術会議連携会員哲学委員会「古典精神と未来社会分科会」委員

その他: 京都ギリシアローマ美術館理事

森田 康夫 総長特命教授

【専門分野】 数論幾何学, 整数論, 数学教育

【教育活動】

授業担当: 全学教育「科学と情報」(数学と人間—数学を俯瞰する) 前期 1 コマ, 後期 2 コマ担当, 「教育と科学技術」前期 1 コマ, 後期 2 コマ担当, 「基礎ゼミ」(学校教育の在り方と入学試験の功罪を考える) 2 コマ担当

復興大学「復興の思想」2 回担当

【研究活動】

研究業績: (招待講演・単著) 高等学校数学科教育課程の改善のための提案, 日本数学教育学会, 第 3 回春期研究大会論文集, 207-212, 2015 (2015 年 6 月, 日本数学教育学会春期研究大会)

【大学運営】

全学委員会: 学務審議会委員, 数学委員会委員

【社会貢献】

各種委員等: 1) 日本学術会議会員 (10 月 23 日まで, 以降は連携会員), 2) 日本学術会議数理科学委員会副委員長, 3) 日本学術会議数理科学委員会数学教育分科会委員長, 4) 日本学術会議北地区会議 運営協議会委員, 5) 科学技術振興機構理数学生育成支援プログラム 推進委員, 6) 科学技術振興機構 「科学の甲子園ジュニア」推進委員

学会活動: 1) 一般社団法人日本数学会監事 (6 月まで), 2) 公益財団法人数学オリンピック財団監事, 3) 公益財団法人川井数理科学財団理事

社会教育活動: 日本数学協会の東北支援 第 4 回数学文化講演会 in 山形において「入試問題と数学の勉強法」の題で講演した。

工藤 昭彦 総長特命教授

【専門分野】 農業経済学

【教育活動】

授業担当: <全学教育>

・共通科目(転換少数教科目)「基礎ゼミ」「農」的世界の可能性—ポスト工業化社会の展望, 「基礎ゼミ」現代世界の「食」—飽食と飢餓の構造—

・展開科目(総合科学(総合科目))「時代の文脈からみた「食」と「農」」 2 コマ

・基幹科目(社会論)「経済と社会」資本主義と農業—世界恐慌・ファシズム体制・農業問題— 2 コマ

・基幹科目(社会論)「経済と社会」環境と経済・社会の調和に関する多様なアプローチ 2 コマ

・カレントトピックス「アジアを知ろう、感じよう」で以下の 2 回の講義を担当

「真相アジアの森林破壊」2015 年 10 月 15 日, 「土地を失う中国の農民」2015 年 10 月 22 日

学友会活動の指導: 乗馬部部長

【研究活動】

研究業績: 1) (分担執筆)『自治村落の基本構造—「自治村落論」をめぐる座談会記録』森林統計協会 2015 年 7 月(座談会記録であり, 執筆箇所は全編に及ぶ。), 2) (単著)『現代農業考—「農」受容と社会の輪郭—』創森社 2016 年 2 月

【社会貢献】

各種委員等: みやぎ食・緑・水を創る宮城県民会議研修会講師, 自治研修所中堅職員研修講師(年 2 回, 6 時間)

社会教育活動：1) 食・緑・水を創る宮城県民会議研修会講師（2015年4月2日）、2) 第20回わいわい祭主催（2015年11月1日）、3) 登米市認定農業者研修会講師（2016年2月24日）

野家 啓一 総長特命教授

【専門分野】 哲学、科学基礎論

【教育活動】

授業担当：1) 全学教育：思想と倫理の世界（前期・後期各1コマ）、哲学・倫理学（前期・後期各1コマ）、基礎ゼミ（前期2コマ）、展開ゼミ（後期2コマ）、2) 大学院教育：リーディング大学院「グローバル安全学Ⅱ」集中講義、3) 放送大学宮城学習センター面接授業：「現代哲学への招待」集中講義

学位論文審査：博士1名（副査）

【研究活動】

研究業績：1) 図書（単著）『科学哲学への招待』筑摩書房、2015年、302頁、2) 図書（単著）『歴史を哲学する』岩波書店、2016年、233頁、3) 図書（編著）『現代哲学キーワード』有斐閣、2016年、編集及び15頁、4) 図書（共著）『科学・技術と社会倫理』東京大学出版会、2015年、10頁、5) 図書（共著）岩波講座＜現代＞第1巻『現代の現代性』岩波書店、2015年、19頁、ほかに単著論文6篇

講演等：1)（招待講演）国際高等研究所仙台フォーラム、ウェスティンホテル、2015年1月、2)（招待講演）Kick-off Meeting of Tetsugaku, 香港中文大学、2015年5月、3)（招待講演）アメリカ哲学フォーラム、立正大学、2015年6月、4)（招待講演）「科学と社会」研究会、サントリー文化財団、2015年9月、5)（コメンテーター）臨床哲学シンポジウム、東京大学鉄門講堂、2015年12月、6)（基調講演）「科学技術と知の精神文化」JST 本部会議室、2015年3月

【大学運営】

部局内委員会：高度教養教育・学生支援機構紀要編集委員会委員

【社会貢献】

各種委員等：日本学術会議連携会員、学術振興会「博士課程教育リーディングプログラム」評価委員、人間文化研究機構教育研究評議員、総合地球環境学研究所運営委員、リーディング大学院「グローバル安全学」外部評価助言委員、京都賞選考専門委員会委員長、コスモス国際賞選考委員、南山大学社会倫理研究奨励賞選定委員会委員長、日本研究功労賞選考委員会委員長
学会活動：日本哲学系諸学会連合（JFPS）委員長、東北哲学会会長、科学基礎論学会理事、日本哲学会評議員、日本現象学会委員、日本科学哲学会評議員

吉野 博 総長特命教授

【専門分野】 建築環境・設備

【教育活動】

授業担当：1) 全学教育「自然と環境」前期2コマ、後期2コマ。「基礎ゼミ」前期1コマ。「展開ゼミ」後期1コマ。

2) 工学研究科にて大学院講義「建築環境デザイン」（7/1）を非常勤講師として実施。

3) 前橋工科大学にて集中講義「仮設住宅・津波浸水住宅等の室内環境」（11/18）を客員教授として実施。

4) 秋田県立大学にて集中講義「住宅の気密性能と換気計画」（11/27）を客員教授として実施。

5) 浙江大学にて集中講義“Green Buildings”を8回（9/21,22,28,29,10/12,13,26,27）実施。

【研究活動】

研究業績：1)（共著）阿蘇市における応急仮設住宅の室内空気環境に関する調査研究、日本建築学会環境系論文集、81(721)、(2016)、319-326、2)（共著）Study on Distribution and Deposition of House Dust by Different Ventilation Systems in a Full-scale Residential Room. International Journal of Ventilation, 13(4)、(2015)、417-420、3)（共著）The toxic effects of indoor atmospheric fine particulate matter collected from allergic and non-allergic families in Wuhan on mouse peritoneal macrophages. Journal of Applied Toxicology、(2015)、4)（共著）Investigating simultaneous transport of heat and moisture in hygroscopic materials by a semi-conjugate CFD-coupled approach. Building and Environment、90、(2015)、125-135、5)（共著）Performance Test of Desiccant Heating, Ventilating and Air-Conditioning System by Using Multiple Tracer Gas Dilution Method. International Journal of Air-Conditioning and Refrigeration、(2015)、6)（共著）Indoor Environmental Problems and Health Status in Water-damaged Homes due to Tsunami Disaster in Japan. Building and Environment、93、(2015)、24-34

学会の口頭発表としては、日本建築学会大会などに14編、海外では7編を発表。

国際会議にて招待講演2回。4つの国際ジャーナルで編集委員を務める。

科研費：基盤研究（C）脳卒中死亡に関連する住環境要因のインパクト評価と改善策の提案（2014年～2016年）

厚労科研費：健康安全・危機管理対策総合研究事業 科学的エビデンスに基づく「新シックハウス症候群に関する相談と対策マニュアル（改訂版）」の作成

その他：ISO/TC163/SC1/WG10 の Convenor として「建物の気密性能試験法」などの ISO を取りまとめ。

〔社会貢献〕

各種委員等：1) 一般社団法人 日本サステナブル建築協会の会長を務め、CASBEE 戸建認証委員会委員長などとして活動した。
2) 国立保健医療科学院評価委員を務める。3) 任意団体「住まいと環境 東北フォーラム」の理事長として、シンポジウム、講習会、見学会などの社会貢献活動に従事した。

学会活動：1) 日本学術会議の三部の会員であり、土木工学建築学委員会の副委員長、低炭素社会健康分科会の委員長を務めた。
また、他の三つの分科会の委員として活動した。2) 日本建築学会の会長を 5 月末まで務め、その関連で日本建築学会の活動に深く貢献した。3) 臨床環境医学会副理事長を務めており、その関連で年次大会、理事会等にて役目を果たした。

国際交流活動：アジア学術会議の事務局長（日本学術会議が事務局）を務め、2015 年 5 月にカンボジアで開催される年次会議に貢献した。

座小田 豊 総長特命教授

〔専門分野〕 哲学・倫理学

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「哲学・倫理学」1・2 セメスター 各 1 コマ担当、「思想と倫理の世界」1・2 セメスター 各 2 コマ担当、「基礎ゼミ」1 セメスター 1 コマ担当、「展開ゼミ」2 セメスター 1 コマ担当

〔研究活動〕

研究業績：1) (編著書)『自然観の変遷と人間の運命』東北大学出版会、2015 年 12 月、2) (論文・単著)「「ふるさと」としての「自然」の根源性について」同前所収 57-82 頁、3) (論文・単著)「自然観の変遷と人間の運命について」同前所収 275-291 頁、4) (論文・単著) Unendlichkeit und Negativität--Die Entstehung der Philosophie des Geistes in Hegels Jenaer Systementwürfen, in: Hegel in Japan, hrsg.von Y. Kubo, S. Yamaguchi, L. Knatz, 2015 Munster, S.39-54

科研費：基盤研究(B)「自然観の展開と人間的営為の運命に関する思想的・応用倫理学的研究」研究代表者

〔大学運営〕

金井副学長のもとに設置された「社会にインパクトのある研究推進室」のメンバーとして、各種プロジェクトに対するアドバイスをを行っている。

〔社会貢献〕

学会活動：日本ヘーゲル学会・研究奨励賞選考委員、東北哲学会委員

その他：東北大学出版会理事

関根 勉 教授

〔専門分野〕 放射化学

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「自然科学総合実験」(代表)、文科系のための自然科学総合実験、化学B (工2, 医歯1), 大学院教育「先端理化学特論」(理学研究科化学専攻)、琉球大学集中講義(学部3, 4年生向け)「分析化学特別講義」

学位論文指導：博士2名(副査)、修士2名(主査1名, 副査1名)、試験委員7名

教科書等：“自然科学総合実験2016”(分担執筆)

受賞(指導学生)：若手発表賞(放射化学会年会2015, 仙台, 2015)

〔研究活動〕

研究業績：1) (共著) Ps slowing down process below the Ps break-up energy in Ar gas, Journal of Physics: Conference Series, 635 (2015) 052088, 2) (共著) Cesium radioactivity in peripheral blood is linearly correlated to that in skeletal muscle: Analyses of cattle within the evacuation zone of the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant, Animal Science Journal 86 (2015) 120, 3) (共著) 陽電子消滅時刻運動量同時測定法による Ar ガス中での Ps 熱化過程, 放射化学 33 (2016) 48, 4) (共著) ウシの歯の Sr-90 と Cs-137 濃度を指標とした環境中からウシへの取り込みの時間変化の解析, 放射化学 33 (2016) 37, 5) (単著) 2015放射化学会・第59回放射化学討論会実施報告, 放射化学 33 (2016) 62

科研費：1) 基盤研究(A)「科学の多様な不定性と意思決定：当事者性から考えるトランスサイエンス」(分担)、2) 挑戦的萌芽研究「バイオフィースによる放射性セシウムの生体除染」(分担)

〔大学運営〕

全学委員会：1) 学務審議会委員、2) 学務審議会教務委員会委員、3) 学務審議会基幹科目委員会委員長、4) 実験科目委員会委員、5) 同 実施委員会委員長、6) 同 計画委員会委員、7) サイクロトロンRIセンター 予算委員会委員、8) 同 課題採択委員会委員、9) 運輸交通専門委員会委員

部局内委員会：1) 高教機構教育内容開発部門長、2) 同 学習支援センター長、3) 同 自然科学教育開発室長、4) 同 施設整備委員

会委員長, 5) 同 総務委員会委員, 6) 同 紀要編集委員会委員

〔業務活動〕

学生支援業務：自然科学総合実験における連携支援（自然科学教育開発室，学習支援センター，特別学生支援センター，工学教育院，教育学生支援部，留学生課），学習支援センターにおける連携支援（特別学生支援センター，工学教育院など）

機構の業務：施設設備委員会関係（プレハブ棟の利用など），機構運営（補佐会議，各種ワーキンググループ）

学習支援センター業務：運営業務（定例会議など），学習支援センター研修事業（北大）

自然科学教育開発室業務：クォーター制調査及び理科実験調査（北大，国際基督教大），室の運営（定例ミーティング，学生実験棟及び理科実験のための維持管理等），理系・文系向けの自然科学総合実験の実施・運営

〔社会貢献〕

各種委員等：1) 宮城県女川原子力発電所環境調査測定技術会委員，2) 女川原子力発電所2号機の安全性に関する検討会構成員

学会活動：2015日本放射化学会年会実行委員会委員長として大会を開催した。

社会教育活動：出前授業 サイエンス・コラボ（仙台育英高校）

葛生 政則 准教授

〔専門分野〕 農業経済学・高等教育論

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「経済と社会」，「経済学」

その他：1) 「第9回東北大学基礎ゼミ FD・ワークショップ」（2015年11月）の企画・運営に参加，2) 「平成27年度基礎ゼミ成果発表会」（2015年9月）の企画・運営に参加，3) 「第10回東北大学全学教育 FD」（2016年3月）の企画・運営に参加

〔研究活動〕

研究業績：1)（単著）「2000年代のバーデン・ヴェルテンベルク州農業の状況」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第2号（2016年3月，143-155頁），2)（編集）東北大学学務審議会・東北大学高度教養教育・学生支援機構『第9回東北大学全学教育 FD—報告書—』（2015年10月），3)（編集）東北大学学務審議会・東北大学高度教養教育・学生支援機構『第10回東北大学全学教育 FD—報告書—』（2016年3月），4)（編集）東北大学学務審議会・東北大学高度教養教育・学生支援機構『第9回東北大学基礎ゼミ FD・ワークショップ—報告書—』（2016年3月）

〔大学運営〕

全学委員会：学務審議会教育情報・評価改善委員会推薦委員，基礎ゼミ委員会専門委員，基幹科目委員会専門委員

〔社会貢献〕

社会教育活動：第22回東北大学高等教育フォーラム（新時代の大学教育を考える [12]）「大学入試改革にどう向き合うか—中教審高大接続答申を受けて—」（2015年5月）の企画・運営に参加

田嶋 玄一 准教授

〔専門分野〕 動物生理学

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「文科系のための自然科学総合実験」（担当代表），「自然科学総合実験」（課題担当，曜日責任者），「生命科学 A」（医学部保健学科，工学部），「生命と自然」

教科書等：『自然科学総合実験 2016』（編集委員，編集実務担当，第11章の改訂），G-30クラス用『Introductory Science Experiments 2016』（編集担当），「H27年自然科学総合実験アンケート報告書」理系の自然科学総合実験および文科系のための自然科学総合実験アンケート結果の解析し報告書を作成して担当教員・TAへのFDで配布した。

〔大学運営〕

全学委員会：1) 学務審議会基礎ゼミ委員会委員，2) 環境保全センター業務委員会委員，3) 情報システム部局実施責任者，4) 学務審議会実験科目委員会実施委員会委員，5) 同 計画委員会委員

〔業務活動〕

自然科学教育開発室業務：自然科学総合実験の実施・運営（定例ミーティング，実験棟および実験機器類の維持管理，担当教員・TAへのFDの実施など）

〔社会貢献〕

社会教育活動：仙台市教育委員会「夏休み大学探検 2015」（2015年8月6日）

藤本 敏彦 准教授

〔専門分野〕 運動生理学・運動学・スポーツ

〔教育活動〕

授業担当：全学教育 スポーツ A「ソフトボール」 7 コマ，スポーツ B「ソフトボール」 1 コマ，スポーツ B「フィジカルトレーニング」 2 コマ 企画・運営，スポーツ B「武道」 2 コマ 企画・運営，体と健康「身体の文化と科学」(2/15 担当)，生命と自然「ヒト・人を知る」(1/3 担当)，生命と自然「身体運動のしくみ」 1 コマ，基礎ゼミ「運動器具を検証する」 1 コマ，展開ゼミ「こころと体の健康をつなぐ」 1 コマ

学位論文指導：博士課程院生「バランスマットを用いた姿勢維持筋活動の観察」

その他：教養教育特任教員（兼任）

【研究活動】

研究業績：1)（共同発表）‘Physical and psychological status of participants in extracurricular sports activities at a Japanese university’ 第 62 回アメリカスポーツ医学会，2)（共同発表）「大学生における体力レベルと精神的健康度、ストレス対処能力とその関係」日本体育学会第 66 回大会，3)（共同発表）「大学生における中学・高校と現在の運動部活動参加の有無と身体的・精神的健康度」第 70 回日本体力医学会大会

共同研究：「バランス運動の研究助成」株式会社エフアシスト

【大学運営】

全学委員会：1) 保健体育科目委員会委員，2) 基礎ゼミ委員会委員

部局内委員会：1) 研究倫理委員会委員，2) 大学教育支援センター・プログラム研究開発員

【社会貢献】

各種委員会委員：仙台市市民局指定管理者選定委員会委員

学会活動：体力医学会評議員，日本体育学会東北地域理事

社会教育活動：1)「元気になる方法」みやぎ県民大学，大崎中央公民館・東北大学川内図書館，平成 27 年 9 月 9 日，10 日，2)「元気になる方法」学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス，仙台市市民活動サポートセンター，平成 27 年 9 月 5 日

中川 学 講師

【専門分野】日本近世史・大学史

【教育活動】

授業担当：全学教育 人間と文化「東北大学を学ぶ」（3 コマ），歴史と人間社会「History of Tohoku University」，基礎ゼミ「フィールドワークの日本史」，カレントトピックス「東北大学のひとびと」（分担），東北大学サマープログラム(TUJP)「Time Travel, Tohoku University」（史料館と共同）を担当。

本年度には，新たにカレントトピックス・学際融合科目「アジアを知ろう、感じよう」を開発・担当した（芳賀満教授と共同）。

教材開発：高度教養教育開発推進事業「初年次のレポート作成とその指導を支援する共通教材の開発」WG（代表：菅谷奈津恵）による学内外の関連調査（名桜大学ライティングセンター）と調査報告の公表。

【研究活動】

研究業績：1)（単著）「葛西旧臣の由緒と地域社会-磐井郡における百姓由緒書上の作成過程から」『葛西氏の興亡』，一関市博物館，2015，68-77，2)（共著）「東北大学の全学教育におけるレポート作成指導：講義担当教員を対象とした面接調査の知見」『高度教養教育・学生支援機構紀要』第 2 号，高度教養教育・学生支援機構，2016

【大学運営】

全学委員会：1) 広報連絡委員，2) 学術資源研究公開センター運営専門委員会史料館部会委員

部局内委員会：学習支援センター副センター長

各種支援活動：東北大学史料館兼務教員，東北大学プロモーションビデオ WG 委員

【業務活動】

機構の業務：正午 PD 会の企画・実施（計 14 回，芳賀満教授と担当）

学際融合教育開発推進センター業務：学際融合科目「アジアを知ろう、感じよう」に関する公開講演会「人は何を食べてきたのか」「戦後 70 年と東アジア」の企画・実施

学習支援センター業務：運営業務とその改善（定例会議等）

【社会貢献】

学会活動：東北史学会評議員，宮城歴史科学研究会委員

社会教育活動：一関市博物館企画展「葛西氏の興亡」講演会（2015），宮城野高校特別講座「学問の世界」への出前授業（2015）

その他：NPO 法人・宮城歴史資料保全ネットワーク理事

高橋 禎雄 助教

【専門分野】日本思想史，大学史

【教育活動】

授業担当：全学教育「人間と文化」5コマ，「歴史学」1コマ，基礎ゼミ1コマ担当。

【研究活動】

研究業績：（分担執筆）「熊谷岱蔵」『アジア・太平洋戦争辞典』（2015）吉川弘文館

【大学運営】

全学委員会：学務審議会基礎ゼミ委員会専門委員（第9回東北大学基礎ゼミFD全体会司会を務めた）

【社会貢献】

東北大学文学部同窓会監事

太田 宏 助教

【専門分野】動物生態学，両生爬虫類学

【教育活動】

授業担当：全学教育「自然科学総合実験」，「文科系のための自然科学総合実験」，学部専門教育（理学部）「生態学実習」，「進化学実習」

教科書等：（分担執筆）『自然科学総合実験2015』，東北大学出版会，文科系のための自然科学総合実験の新テーマの開発。

学友会活動の指導：アニメーション研究会 顧問，園芸部 顧問

【研究活動】

研究業績：1)（共著）宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物，両生爬虫類の項，243-251頁，2016年3月，宮城県環境生活部自然保護課，2)（共同発表）「小型発信器を用いたキタサンショウウオの行動追跡の試み」，平成27年度土木学会全国大会第70回年次学術講演会，2015年9月，3)（単独発表）「トウホクサンショウウオは産まれた池に戻って繁殖するのか？II」，日本爬虫両棲類学会第54回大会，2015年12月，4)（共同発表）「ツチガエルの性決定様式が異なる集団間境界における個体群動態」，日本爬虫両棲類学会第54回大会，2015年12月

共同研究：「発信器を用いたキタサンショウウオの生態研究」（代表）

【業務活動】

自然科学教育開発室業務：自然科学総合実験の運営に関する業務を行った。

【社会貢献】

各種委員等：宮城県希少野生動植物保護対策検討会委員（両生・爬虫類分科会長），国土交通省河川水辺の国勢調査アドバイザー，環境省希少野生動植物種保存推進員，宮城県環境影響評価技術審査会委員

学会活動：日本爬虫両棲類学会 標準和名選定委員会委員

岡 壽崇 助教

【専門分野】放射線化学，放射線生物影響

【教育活動】

授業担当：全学教育「文科系のための自然科学総合実験」（文，教育，法，経済，1セメスタ），「自然科学総合実験」（工，1セメスタ），「自然科学総合実験」（工，2セメスタ）

学部専門教育（理学部）「課題研究I」（6セメスタ），「課題研究II」（7，8セメスタ）

大学院教育（理学研究科）／修士課程「課題研究」（MC1，MC2年通年），「セミナー」（MC1，MC2年通年）

大学院教育（理学研究科）／博士課程「先端理化学特別研究」（DC1，DC2，DC3年通年），「先端理化学特別セミナー」（DC1，DC2，DC3年通年）

学位論文指導：理学研究科化学専攻放射化学研究室・環境放射化学研究室内の学士2名，修士4名および博士2名（うち1名は社会人）の指導を行った。

教科書等：自然科学総合実験のテキストの整備

その他：指導学生が若手優秀講演賞などの発表賞を国際会議で1件，国内会議・研究会で5件受賞した。

【研究活動】

研究業績：1)（論文・共著）「福島第一原発事故の被災動物の歯質中Sr-90とCs-137の放射能測定」，Proceedings of the 16th Workshop on Environmental Radioactivity, 285-291 (2015)，2)（論文・共著）Ps slowing down process below the Ps break-up energy in Ar gas, Journal of Physics: Conference Series, 635, 052088 (2015)，3)（論文・共著）Kinetic energy of Ps formed by Ore mechanism in Ar gas, Journal of Physics: Conference Series, 618, 012010-1-4 (2015)

受賞（本人）：日本放射線化学会 放射線化学賞「放射線による新しいDNA損傷機構の提案」2015/9/30

受賞（指導学生）：1) 第17回「環境放射能」研究会 研究会奨励賞「栽培きのこへの放射性セシウム及びアルカリ金属元素の移行」2016/3/10，2) 第17回「環境放射能」研究会 研究会奨励賞「福島第一原発事故被災ウシの歯と骨に含まれるSr-90の測定」2016/3/10，3) 日本放射化学会 発表奨励賞「陽電子消滅時刻運動量同時測定法によるArガス中でのPs熱化過程」2015/9/27，4) 日本放射化学

会 発表奨励賞「ウシの歯のSr-90とCs-137濃度を指標とした環境中放射能の時間変化の解析」2015/9/27, 5) XXIX International Conference on Photonic, Electronic and Atomic Collisions, ICPEAC2015 Poster Prize, Ps slowing down process below the Ps break-up energy in Ar gas, 2015/8/5, 6) 第52回 アイソトープ・放射線研究発表会 若手優秀講演賞「AMOC法によるPs-Ar運動量移行断面積の測定」2015/7/8-10

講演等：1) (依頼講演) 「K殻イオン化で生じる不對電子によるDNA損傷形成機構」, 「プラズマ科学における分光計測の高度化と原子分子過程研究の新展開」・「原子分子データ応用フォーラムセミナー」合同研究会, 2016/1/27-29, 核融合科学研究所, 2) (受賞講演) 「放射線による新しいDNA損傷機構の提案」, 先端放射線化学シンポジウム, 2015/9/29-10/1, 浜名湖かんざんじ荘
科研費：1) 基盤研究 (B) 「クラスターDNA損傷に対する細胞内修復動態と損傷の局在化メカニズム」研究分担者, 2) 基盤研究 (B) 「歯を用いた内部被曝量のスクリーニング」研究分担者, 3) 基盤研究 (C) 「歯を用いた内部被曝量・被曝歴の解析」研究分担者, 4) 挑戦的萌芽研究「放射線DNA損傷を増感させるアンテナ分子の探索」研究分担者, 5) 挑戦的萌芽研究「ヒトの歯を用いた低線量長期外部被曝量の測定」研究分担者

その他外部資金：物質・デバイス領域共同研究拠点「微細加工技術を利用したDNA損傷メカニズムの解明」研究代表者

【大学運営】

全学委員会：自然科学総合実験 実施委員会 委員, 計画委員会 委員

【社会貢献】

各種委員等：公益社団法人日本アイソトープ協会 アイソトープ・放射線研究発表会 幹事

学会活動：日本放射線化学会 理事・事務局次長・編集委員会委員, 日本陽電子科学会 会報刊行委員会副委員長, 2015日本放射化学会年会実行委員会事務局

国際交流活動：JST・さくらサイエンスプランで来日した陽電子科学研究を行う中国人学生7名および国内研究者の研究交流のために仙台でワークショップ「Positron and Positronium Seminar for Students」を開催した。

小俣 乾二 助教

【専門分野】 化学・有機化学

【教育活動】

授業担当：全学教育「化学A」, 「自然科学総合実験」, 「文科系のための自然科学総合実験」

学位論文指導：兼務先の理学部/理学研究科の博士課程前期および学部学生の卒業課題研究の指導を主導的に行った（修士終了研究1名）。

教科書等：『自然科学総合実験2016』（分担執筆）

【大学運営】

全学委員会：環境・安全委員会安全管理専門委員会危険物質総合管理システム専門部会 委員（教育・学生支援部, 高教機構）

【業務活動】

自然科学教育開発室業務：自然科学総合実験の運営（ミーティング, 実験装置の管理）

【社会貢献】

社会教育活動：秋田県 高校教員研修会 講師（理学研究科化学専攻 8月31日）, 出前授業 サイエンス・コラボ（仙台育英高校, 9月26日）

福谷 圭祐 助教

【専門分野】 光電子固体物性物理

【教育活動】

授業担当：全学教育「文科系のための自然科学総合実験」課題担当, 「文科系のための自然科学総合実験」の運営担当及び取りまとめ, 「自然科学総合実験」の運営担当（副曜日責任者）

教育支援活動：「文科系のための自然科学総合実験」「自然科学総合実験」のガイダンス, 学生指導, 相談

【研究活動】

研究業績：（口頭発表）日本物理学会秋季大会2015年9月（関西大学）「W(112)の擬1次元表面状態の高分解能ARPES」

【大学運営】

全学委員会：実験科目委員会実施委員会委員

武藤 潤 助教

【専門分野】 構造地質学

【教育活動】

授業担当：全学教育「自然科学総合実験」, 「文科系のための自然科学総合実験」

〔研究活動〕

科研費：基盤研究（B）「東北沖地震後の地殻変動を予測する岩石の遷移挙動レオロジーの実験的研究」研究代表者

中山 耕輔 助教

〔専門分野〕 光電子固体物性物理

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「自然科学総合実験」，「文科系のための自然科学総合実験」

留学生の受入れ：ベトナムからの留学生 1 名に対して教育研究の指導を行った。

〔研究活動〕

研究業績：原子層膜において高温超伝導の実現と制御に成功した。この成果をまとめた論文を Nature Materials 誌に発表して大きな注目を集め、新聞記事として多数取り上げられた。（共著）High-temperature superconductivity in potassium-coated multilayer FeSethin films. Nature Materials, 14, (2015), 775-779

受賞（本人）：第 10 回日本物理学会若手奨励賞

講演等：国際学会・国内学会等において複数の招待講演を行った。

〔業務活動〕

自然科学教育開発室業務：自然科学総合実験の実験実施委員および副曜日責任者を務め、実験の円滑な運営に貢献した。

大下 慶次郎 助教

〔専門分野〕 物理化学

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「自然科学総合実験」授業担当，「文科系のための自然科学総合実験」授業担当，「自然科学総合実験」課題責任者，副曜日責任者

教科書等：「自然科学総合実験」テキスト改訂，「自然科学総合実験」課題説明用スライドの ISTU への掲載

〔研究活動〕

研究業績：1)（共著）「イオン移動度質量分析によるクラスターイオンの構造異性体分離」分光研究（分光便利帳欄），64(4), 480-483 (2015)，2)（共著）“Photofragment imaging from mass-selected ions using a reflectron mass spectrometer I. Development of an apparatus and application to Mg⁺-Ar complex”，Chem. Phys. Lett. 630, 111-115 (2015)，3)（共著）“Photofragment imaging from mass-selected ions using a reflectron mass spectrometer II. Formation mechanism of MgF⁺ in the photodissociation of Mg⁺-FCH₃ complex”，Chem. Phys. Lett. 630, 57-61 (2015)，4)（共著）“Structures and CO-Adsorption Reactivities of Nickel Oxide Cluster Cations Studied by Ion Mobility Mass Spectrometry”，J. Phys. Chem. C, 119(20), 11014-11021 (2015)

講演等：1)（招待講演）“Structures and CO-adsorption reactivities of nickel oxide cluster ions studied by ion mobility mass spectrometry”，Pacifichem 2015, Waikiki, Hawaii, December 14-18, 2015，2)（招待講演）“Structures and Reactions of Metal Oxide Cluster Ions Studied by Ion Mobility Mass Spectrometry”，International Symposium on Molecular Science – Physical Chemistry – , Kyoto, March 26, 2016

〔業務活動〕

自然科学教育開発室業務：理系・文科系向けの自然科学総合実験の実施・運営

足立 佳菜 助手

〔専門分野〕 道德教育史，学習支援（高等教育）

〔教育活動〕

授業担当：全学教育 基礎ゼミ『『自分』×『学問』～《はじめの一步》サポートゼミ～』を担当（受講生 23 名）。基礎ゼミにおける「学びの転換」を具現化するための授業を企画，実施。業務センターとの連関の下，先輩学生をゲストスピーカーとして授業に参加させるなどの工夫をした。授業評価は「関連学習」以外の各項目について，委員会平均値を上回る評価を得ると共に，昨年度評価と比較すると，上昇＝8 項目，同点＝3 項目，下降＝1 項目と，授業改善の成果を得ることができた。

教育支援活動：学習支援センターにおける授業連携型学習支援の実践において，前期 4 教員・後期 3 教員と連携し，学生を活用した授業開発の支援を行った。

その他：学習支援センターにおける SLA サポートの開発実績が認められ，平成 27 年度全学教育貢献賞を受賞した。

〔研究活動〕

研究業績：1)（単著）「平野武夫『価値葛藤論』の『道德の時間』への接近過程に関する考察『東北大学大学院教育学研究科研究年報』63(2)号，2015 年 6 月，2)（口頭発表）「学習支援に従事する学生スタッフのインセンティブに関する考察－東北大学学習支

援センター（SLA サポート）の事例に基づいて」、大学教育学会第 37 回大会（於 長崎大学）、2015 年 6 月 7 日、3）（ポスター発表）「学習支援者研修プログラム開発の展開－東北大学学習支援センターにおける SLA 育成の取り組みから」、第 22 回大学教育研究フォーラム（於 京都大学）、2016 年 3 月 17 日

科研費：基盤研究（A）「グローバル社会におけるコンピテーションを具体化する高度教養教育の開発研究」（研究分担者）

【業務活動】

機構の業務：東北大学大学教員準備プログラム（PFFP）および新任教員プログラム（NFP）の「マイクロティーチング」および「模擬授業」実施におけるファシリテーター

学習支援センター業務：以下の企画・運営業務全般に従事。1)『学習支援センター（SLA サポート）年次活動報告書 2014 年度』を発行。2) 国立大学改革強化推進補助金を獲得し、「SLA 実践を基盤とした『学習支援者』育成プログラムの開発」を実施。3) 北海道大学との共同研修を実施。4) 学習支援センター活用ガイド&学習支援ブック『ともそだち本』を発行（継続）。

【社会貢献】

萩友会プレミアム懇談会における自由見学（2015 年 6 月 6 日）、東北大学オープンキャンパス（2015 年 7 月 29-30 日）

鈴木 学 助手

【専門分野】教師教育・学習支援（高等教育）

【教育活動】

授業担当：全学教育 基礎ゼミ『自分』×『学問』～《はじめの一步》サポートゼミ～」担当

基礎ゼミの理念である「学びの転換」を具現化するための授業を企画。学習支援センターの SLA をゲストスピーカーとして授業に参加させるなど、受講生のアクティブラーニングを促進する仕掛けを開発・実践した。授業評価として「関連学習」以外の各項目で委員会平均値を上回る評価を得た。

教育支援活動：1) 学習支援センターにおける授業連携型学習支援の実践 前期 4 教員・後期 3 教員と連携し、先輩学生を活用した授業開発の支援を行った。2) 学習支援センター活用ガイド&学習支援ブック「ともそだち本 2016」の作成 「学びの転換」を目的とした教材を大学 1・2 年生全員に配布した。

その他：学習支援センターの前身である SLA システムの立ち上げと 6 年間の開発実績が認められ、平成 27 年度「全学教育貢献賞」受賞

【研究活動】

研究業績：1)（学会発表）「学習支援に従事する学生スタッフのインセンティブに関する考察－東北大学学習支援センター（SLA サポート）の事例に基づいて」、大学教育学会第 37 回大会（於 長崎大学）、2015 年 6 月 7 日、2)（学会発表・ポスター）「学習支援者研修プログラム開発の展開－東北大学学習支援センターにおける SLA 育成の取り組みから」、第 22 回大学教育研究フォーラム（於 京都大学）、2016 年 3 月 17 日

科研費：基盤研究（A）「グローバル社会におけるコンピテーションを具体化する高度教養教育の開発研究」（研究分担者）

【業務活動】

学生支援業務：学習支援センターでの学生（SLA 学生含む）支援

平成 27 年度の学習支援利用学生数はのべ約 3000 人。SLA 学生雇用者数は前期 62 名、後期 55 名。特に SLA 学生にとっては学習支援活動が自信の修学支援の一環として位置付いている。

機構の業務：東北大学大学教員準備プログラム（PFFP）および新任教員プログラム（NFP）の「マイクロティーチング」および「模擬授業」実施におけるファシリテーター

学習支援センター業務：学習支援システム開発、センター運営

学習支援全般に企画・運営業務に従事した。具体的には、『学習支援センター（SLA サポート）年次活動報告書 2014 年度』の発行、「SLA 実践を基盤とした『学習支援者』育成プログラムの開発（国立大学改革強化推進補助金）」、北海道大学との学習支援者共同研修の実施などが挙げられる。

【社会貢献】

萩友会プレミアム懇談会における自由見学（2015 年 6 月 6 日）、東北大学オープンキャンパス（2015 年 7 月 29-30 日）

田中 泰光 特任教授

【専門分野】環境科学・再生可能エネルギー

【教育活動】

授業担当：大学院教育の担当である。高度イノベーション人材育成ユニット「イノベーション創発塾」の活動及び運営を与えられた条件で最善を尽くした。

「イノベーションを考え出すための科学的技法」「R&D マネジメント」の開発。「人間理解とコミュニケーション」「組織マネジメント」「International Communication」「知的財産」の検討。環境科学研究科の英語講義は留学生と日本人の合同講義で

“Introduction to Sustainability”, “Environmental Management and Sustainable Business”, “Energy and Resource Strategies” (英語講義) の 3 講義実施した。

その他: JST 戦略的環境リーダー育成拠点形成プログラム「環境リーダープログラム」で S 評価を得た。AY2016 からのユニットの体制一新の準備とキャリア支援センターとの協力と一体化に努めた。

【研究活動】

研究業績: 論文は海外の審査付き論文を 4 報, 共同研究者として発表。口頭発表は共同研究誌として 3 報を発表。特許 2 報。以下に例示する。

1) (共著) “Performance Test of Desiccant Heating, Ventilating and Air-Conditioning System by Using Multiple Tracer Gas Dilution Method”, International Journal of Air-Conditioning and Refrigeration, Vol. 23, No. 4 (2015) 1550027, 2) (共著) “Improved cellulose conversion to bio-hydrogen with thermophilic bacteria and characterization of microbial community in continuous bioreactor”, Biomass and Bioenergy, 75, (2015), 57-64, 3) (共同発表) 「高結晶性単層カーボンナノチューブの電界電子放出特性を応用した低消費電力型平面発光源の開発」, 一般社団法人 エレクトロニクス実装学会 第 30 回エレクトロニクス実装学会春季講演大会

講演等: 武漢大学にて環境科学に関する講演 “Relation between global environment problems and a Chinese environmental problem” を 1 件行った。2016 年 3 月 8 日 TUE

その他: 平成 27 年度高度教養教育開発事業「博士人財キャリア開発プログラムの開発プロジェクト」を羽田先生, 若林先生と遂行。

JST 戦略的環境リーダー育成拠点形成プログラム「環境リーダープログラム」「国際エネルギー・資源戦略を立案する環境リーダー育成拠点」で S 評価を得た。

【社会貢献】

エレクトロニクス実装学会「環境と実装」委員会委員長, 資源素材学会東北支部代議員, NPO 法人環境エネルギー技術研究所 (SFTEE) 理事, エレクトロニクス実装学会 環境と実装委員, 日本建築学会, EcoDePS 委員として活動。

猪股 歳之 准教授

【専門分野】 教育社会学・高等教育論

【教育活動】

授業担当: 全学教育「社会と大学生」, 「ライフ・キャリアデザインⅢ」, 「(展開ゼミ) 新聞から見た現代社会論」, 「(展開ゼミ) 東北のくみらい」を創る新聞論」, 「社会学 (現代大学論)」

【研究活動】

研究業績: (解説・単著) 「就職・採用活動時期の変更が浮き彫りにしたものーこれからのキャリア支援活動への示唆ー」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第 2 号 (2016 年 3 月)

科研費: 1) 基盤研究(A)「グローバル社会におけるコンピテンシーを具体化する高度教養教育の開発研究」(分担), 2) 基盤研究(C)「伝統的技能職者の技術継承における現代的課題: 学校教育・行政・同業者団体に着目して」(分担), 3) 基盤研究(C)「大学教育のグローバル化と潜在的キャリア教育に関する研究」(分担), 4) 基盤研究(B)「大学教育の内部質保証を担うミドルマネジメント人材の専門性開発に関する国際比較研究」(協力)

【大学運営】

全学委員会: 1) キャリア支援連絡会議委員, 2) 第 11 回東北大学学生生活調査ワーキンググループ副委員長

部局内委員会: 1) 高度教養教育・学生支援機構 キャリア開発室室長, 2) 同 図書・資料委員会委員

【業務活動】

学生支援業務: 1) キャリア支援センターにおける各種支援プログラムの企画・実施, 2) 同 キャリア・就職に関する個別相談 (210 件), 3) 教育評価分析センターにおける「第 2 回 東北大学の教育と学修成果に関する調査」の計画・結果分析, 4) 同 「第 1 回 東北大学教員の教育活動に関する調査」の企画・実施

キャリア支援センター業務: 1) 国際文化研究科「2015 年度第 1 回キャリア講習会」講師, 2) 「平成 27 年度東北大学懇談会」講師, 3) 文学部・文学研究科「2015 年度第 1 回就職講座 20 歳のハローワーク」講師, 4) 教育学部同窓会「キャリア支援セミナー」講演, 5) キャリア支援センター「院生キャリアセミナー: 大学院生が未来をきりひらくために」企画運営・司会, 6) グローバルラーニングセンター「新入留学生オリエンテーション」講師

【社会貢献】

各種委員等: 文部科学省「地 (知) の拠点整備事業」選定委員会書面審査委員

その他: 1) 宮城学院女子大学非常勤講師, 2) 東北福祉大学兼任講師, 3) 広島大学高等教育研究開発センター客員研究員, 4) 放送大学客員准教授 (宮城学習センター)

高橋 修 准教授

【専門分野】 人的資源管理論

【教育活動】

授業担当：全学教育「ライフ・キャリアデザインⅠ」「ライフ・キャリアデザインⅡ」、大学院教育「産業・組織心理学特論」、新規科目の開講準備（高度教養教育開発推進事業予算 60 万円を活用し、全学教育「フィールドワーク実践：地域とビジネス」を授業設計）

【研究活動】

研究業績：1) (単著)「短期大学におけるキャリア教育と就職との関連性」ビジネス実務論集，第 34 号，日本ビジネス実務学会，2016.3，1-10，査読有り，2) (単著)「大学や企業でのキャリア・コンサルティングの現状と課題」キャリア道，中央職業能力開発協，2015.7 月号－2016.3 月号連載

学術指導契約：「職場支援手法への IT 適用支援および社内展開支援」NEC ソリューションイノベータ社，915,000 円

【大学運営】

全学委員会：学生生活支援審議会キャリア支援連絡会議委員

各種支援活動：第 4 回学生生活支援審議会 FD の講師「キャリア支援センターでの個別相談にみる学生像」，全学教職員を対象とした「キャリア支援スキル向上研修」の企画・実施

【業務活動】

学生支援業務：キャリアに関する個別相談の実施（年間延べ 518 名），キャリア支援センター主催ガイダンスの講師（将来を考えるセミナー，職業選択を考えるセミナー，OB・OG を招いての業界・企業研究セミナー 4 回），部局主催キャリアガイダンスの講師（法学部，生命科学研究科，文学部，農学部・農学研究科）

キャリア支援センター業務：全学教職員を対象とした「キャリア支援スキル向上研修」の企画・実施，生命科学研究科との共催「ライフサイエンス系博士とポストクのためのキャリアフォーラム」の企画・実施

【社会貢献】

各種委員等：1) 大阪商工会議所 メンタルヘルス・マネジメント検定試験 テキスト編集委員，2) キャリア・コンサルティング協議会 キャリア・コンサルティング技能検定委員

学会活動：人材育成学会の常任理事，日本産業ストレス学会の学会誌編集委員

社会教育活動：大阪商工会議所からの依頼による，メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅰ種（9 月）及びⅡ種（9 月，2 月）の受験対策講座の講師

富田 京子 特任准教授

【専門分野】 キャリアカウンセリング

【教育活動】

授業担当：（他大学）弘前大学大学院農学生命科学研究科集中講義「キャリア開発セミナー」担当，宮城学院女子大学全学部 学部生に対する専門教育科目（必須科目）「キャリア・ポートフォリオⅠ」「キャリア・ポートフォリオⅡ」担当。本年度 1・2 年生担当。年間授業 8 回，ワークショップ 4 回，個別相談 10 回担当。

【業務活動】

学生支援業務：

◎学生個別相談業務

◎外部講師（非常勤講師）への情報共有，情報提供業務

注視必要学生への対応依頼や情報共有，外部からの関係情報提供を随時実施。

個別相談業務連絡会議の実施・・・年間 2 回から 3 回情報共有のための連絡会議を実施。

外部相談員との情報共有，情報提供を行う。

キャリア支援センター業務：

◎年間キャリア支援プログラム策定業務

年間キャリア支援プログラムを策定し体系化。学部 1 年生から博士後期課程，ポストクまで利用可能なプログラム活用モデルを提示し，正課（授業科目）と正課外事業との相補的組み合わせで構成した。セミナー，ワークショップ，個別相談など目的に応じた多様な実施形態を有する設計を行った。

◎キャリア支援セミナー及びワークショップ企画，立案，実施運営，広報（チラシ，ポスター作成含む）業務及び講師選択，講師打合せ，講師対応業務・・・センター内で実施するセミナー，ワークショップ全体設計を実施。

◎セミナー・ワークショップ担当講師業務

◎キャリア支援センター学生スタッフ研修企画，立案，担当講師業務他

池田 忠義 教授

【専門分野】臨床心理学，学生相談，非行・犯罪心理学

【教育活動】

授業担当：全学教育「学生生活概論」，大学院教育（教育学研究科）「投影法特論Ⅰ」・「投影法特論Ⅱ」，会津大学短期大学部「コミュニケーション学」

その他：1) 学部新入生を対象とした新入生特別セミナーにおいて「安心・安全なキャンパスライフ」のテーマで講演，2) 部局新入生オリエンテーションにおいて学生生活に関する説明および学生相談・特別支援に関する利用案内（計4回）

【研究活動】

研究業績：1) (分担執筆)「第2章第1節 学生を理解する」，羽田貴史編著「もっと知りたい大学教員の仕事 ―大学を理解するための12章―」，ナカニシヤ出版，18～36頁，2015，2) (共同発表)臨床事例における「つまずき」について考える(7) ―面接初期におけるクライエント・セラピストの関係に焦点を当てて―：自主シンポジウム，日本心理臨床学会第34回秋季大会，2015
科研費：1) 基盤研究(C)「学生相談における災害ボランティア参加学生を対象とした心理的支援モデルの検討」(分担)(2014～2016)，2) 基盤研究(C)「評価することで『元気になる』学生相談活動の新しい自己評価法の開発」(分担)(2015～2017)，3) 基盤研究(C)「学生相談におけるカウンセリングの効果に関する評価方法の開発」(分担)(2015～2017)

その他：東日本大震災の心理的影響と支援のあり方に関する継続的研究（神戸大学・和歌山大学・奈良女子大学等の研究者との共同研究）

【大学運営】

全学委員会：学生生活支援審議会委員，学生相談・特別支援連絡会議委員，東日本大震災学生ボランティア活動支援運営委員会委員，第11回学生生活調査ワーキンググループ委員，障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領策定ワーキンググループ委員

部局内委員会：高度教養教育・学生支援機構総務委員会委員，学生相談・特別支援センター副センター長

各種支援活動：学生支援審議会委員や学生相談専門委員，部局の学生相談等の担当教職員等を対象とした「学生支援審議会FD」の企画・実施（計4回），教務系職員研修および部局FDにおける講師（学生対応，ハラスメント等に関するテーマ）（計3回）

【業務活動】

学生支援業務：1) 学生相談・特別支援センターにおける学生相談および特別支援：相談人数96名，のべ相談回数443回，2) 農学部学生相談室（雨宮キャンパス）における出張相談：相談人数12名，のべ相談回数46回，3) 川内南キャンパスにおけるキャリア・カウンセリング（キャリア支援センターと協働）：相談人数9名，のべ相談回数11回，4) ハラスメント全学学生相談窓口におけるハラスメント相談：のべ対応回数：9回

学生相談・特別支援センター業務：1) 東日本大震災後の学生の生活や心身状態，大学への適応状態等を把握するための全学生対象調査の実施，その結果に基づく学生への個別支援，2) 障害学生支援および特別支援室の活動に関するパンフレット，川内南キャンパスのバリアフリーマップの作成および全教職員への配付

【社会貢献】

各種委員等：仙台市自殺防止対策連絡協議会委員

学会活動：日本学生相談学会理事

その他：1) 「みやぎ学生相談連絡協議会」（年2回開催）に参加，宮城県内の大学の学生相談機関との情報の共有や相互支援，2) 全国の高等教育機関等においてハラスメントや学生支援に関する講演（計4回）

吉武 清實 教授

【専門分野】学生相談，臨床心理学，コミュニティ心理学

【教育活動】

授業担当：全学教育「学生生活概論」，大学院教育「コミュニティ心理学特論」および「コミュニティ心理学実践特論」（教育学研究科臨床心理学専攻）

その他：全国学生相談研修会講師，広島大学非常勤講師（「学生生活概論」）

【研究活動】

講演等：大学教育学会課題研究【発達障害学生への学生支援・大学教育の役割】，大学教育学会（岩手大学）自主シンポジウムにおいて報告者を務めた。

【大学運営】

全学委員会：学務審議会学生相談・特別支援連絡会委員

部局内委員会：高度教養教育・学生支援機構紀要編集委員会委員，臨床教育開発室長，キャリア支援センター副センター長。

各種支援活動：工学部学生支援室運営委員会（月例）に参加，学生相談支援に関する助言を行うとともに学生相談・特別支援センターとの連携強化を図った。また工学部カウンセラーへ継続的スーパービジョン実施。

〔業務活動〕

学生支援業務：1) 学生相談（423 時間，161 人，のべ 441 回），学生へのメンタルヘルスおよびハラスメント講演，2) 特別支援教員への支援を行った。また，ハラスメント全学学生相談窓口相談員として，ハラスメント相談（39 時間，41 回）ならびに部局長へのコンサルテーション，学生へのメンタルヘルスあるいはハラスメントに関する講演を行った。

機構の業務：副機構長との協議のもと発達障害学生支援をテーマに平成 27 年度の PD プログラムの企画，実施を行った。

キャリア支援センター業務：相談ユニット長として，年 3 回の相談ユニットにおける情報共有と相互学習のための会議を行った。

〔社会貢献〕

学会活動：日本学生相談学会常任理事を務めた。また，同学会「大学カウンセラー」および「学生支援士」の資格認定に関わる認定委員を務め，認定作業に当たった。

その他：九州大学など 7 大学の FD，SD 等において，ハラスメント防止，発達障害支援，学生相談・指導をテーマにのべ 9 回の講演を行った。

中島 正雄 准教授

〔専門分野〕臨床心理学，学生相談

〔業務活動〕

学生支援業務：学生相談（平成 27 年 11 月以降）11 月～3 月：91 人。延べ相談回数 299 回。

ハラスメント全学学生相談窓口におけるハラスメント相談 延べ相談回数 5 回。

〔社会貢献〕

「全国学生相談研究会議」（2016 年 1 月）（幹事校：東北大学）にて全国の大学の学生相談機関と意見交換した。

「みやぎ学生相談連絡協議会」（2016 年 3 月）にて宮城県内の大学の学生相談機関と情報共有した。

佐藤 静香 助手

〔専門分野〕臨床心理学，学生相談

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「学生生活概論」（共同で担当）

〔研究活動〕

研究業績：1)（分担執筆）親密な関係における暴力 大淵憲一（監修）『紛争・公正・暴力の心理学』（pp.109-122），北大路書房，2016，2)（共著）大学における障害学生支援の活動分類に関する研究，東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要，第 2 号，127-133，2016，3)（共著）障害学生支援担当者の役割に関する一考察－意思の表明に焦点をあてて－，東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要，第 2 号，307-310，2016，4)（共同発表）学生相談機関における震災ボランティア参加学生への心理的支援に関する調査 ①，同②，日本心理臨床学会第 34 回大会発表論文集，513-514，2015

科研費：挑戦的萌芽研究「学生相談における災害ボランティア参加学生を対象とした心理的支援モデルの検討」（2014～2016）（研究分担者）

その他：全新生を対象とする「新入生意識調査」の実施と学生相談所年報への結果の公表

〔大学運営〕

全学委員会：男女共同参画委員会委員

部局内委員会：高度教養教育・学生支援機構 施設整備委員会委員

各種支援活動：学生支援審議会 FD（年 4 回）の実施

〔業務活動〕

学生支援業務：1) 学生相談所相談員として，学生（留学生を含む），教職員，学生の家族等に対し相談援助活動を行った。2) ハラスメント全学学生相談窓口相談員として，ハラスメント相談への対応を行った。

学生相談・特別支援センター業務：1) 全学生対象の「東日本大震災後の学生生活に関する調査」の実施と結果に基づく支援，2) 震災後 5 年間の学生相談活動に関する報告書「東日本大震災後の東北大学学生相談所の活動」の編集，3) 「学生相談・特別支援センター年報」の編集，4) 各部局における新入生オリエンテーション等での学生生活のガイダンスおよび学生相談所の利用案内，5) 教育学部および医学部保健学科学生対象のハラスメント防止講習会における講師

〔社会貢献〕

各種委員等：第 49 回全国学生相談研究会議実行委員会委員

その他：「みやぎ学生相談連絡協議会」への参加による県内の大学の学生相談機関との連携

松川 春樹 特任助教

〔専門分野〕臨床心理学，学生相談

〔教育活動〕

授業担当：石巻専修大学において、人間学部開設後の一回生に「臨床心理事例研究」の講義を実施

〔研究活動〕

研究業績：1) (単著) 非音声刺激による聴覚投映法と Big Five の関連, ヒューマン・ケア研究, 16(2), 93-102, 2016, 2) (共著) 大学生における対人恐怖心性一聴覚投映法による検討一, 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要, 2, 115-125, 2016, 3) (共同発表) 心理臨床における「つまずき」について考える (7) 一面接初期におけるクライエントセラピストの関係に焦点をあてて一: 自主シンポジウム, 日本心理臨床学会第 34 回秋季大会, 2015

〔大学運営〕

各種支援活動：学生生活支援審議会 FD の運営 (計 4 回)

〔業務活動〕

学生支援業務：1) 学生相談・特別支援センターにおける学生相談：相談人数 152 名, のべ相談回数 1,091 回, 2) ハラスメント全学学生相談窓口におけるハラスメント相談：のべ対応回数 3 回

学生相談・特別支援センター業務：1) 東日本大震災後の学生の生活や心身の状態, 大学への適応状態等を把握するための全学生対象調査の実施, その結果に基づく学生への個別支援, 2) 同調査の結果等をまとめた「東日本大震災後の東北大学学生相談所の活動―震災後 5 年間の学生相談活動の実践・展開―」を作成

〔社会貢献〕

みやぎ学生相談連絡協議会において、県内の他大学にある学生相談機関と情報共有や相互支援 (計 2 回, うち 1 回は主催)

長友 周悟 講師

〔専門分野〕 臨床心理学

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「学生相談概論」(障害の理解を促すための授業を実施), 教職科目「相談心理学Ⅱ」を担当。

その他：全学 FD, 電気通信研究所 FD, 教務系職員実務研修, 教育関係共同利用拠点提供プログラムにおいて、障害者差別解消法に基づく障害学生への合理的配慮の考え方や具体的な配慮の例, 聴覚障害に関する理解や対応のあり方などについて講話・演習を提供した。また障害者差別解消法や合理的配慮の考え方, 当センター特別支援室などについて啓発・周知を図るためリーフレットの作成を行った。

〔大学運営〕

全学委員会：全学学生相談・特別支援連絡会議委員

部局内委員会：高度教養教育・学生支援機構研究倫理審査委員会委員

〔業務活動〕

学生相談・特別支援センター業務：障害のある学生への相談支援を行った。加えて、支援の充実を図るうえで必要な教職員との連携や、学生への対応に困難を抱える教員, 保護者への支援を行い, 支援体制の充実を図るため学生サポーター養成講座を実施した。診断が確定していないが障害 (主に発達障害) の疑いのある学生についても、学生相談所との連携により相談支援を行った。

〔社会貢献〕

- ・社会福祉法人仙台いのちの電話：専門委員 (電話相談員の研修, スーパービジョン)
- ・NPO 法人ソイブラム：理事 (精神障害当事者・家族への支援)
- ・社会福祉法人みんなの輪：理事 (障害者通所・入所施設の運営)
- ・宮城県教育庁特別支援教育室「高等学校のための特別支援教育サポートブック」作成への協力

佐々木 真理 助手

〔専門分野〕 障がい学生の修学支援, 聴覚障害

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「学生生活概論」(共同で担当)

〔大学運営〕

各種支援活動：学生生活支援審議会委員や学生相談専門委員, 部局の学生相談等の担当教職員等を対象とした「学生生活支援審議会 FD」の企画・実施 (年 4 回)

〔業務活動〕

学生支援業務：特別支援室相談員として、障害のある学生及び障害の疑いのある学生への個別相談・支援活動を行った。また、障害のある学生をサポートするピア・サポーターの募集・養成・運営管理等を行った。

学生相談・特別支援センター業務：1) 「東日本大震災後の学生生活に関する調査」の実施及び結果に基づく支援, 2) 学生相談・特別支援センターのリーフレット作成, 川内南キャンパスバリアフリーマップ作成, ホームページの更新等を行った。

〔社会貢献〕

- ・みやぎ学生相談連絡協議会の企画・運営を行った。
- ・第 49 回全国学生相談研究会議（仙台シンポジウム）実行委員として運営に携わった。
- ・オープンキャンパスにて特別支援室相談ブースを設置，保護者や高校教員からの相談にあたった。
- ・「高等学校のための特別支援教育サポートブック（宮城県教育庁特別支援室発行）」の作成に協力した。

木内 喜孝 教授

〔専門分野〕 消化器病学・炎症性腸疾患

〔教育活動〕

授業担当：学部専門教育（医学部医学科）「消化器ブロック」，大学院教育（情報科学研究科）「生体情報科学」，東北薬科大学「特殊医療学」

学位論文指導：博士 2 名（副査），修士 3 名（副査）

（上記の論文提出者以外に，博士課程の 1－3 年生について 5 名指導をしている）

〔研究活動〕

研究業績：1)（共著）De novo Crohn's disease after orthotopic liver transplantation: a case report and review of the literature. Intern Med. 2015;54(2):199-204. 2)（共著）Elucidation of the etiology and characteristics of pink urine in young healthy subjects. Clin Exp Nephrol. 2015;19(5):822-9. 3)（共著）Colorectal endoscopic submucosal dissection (ESD) performed by experienced endoscopists with limited experience in gastric ESD. Int J Colorectal Dis. 2015;30(12):1645-52. 4)（共著）Urinary angiotensinogen excretion is associated with blood pressure in obese young adults. Clin Exp Hypertens. 2016;38(2):203-8.

科研費：基盤研究（C）アリル特異的 DNA メチル化解析による炎症性腸疾患感受性遺伝子の機能解析（2014～2016）

〔大学運営〕

全学委員会：1) 学生支援審議会副委員長，2) 学務審議会委員，3) 入試実施委員会委員，4) 環境・安全委員会委員，5) 東北大学出版会評議員，6) 特別健康管理専門部会委員長，7) 災害対策推進室推進室会議，8) サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター運営専門委員会委員

部局内委員会：1) ハラスメント相談窓口，2) 研究費の不正使用に関する通報を受け付ける窓口，3) 研究倫理委員会委員長，4) 機構研究倫理教育責任者，5) 保健管理センター長，6) 機構長補佐会議メンバー，7) 情報科学研究科倫理審査委員

〔各種業務及び医療業務〕

医療業務，保健管理センター業務：保健管理センターの医師・センター長としての責務を果たした。

機構の業務：機構研究倫理委員会委員長として機構の研究倫理審査を行った。

臨床医学開発室業務：室の運営，各教員の研究の方向性について相談。

〔社会貢献〕

各種委員等：1) 宮城県生活習慣病検診管理指導協議会大腸がん部会委員：宮城県大腸癌検診が適切に行われているか審査を実施，2) 宮城県対がん協会大腸癌検診診断委員長：宮城県大腸癌検診の診断が適切に行われるように指導し，3) 宮城県社会保険診療報酬請求書審査委員会：保険診療報酬が適切に請求されているか審査した，4) 厚生労働科学研究費補助金特定疾患対策研究事業一難治性炎症性腸管障害に関する調査研究 班友

学会活動：1) 日本消化器病学会評議員，2) 日本消化器内視鏡学会東北支部評議員，3) 日本内科学会東北支部評議員，4) 日本消化器がん検診学会地方評議員，5) 全国大学保健管理協会評議員，6) 東北学校保健学会世話人，7) 第 42 回東北大腸疾患研究会開催事務局，8) 第 53 回全国大学保健管理研究集会東北地方研究集会当番大学

小川 晋 准教授

〔専門分野〕 糖尿病，高血圧，糖尿病性腎症

〔教育活動〕

授業担当：大学院教育「健康情報学」（情報科学研究科）生体情報科学分野の講義 3 枠

その他：医学部学生の臨床実習指導および講義

〔研究活動〕

研究業績：1)（共著）Stabilization of postprandial blood glucose fluctuations by addition of GLP-analog administration to intensive insulin therapy. J Diabetes Investig 6:436-442, 2015, 2)（共著）Elucidation of the etiology and characteristics of pink urine in young healthy subjects. Clin Exp Nephrol 19:822-829, 2015, 3)（共著）Lower urinary pH is useful for predicting renovascular disorder onset in patients with diabetes. BMJ Open Diabetes Res Care 3:e000097, 2015, 4)（共著）The strong relation between post-hemodialysis blood methylglyoxal levels and post-hemodialysis blood glucose concentration rise. Clin Exp Nephrol 19:527-533, 2015, 5)（共著）Urinary angiotensinogen excretion is associated with blood pressure in obese young

adults. Clin Exp Hypertens 38:203-208, 2016, 6) (単著) 糖尿病におけるレニン・アンジオテンシン系亢進のメカニズムとその対策, 最新医学 糖尿病と合併症 (後篇) 糖尿病合併症 Vol.70: 233-239, 2015, 7) (単著) 脱水を起こさないための SGLT2 阻害薬の使い方, DIABETES UPDATE Vol.4 No.4:38-43, 2015, 8) (単著) 危険因子 尿 pH 動脈硬化予防, Vol.14 No.4:94-97, 2015, 9) (ポスター発表・共同) 糖尿病性腎症の進行における血中および尿中 osteopontin と意義, 第 88 回日本内分泌学会学術総会, 10) (ポスター発表・共同) GLP-1 受容体作動薬および SGLT2 阻害薬併用の効果について, 第 88 回日本内分泌学会学術総会, 11) (ポスター発表・共同) 尿酸性化が糖尿病性腎血管障害に及ぼす影響の解明, 第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会, 12) (ポスター発表・共同) 「オングリザ®」投与による血糖低下と医療費削減効果について, 第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会, 13) (口頭発表・共同) Cyclophilin A は 2 年後の PWV の悪化を予測する, 第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会, 14) (口頭発表・共同) CGM 一体型インスリンポンプ G620 が有用であった 1 型糖尿病の 1 例, 第 30 回日本内分泌学会東北地方会, 15) (口頭発表・共同) 尿 pH 低下が長期間の糖尿病性腎血管障害進行を予測する, 第 58 回日本腎臓学会学術総会, 16) (ポスター発表・共同) 入学後に普通体重から肥満 (2 度) となった本学学生の実態調査, 第 53 回全国大学保健管理研究集会, 17) (ポスター発表・共同) イブラグリフロジンによる動脈硬化に与える影響について, 第 36 回日本肥満学会, 18) (ポスター発表・共同) Pink Urine Syndrome(PUS) におけるアミノ酸代謝とその意義, 第 38 回日本高血圧学会総会, 19) (口頭発表・共同) テネリグリプチンの有効性について, 第 19 回特定非営利活動法人東北内分泌研究会・第 31 回日本内分泌学会東北地方会, 20) (口頭発表・共同) 糖尿病における尿 pH 低下は長期間の腎血管障害進展の予測因子である, 日本糖尿病学会第 53 回東北地方会, 21) (口頭発表・共同) 「スイニー®」投与による血糖低下と医療費削減効果について, 日本糖尿病学会第 53 回東北地方会, 22) (口頭発表・単独) Pink urine syndrome における尿 pH 低下と腎アミノ酸代謝の関連, 第 27 回日本糖尿病性腎症研究会
講演等: 1) (教育講演) 透析予防のための血圧管理の実際, 第 27 回日本糖尿病性腎症研究会, 2) (シンポジウム) 塩分摂取過剰の病態とその分子機構: 腎臓を中心に, 日本慢性疾患重症化予防学会第二回年次学術集会
外部研究資金: 平成 27 年度「教育開発推進経費」研究課題名: 学生の尿酸性化のメカニズムとその意義の解明, 安斎記念糖尿病研究助成金
その他: アルブミン尿を有する 2 型糖尿病患者におけるスピロノラクトンの投与によるアルブミン尿抑制効果の検討 (共同研究), 電解水素水によるインスリン抵抗性改善効果検証のための臨床試験 (共同研究)

【大学運営】

部局内委員会: 高度教養教育・学生支援機構研究倫理委員会委員, 同 紀要編集委員会委員, 保健管理センター副センター長

【各種業務及び医療業務】

医療業務: 大学病院外来診療 (週 2 回), 入院患者の診療

学生支援業務: 生活習慣病に関する学生相談の対応

保健管理センター業務: 副センター長業務, 健康診断班長として約 2 万人の健康診断を確認し診断書を作成している。

臨床医学開発室業務: 学生健康診断, 学生健康相談 (週 3 日), 学生の緊急健康被害時の対応

【社会貢献】

学会活動: 日本内科学会 (支部評議員), 日本腎臓学会 (評議員), 日本高血圧学会 (評議員), 日本肥満症治療学会 (評議員), 糖尿病性腎症合同委員会

社会教育活動: 市民公開講座, 糖尿病友の会指導医および教育講演

その他: 津波被災地の診療支援 (岩手県立高田病院糖尿病外来)

伊藤 千裕 教授

【専門分野】精神医学, 精神薬理学

【教育活動】

授業担当: 医学部専門教育 (精神・心理・行動ブロック)「患者の抑うつ」「精神科治療学 (薬物身体療法)」「精神作用物質使用による精神および行動の障害」, 情報科学研究科大学院教育 (健康情報学)「こころの健康と異常 1,2,3」

その他: 1) 臨床研修指導医, 2) 日本精神神経学会精神科指導医, 3) 日本臨床精神神経薬理学指導医

【研究活動】

研究業績: 1) (単著)「ストレスとうまくつきあおう」, 保健のしおり, 44 号, 東北大学保健管理センター, 2015, 1-9 頁, 2) (共著)「Histamine H1 receptor occupancy by the new-generation antipsychotics olanzapine and quetiapine: A positron emission tomography study in healthy volunteers」Psychopharmacology, 232(19), 2015, pp.3497-3505, 3) (共同発表)「PET による新規抗精神病薬(オランザピン・クエチアピン)のヒト脳内 H1 受容体占拠率の解析」, 第 25 回日本臨床精神神経薬理学会, 2015 年 10 月, 東京

講演等: (教育講演)「抑うつ障害の診立てと治療」, 第 53 回全国大学保健管理集会東北地方研究集会, 2015 年 7 月, 仙台

寄付金: メンタルヘルス研究助成金

【大学運営】

部局内委員会：1) 高度教養教育・学生支援機構総務委員会委員，2) 病院ハラスメント相談窓口

【各種業務及び医療業務】

医療業務：1) メンタルヘルス相談，2) 新入生および学生定期健康診断，3) 診断書の作成

機構の業務：1) 学生支援審議会教員研修 FD「ストレスコントロール」，2) 高度教養教育・学生支援機構正午 FD「大学におけるメンタルヘルスマネジメント」，3) 教育関係共同利用拠点プログラム（健康教育）「双極性障害」

【社会貢献】

学会活動：1) 日本神経精神薬理学会評議員，2) 日本臨床精神神経薬理学会評議員，3) 日本ヒスタミン学会幹事

その他：医療法人小島慈恵会小島病院非常勤医師

佐藤 公雄 准教授

【専門分野】 循環器内科学

【教育活動】

下記の教育活動を行った。主に循環器内科へ海外からの留学生（博士課程）1名，JSPS 研究員 1名，大学院生（博士課程）8名，泌尿器科から学内留学中の大学院生（博士課程）1名の学位研究の指導に注力した。

授業担当：大学院生向けの心血管疾患に関する講義担当。

学位論文指導：循環器内科の大学院生の学位論文指導，泌尿器科からの大学院生の学位論文指導。

留学生，学振特別研究員受入れ：海外留学生 1名，海外からの JSPS 研究員 1名の受け入れと指導を行っている。

【研究活動】

研究業績：英文原著論文 12 件（全て査読あり），日本語著書 2 件，学会発表多数，特許取得 1 件，特許出願中 2 件

受賞（本人）：1) Top 10 Reviewers Award of *Arteriosclerosis, Thrombosis and Vascular Biology* (ATVB, AHA)，2) 先進医薬研究振興財団 第 14 回循環医学分野 一般研究助成，3) 武田科学振興財団 医学系研究奨励（継続），4) バイエル薬品研究助成

外部研究資金：文部科学省 H26-28 橋渡し研究（シーズ A，シーズ B），H27-29 基盤研究（B），H27-29 挑戦的萌芽研究，日本医療研究開発機構（AMED） H27-29 創薬基盤推進研究事業

【大学運営】

大学運営：医学部・医学系研究科・遺伝子組換え実験安全主任者として，遺伝子組み換え実験の申請書の審査および実験施設の視察等を行った。高度教養教育・学生支援機構・遺伝子組換え実験安全主任者・動物実験安全主任者として，申請書の審査等を行った。

部局内委員会：循環器内科での月曜朝のミーティング・抄読会・勉強会の調整を行った。

【各種業務及び医療業務】

過去 3 年間の活動で最も注力したのは大学病院の循環器内科外来および保健管理センターでの医療業務である。保健管理センターでの医療業務として，週 3 日保健管理センターで健康相談を行っており，健康相談班長として学医からの相談を受けている。

【社会貢献】

各種委員等：文部科学省 独立行政法人日本学術振興会（JSPS）審査委員，文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術動向研究センター 専門調査員

学会活動：12 の国内外の学会に所属し，日本酸化ストレス学会および日本 NO 学会の評議員を務めている。また，日本 NO 学会の事務局を担当している。

日本循環器学会 禁煙推進委員会 委員，日本循環器学会 予防委員会 委員，日本循環器学会 第 80 回日本循環器学会学術集会 事務局長，日本 NO 学会 評議員（事務局担当），第 9 回国際 NO 学会・第 16 回日本 NO 学会学術集会 事務局長，日本酸化ストレス学会 評議員，日本心臓血管作動物質学会 評議員

社会教育活動：開業医向けの生涯教育講座の講義担当。

石田 晶玄 助教

【専門分野】 肝胆膵外科学

【教育活動】

授業担当：歯学部専門教育講義を 2 回，宮城大学看護学科の講義 1 回

その他：医学系研究科の博士課程の院生の実験指導，医学部学生の臨床実習の指導

【研究活動】

研究業績：1)（共著）「膵外分泌機能不全と膵酵素補充療法の進歩」慢性膵炎の Frey 術後の栄養状態の変化：胆と膵（0388-9408）37 巻 2 号 Page185-189（2016.02），2)（共著）初回手術より 12 年後に診断された直腸癌局所再発に対し骨盤内臓全摘術を施行した 1 例：癌と化学療法（0385-0684）42 巻 12 号 Page2337-2339（2015.11），3)（共著）「難治な胆道良性疾患の対処法を考える」良性胆道疾患別の診断と治療（各論）慢性膵炎による胆道狭窄 外科的治療：肝・胆・膵（0389-4991）71 巻 3 号 Page475-479

(2015.09), 4) (共著)「慢性膵炎・急性膵炎に対する外科的アプローチ」慢性膵炎 慢性膵炎に対する Frey 手術: 手術 (0037-4423) 69 巻 9 号 Page1311-1315 (2015.08), 5) (共著)「Borderline resectable 膵癌の最前線-診断・治療法はどう変わったか-」BR 膵癌の切除可能性をどのように決定するか?: 胆と膵 (0388-9408) 36 巻 5 号 Page435-440 (2015.05), 6) (共著)「手術の基本手技; II 内視鏡手術編」腹腔鏡下膵尾側切除術 (解説/特集): 消化器外科 (0387-2645) 38 巻 4 号 Page511-519 (2015.04), 7) (共著) Pseudogene INTS6P1 regulates its cognate gene INTS6 through competitive binding of miR-17-5p in hepatocellular carcinoma. Oncotarget. 2015 Mar 20; 6(8): 5666-77

科研費: 研究活動スタート支援「脱ユビキチン化酵素 BAP1 の胆管癌における役割の解明」

〔各種業務及び医療業務〕

東北大学病院肝胆膵外科における診療, 健康管理センターにおける学医 (外科) 業務

遠藤 克哉 助教

〔専門分野〕 消化器内科学

〔研究活動〕

研究業績: 1) (共著) NUDT15 R139C causes thiopurine-induced early severe hair loss and leukopenia in Japanese patients with IBD. Pharmacogenomics J, (2015), 2) (共著)『チェックリストでわかる! IBD 治療薬の選び方 使い方』, 羊土社, (2015)

科研費: 若手研究(B) 腸管粘膜内 T 細胞のエピゲノム修飾異常は炎症性腸疾患内科治療抵抗性の主要因子である (2015-2017 年)

嘉数 英二 助教

〔専門分野〕 内科・消化器内科学

北 浩樹 助教

〔専門分野〕 歯科矯正学, 健康情報学

〔教育活動〕

授業担当: 大学院教育 (情報科学研究科)「健康情報学」

その他: 日本矯正歯科学会認定医

〔研究活動〕

研究業績: 1) (共著)「保健管理センター10 年の歩み」東北大学高等教育開発推進センター紀要, 10, 97-99, 2015, 2) (共同発表)「入学後に普通体重から肥満 (2 度) となった本学学生の実態調査」, 第 53 回全国大学保健管理研究集会, 9/9-10, 2015, 3) (共同発表)「全キャンパス禁煙宣言後の状況について」, 第 52 回全国大学保健管理研究集会東北地方研究集会, 7/17-18, 2015

科研費: 基盤研究 (C)「メディア上における潰瘍性大腸炎に関する医療情報の質の評価」(代表)

〔大学運営〕

部局内委員会: 施設整備委員会委員

〔各種業務及び医療業務〕

医療業務: 1) 定期健康診断における歯科診査, 2) 有機溶剤・特定化学物質取扱学生特殊健康診断における産業歯科診査, 3) 歯科外来における歯科診療, 4) 禁煙外来における診療

機構の業務: PD プログラム 健康教育 W-04 【PDP】健康科学セミナー「歯科臨床概説」

保健管理センター業務: 1) 歯科診療室の管理運営, 2) 年報の編纂, 3) ホームページの管理運営, 4) デジタルサイネージ (電子看板) の管理運営/デジタルサイネージを用いた学生向け健康情報供覧システムの開発

〔社会貢献〕

学会活動: 全国大学保健管理研究集会東北研究集会・第 53 回東北地方部会研究集会 (平成 27 年 7 月 16, 17 日, 仙台) の運営委員を務め, 集会の挙行に尽力した。

その他: 1) 老人介護施設にて講演「介護老人の口腔衛生と口腔ケア」(9 月, 仙台)。介護老人の死因の一定割合を占める口腔内細菌由来の誤嚥性肺炎予防の啓発活動に努めた。2) 市内外の 3 つの歯科医院の非常勤歯科医師 (矯正歯科専門医) として従事し, 地域医療へ貢献した。

玉井 ときわ 助教

〔専門分野〕 呼吸器内科学

中西 史 助教

〔専門分野〕 移植・再建・内視鏡外科

〔研究活動〕

研究業績: 1) (共著) An evaluation of the safety of pure laparoscopic hepatectomy in patients with liver cirrhosis: investigations including serum albumin and ascites. Surg Laparosc Endosc Percutan Tech, 25(3), (2015), 209-211, 2) (共著) The prevalence and risk factors of obesity, hypertension, dyslipidemia, and diabetes mellitus before and after adult living donor liver transplantation. Hepatol Res, 45(7), (2015), 764-770, 3) (共著) A Nationwide Survey of Hepatitis E Virus Infection and Chronic Hepatitis E in Liver Transplant Recipients in Japan. EBIOMEDICINE, 2(11), (2015), 1607-1612, 4) (共著) Indications and outcomes of an endoscopic approach under laparotomy for the treatment of bilioenteric anastomotic strictures. Pediatr Transplant, (2015), 5) (共著) Evaluation of a newly developed piezo actuator-driven pulsed water jet system for liver resection in a surviving swine animal model..[Biomed Eng Online, 15(1), (2016), 9
 科研費: 基盤研究(C)「新規パルスジェットメスを用いた内視鏡下肝臓手術の開発」代表 (2015-2018 年)

山本 沙織 助教

【専門分野】 内科・循環器病学

【教育活動】

基礎修練, 高次修練の学生への指導

【研究活動】

研究業績: 1) (共同発表) Current Status of the Management of Anderson-Fabry Disease-A Single Center Experience- 第 80 回日本循環器学会学術集会 2016.3.18-20 仙台, 2) (共同発表) 当科における Fabry 病診療の現状 第 9 第回性差医療学会 2016.1.30-31 札幌

【各種業務及び医療業務】

週に 3 日, 健康相談を行っている。また, 各種入試の医務室業務を行っている。

藤室 怜治 特任准教授

【専門分野】 日本近現代史

IV 資 料 編

1. 統計データ

(1) グローバル時代における人材像と高度教養教育システムの総合的研究の推進

○「第1回 東北大学教員の教育活動に関する調査」実施（平成28年1月）

- ・平成27年12月1日時点で東北大学に在籍していた任期制を含む助教以上の教員2,445名を対象に調査を実施
- ・有効回答数1,246、有効回答率51.0%

(2) 実践的英語運用能力を高める体系的英語教育プログラムの開発・推進

○多読法による英語教育プログラムの授業実践（1年次「英語A」の場合）

- ・開講クラス数：前期後期計44クラス（全体の31.9%）

○高度な英語能力養成を目指す全学教育科目「プラクティカル・イングリッシュスキルズ」開講

- ・開講クラス数：前期3クラス、後期3クラス、計6クラス
- ・受講者数：前期後期計68名

○英会話支援プログラムの開発・推進

- ・学習支援センターでの「英会話カフェ」「1on1英会話」の実施

○国際的な教育・研究環境で必要とされる英語運用能力の養成を目指す「TEA's English 学期内プログラム」及び「TEA's English 集中プログラム」

表2-1 「英語A」における多読法を取り入れた授業実践（H24～H27）

	H24	H25	H26	H27
開講クラス数	12	22	30	44
全体に占める割合（%）	8.7%	15.9%	21.7%	31.9%

表2-2 「プラクティカル・イングリッシュスキルズ」開講実績（H25～H27）

		H25	H26	H27
開講クラス数		4	6	6
受講者数（人）		45	69	68

表2-3 「英会話カフェ」「1on1英会話」利用者数（H24～H27）（単位：人）

	H24	H25	H26	H27
延べ利用者数	161（※）	336	698	651

※H24年度は「英会話ゼミ」の名称で実施

表2-4 「TEA's English 学期内プログラム」及び「TEA's English 集中プログラム」開講実績（H27）

				H27
開講クラス数				各プログラム2
受講者数（学期内）（人）				計380
受講者数（集中）（人）				計15

(3) 現代社会の多様な「知」に対応した高度教養教育の開発・推進

○全学教育科目「自然科学総合実験」「文科系のための自然科学総合実験」の実施

- ・自然科学総合実験実施委員会：年4回程度開催
- ・理科実験スタッフミーティング：毎週開催
- ・自然科学総合実験教員TAガイダンス：セメスター開始前に開催
- ・自然科学総合実験受講学生ガイダンス及びレポート作成演習：第1回の授業時に開催

(4) 多様な価値観と文化を学ぶ国際共修・異文化理解プログラムの開発・推進

○国際共修ゼミ（日本語）／国際共修（英語：新規開講）の充実

- ・クラス数：44，延べ受講者数：1,116名（内訳：日本人学生 401名，留学生 715名）

表4-1 国際共修ゼミ開講クラス数（H24～H27）

	H24	H25	H26	H27
日本語クラス	12	19	25	24
英語クラス	—	—	9	20
計	12	19	34	44

表4-2 国際共修ゼミ（日本語）受講者数（H24～H27）（単位：人）

	H24	H25	H26	H27
日本人学生	192	224	486	286
外国人留学生	66	291	319	359
計	258	515	805	645

表4-3 国際共修ゼミ（英語）受講者数（H26～H27）（単位：人）

			H26	H27
日本人学生			56	115
外国人留学生			121	356
計			177	471

○短期国際交流活動の推進

- ・東北大学サマープログラム（TUJP，TSSP）における学生ボランティア

表4-4 東北大学サマープログラムボランティア学生数（H24～H27）（単位：人）

	H24	H25	H26	H27
TUJP（H25～）	—	47	44	53
TSSP	43	39	21	17
計	43	86	65	70

(5) 留学生の戦略的受入れの推進と海外研鑽プログラムの充実

①戦略的受入れの推進

○中国清華大学，国立応用科学院リヨン校，フランス国立中央理工科大学院，スウェーデン王立工科大学とのダブル・ディグリープログラム

- ・受入学生数：6名，派遣学生数：3名

○国際学士コース（理学部先端物質科学コース，工学部国際機械工学学士コース，農学部国際海洋生物科学コース）の継続実施

- ・志願者数：96名，合格者数：35名，入学者数：25名

○交換留学生の受入れ促進

- ・JYPE（自然科学系短期留学生受入プログラム），IPLA（人文社会科学系短期留学生受入プログラム），COLABS（研究型短期留学生受入プログラム），DEEP（直接配置型受入プログラム）の実施

○短期研修プログラムの整備

- ・TUJP（日本語・日本文化サマープログラム），TSSP（自然科学系学部生対象プログラム），夏季・冬季短期日本語・日本文化研修プログラムの実施

- 外国人留学生日本語研修コース（国費留学生対象短期集中プログラム）の継続実施
 - ・日本語研修コース（大学院・教員研修予備教育）の研修生数：前期 13 名，後期 8 名
 - ・日韓共同理工系学部留学生プログラムの研修生数：7 名

- 外国人留学生等特別課程（日本語）の継続実施
 - ・受講者数：前期 324 名，後期 532 名

表 5－1 ダブル・ディグリープログラム交流実績（H24～H27）（単位：人）

	H24	H25	H26	H27
受入学生数	4	6	8	6
派遣学生数	1	2	2	3

表 5－2 JYPE, IPLA, COLABS, DEEP 受入学生数（H24～H27）（単位：人）

	H24	H25	H26	H27
JYPE	54	56	72	80
IPLA	20	33	46	58
COLABS	20	27	33	43
DEEP	44	51	49	51

表 5－3 TUJP, TSSP, 日本語・日本文化研修プログラム受入学生数（H24～H27）（単位：人）

	H24	H25	H26	H27
TUJP	—	23	18	55
TSSP	21	23	24	31
日本語・日本文化研修プログラム	14	23	23	17

②戦略的派遣の推進

- スタディアブロードプログラム（SAP）の開発・実施
 - ・プログラム数：18，派遣者数：297 名
- 多様な派遣プログラムの開発・実施
 - ・研究型海外研鑽プログラム：派遣者数 35 名，入学前海外派遣プログラム：派遣者数 18 名
- 東北大学グローバルリーダー（TGL）育成プログラムの推進
 - ・登録者数：2,091 名，指定科目：329 科目，TGL 修了者：13 名，グローバルリーダー認定者：16 名

表 5－4 SAP 実施状況（H24～H27）

	H24	H25	H26	H27
プログラム数	5	17	18	18
派遣者数（単位：人）	121	275	285	297

表 5－5 TGL プログラム実施状況（H25～H27）

		H25	H26	H27
登録者数（単位：人）		642	1,322	2,091
指定科目数		200	224	329
TGL プログラム修了者数（単位：人）		0	3	13
グローバルリーダー認定者数（単位：人）		2	6	16

(6) 自己発展力のある主体的学生を育成する総合的学生の支援の推進

①学習支援（学習支援センター）

○SLA サポートシステムによる学習支援活動

- ・理系支援担当 SLA（前期 35 名・後期 35 名）による個別対応型学習支援：2,331 名
- ・授業連携型学習支援：連携授業 12 クラス（教員 7 名）
- ・自主ゼミ支援：活動ゼミ 4，名簿登録学生数 104 名

表 6－1 理系支援担当 SLA による個別対応型学習支援実績（H24～H27）（単位：人）

	H24	H25	H26	H27
延べ支援人数	1,886	1,337	2,803	2,331

②学生相談・援助活動（学生相談・特別支援センター）

○相談・援助・予防活動

- ・学生相談所における個別支援（出張カウンセリング含む）：来談者数 665 名，対応回数 2,992 回
- ・ハラスメント全学学生相談窓口における相談・援助活動：相談件数 20 件，対応回数 107 回
- ・特別支援室（H26.4 設置）での障害を持つ学生，学生と関わる教職員等への専門的支援
：来談者 43 名，対応回数 1,618 回
- ・学生相談・特別支援等に関する FD：14 回（学生生活支援審議会 FD：4 回，部局 FD：10 回）

○全学的支援体制の構築

- ・川内南キャンパスでのキャリア・カウンセリング：来談者数 9 名，相談回数 11 回
- ・雨宮キャンパスでの出張相談：来談者数 12 名，相談回数 46 回
- ・星陵キャンパスでの出張相談：来談者数 14 名，相談回数 36 回

表 6－2 学生相談における来談者数（H24～H27）（単位：人）

	H24	H25	H26	H27
学生相談・特別支援センター	—	—	748	677
内訳 （重複あり）	学生相談所（出張カウンセリング含む）	786	760	743
	特別支援室	—	—	39
ハラスメント全学学生相談窓口としての相談		20	19	10
計		806	779	758

表 6－3 学生相談における相談回数（H24～H27）（単位：回）

	H24	H25	H26	H27
学生相談・特別支援センター	—	—	3,929	4,461
内訳（重複あり）	学生相談所（出張カウンセリング含む）	3,760	3,761	3,913
	特別支援室	—	—	446
ハラスメント全学学生相談窓口としての相談		85	153	97
計		3,845	3,914	4,026

表 6－4 FD 等の実施回数（H24～H27）（単位：回）

	H24	H25	H26	H27
FD・SD（学生支援審議会 FD，部局 FD を含む）	12	11	18	14
部局と連携した学生対象の講演	4	5	5	6
部局新入生オリエンテーション等	15	18	19	18
計	31	34	42	38

○新入生を含む全学生を対象とした、大学生活への適応状態や震災の心身への影響を把握するための調査の実施

- ・回答者数 10,488 名（回収率 58.3%）、PTSD ハイリスク群 346 名(全体の 3.4%)

表 6－5 全学生対象調査の概要（H24～H27）

	H24	H25	H26	H27
回答者数（人）	9,437	10,617	10,713	10,488
回収率（%）	55.3%	59.0%	60.0%	58.3%
PTSD ハイリスク群（人）	585	494	427	346
有効回答者に占めるハイリスク群の割合（%）	6.3%	5.0%	4.0%	3.3%

③健康に関する支援活動（保健管理センター）

○各種健康診断事業、診療及び日常の健康相談

- ・学生定期健康診断：受診者数 13,447 名（受診率 75.3%）
- ・学生特殊健康診断：受診者数 7,110 名
- ・結核健診（学生ツベルクリン反応検査）：受診者数 636 名
- ・診療及び日常の健康相談：受診者数 4,323 名

表 6－6 学生定期健康診断受診者数および受診率（H24～H27）

	H24	H25	H26	H27
受診者数（人）	12,995	13,490	13,447	13,443
受診率（%）	71.9%	75.4%	75.3%	75.2%

表 6－7 各種健康診断、診療及び日常の健康相談受診者数（H24～H27）（単位：人）

	H24	H25	H26	H27
学生特殊健康診断	7,066	7,164	7,110	7,145
結核健診（学生ツベルクリン反応検査）	673	468	636	544
診療及び日常の健康相談（学生及び職員）	5,964	5,254	4,323	4,170

○健康に関する講演会等の開催

- ・健康科学講演会（学生対象）：年 1 回
- ・健康科学セミナー（教職員対象）：年 4 回

④キャリア支援活動（キャリア支援センター）

○全学教育科目でキャリア教育科目開講

- ・開講科目数：6 科目，受講者数：103 名

○進路形成のための各種支援プログラム実施

- ・事業件数：36 件，開催回数：106 回
- ・参加者数：学部学生延べ 4,523 名，大学院学生延べ 8,306 名，その他既卒者等延べ 36 名，計 12,865 名

○進路や就職に関する個別相談

- ・対応件数：学部学生 1,303 件，大学院学生 1,820 件，その他既卒者等 56 件，計 3,179 件

表 6－8 全学教育におけるキャリア教育科目の開講科目数および受講者数（H24～H27）

	H24	H25	H26	H27
開講科目数	4	6	4	6
受講者数（人）	125	202	91	103

表 6－9 進路形成のための各種支援プログラム事業件数，開催回数および延べ参加者数（H24～H27）

	H24	H25	H26	H27
事業件数	20	28	33	36
開催回数	63	67	67	106
延べ参加者数（人）	9,607	9,618	10,326	12,865

表 6－10 進路や就職に関する個別相談対応件数（H24～H27）

	H24	H25	H26	H27
対応件数	1,588	1,685	1,832	3,179

⑤課外活動支援（課外・ボランティア活動支援センター）

○被災地復興支援ボランティア活動の支援

・各種ボランティアツアーの実施：55 回開催，本学学生参加者数 666 名

表 6－11 ボランティアツアー開催回数及び延べ参加学生数（H24～H27）

	H24	H25	H26	H27
開催回数	11	47	41	55
延べ参加学生数（人）	260	590	513	666

（7）東北大学型 AO 入試の一層の深化と拡大のためのイニシアチブ

○入試広報活動の推進

- ・オープンキャンパス：7 月 29/30 日の 2 日間実施，参加者数 60,411 名
- ・高校生対象の進学説明会：参加者数（札幌）369 名，（大阪）173 名，（東京）778 名
- ・高校教員対象の入試説明会の開催：20 会場，526 名参加
- ・高校及び民間業者主催の入試説明会・相談会への参加：14 会場

表 7－1 オープンキャンパス参加者数（H24～H27）（単位：人）

	H24	H25	H26	H27
参加者数	57,445	61,631	55,147	60,411

表 7－2 高校生対象の進学説明会参加者数（H24～H27）（単位：人）

	H24	H25	H26	H27
札幌会場	286	280	317	369
東京会場	489	563	697	778
大阪会場	132	212	133	173

表 7－3 高校教員対象の入試説明会の開催実績（H24～H27）

	H24	H25	H26	H27
会場数	18	18	18	20
参加者数（人）	451	436	480	526

（8）教職員個人の能力開発と高等教育機関のマネジメント開発支援

○専門性開発セミナーの開催

- ・提供セミナー数：52 回，参加者数：2,237 名
- ・受講満足度（全体）：3.74/4.00

○セミナー動画のオンライン配信

- ・提供動画数：36、動画閲覧数：25,702回

○海外大学と連携した派遣プログラム

- ・大学教員準備プログラム：全国から2大学8名（フルコースとショートコースの計。いわき明星大学，東北大学）参加
- ・新任教員プログラム：全国から6機関12名（フルコースとショートコースの計。理化学研究所，東北工業大学，熊本大学，岩手大学，東日本国際大学，東北大学）参加
- ・履修証明プログラム「アカデミック・リーダー育成プログラム」：全国から5大学9名（首都大学東京，東日本国際大学，山口県立大学，龍谷大学，東北大学）参加

○大学職員能力開発プログラム

- ・提供セミナー数：3回，参加者数：東北大学職員24名，他大学34名

表8-1 専門性開発セミナー開催実績（H24～H27）

	H24	H25	H26	H27
提供セミナー数	40	35	49	52
内，高等教育のリテラシー形成関連(L)	16	9	16	10
専門教育での指導力形成関連(S)	2	3	3	10
学生支援力形成関連(W)	3	3	2	1
マネジメント力形成関連(S)	4	10	7	11
その他	15	8	18	20
参加者数（人）	2,030	1,941	1,888	2,237

表8-2 セミナー動画のオンライン配信提供動画数および閲覧数（H24～H27）

	H24	H25	H26	H27
提供動画数	6	19	26	36
内，高等教育のリテラシー形成関連(L)	4	8	14	18
専門教育での指導力形成関連(S)	1	4	4	4
学生支援力形成関連(W)	—	—	1	4
マネジメント力形成関連(S)	—	5	5	10
その他	1	2	2	0
動画閲覧数	—	—	11,854	25,702

3. 外部資金獲得状況

(単位: 千円)

受入年度	科学研究費補助金		受託研究		共同研究		寄 附 金	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
平成 27 年度	49	65,688	3	68,045	3	2,625	3	12,379

※科学研究費補助金、受託研究、共同研究は、直接経費と間接経費の合計額である。また、他大学からの分担金を含めている。

4. 共同研究員受入状況

氏 名	研 究 課 題	研 究 期 間	本務先の所属・職	受入教員
丸山 和昭	大学教員のキャリアと専門性開発に関する研究	平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日	福島大学総合教育研究センター・准教授	羽田教授
Sophie Arkoudis	Cross-Cultural Understanding and the Internationalization of Curriculum and Teaching in Higher Education	平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日	Associate Professor in Higher Education, Centre for the Study of Higher Education, the University of Melbourne	羽田教授
Chi Baik	The Professional Development of Faculty for Academic Excellence	平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日	Lecturer in Higher Education, Centre for the Study of Higher Education, the University of Melbourne	羽田教授
Linda von Hoene	Developing of PFFP, and review and assess the program developed by the Center for Professional Development	平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日	Director, GSI Teaching and Resource Center, University of California, Berkeley	羽田教授
川井 一枝	ジュニア・ファカルティ・プログラムおよび専門教育指導力育成プログラムの開発	平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日	いわき明星大学教養学部・准教授	羽田教授
鳥居 朋子	大学教育マネジメントにおけるIR活用に基づく教育改善に関する調査研究	平成 27 年 6 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日	立命館大学教育開発推進機構・教授	羽田教授
大森 不二雄	米豪英日の高等教育における大学マネジメント調査研究	平成 27 年 6 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日	首都大学東京 大学教育センター・教授	羽田教授
中島 夏子	ジュニア・ファカルティ・プログラムの開発	平成 27 年 7 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日	東北工業大学共通教育センター・講師	羽田教授
保坂 雅子	学生のキャリア意識の発達と効果的支援のあり方に関する研究開発	平成 27 年 7 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日	東北大学男女共同参画推進センター・助教	羽田教授
遠藤 栄一	国際的通用性のある総合的な「東北大学教育・学習改善システム」構築による IR 活用推進事業	平成 27 年 11 月 24 日～平成 28 年 3 月 31 日	株式会社ドレイク・ネットワークス・シニアコンサルタント	杉本教授

5. 規程類

(1) 東北大学高度教養教育・学生支援機構規程

平成26年3月25日

規 第 26 号

(趣旨)

第1条 この規程は、東北大学高度教養教育・学生支援機構（以下「本機構」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(目的)

第2条 本機構は、東北大学（以下「本学」という。）の学内共同教育研究施設等として、高度教養教育及び学生支援に関する調査研究，企画及び提言並びにそれらの方法の開発及び実施を関係部局との連携の下，一体的に行うことにより，本学の教育の質の向上に寄与することを目的とする。

(職及び職員)

第3条 本機構に，次の職及び職員を置く。

機構長
副機構長
部門長
院長
教授
准教授
講師
助教
助手
総長特命教授
技術職員
その他の職員

2 前項に定めるもののうち，別に定めるものは，学校保健安全法（昭和33年法律第56号）第23条第1項に規定する学校医とする。

(機構長)

第4条 機構長は，機構の業務を掌理する。

2 機構長は，総長が指名する理事若しくは副学長又は本学の専任の教授をもって充てる。

3 機構長の任期は，2年（理事又は副学長にあつては，その任期）とし，再任を妨げない。

(副機構長)

第5条 副機構長は2人とし，機構長の職務を補佐する。

2 副機構長は，本学の専任の教授をもって充てる。

3 副機構長の任期は，機構長の任期の範囲内とし，再任を妨げない。

(部門長)

第6条 部門長は，第8条に規定する部門の業務を掌理する。

2 部門長は，本機構の専任の教授をもって充てる。

3 部門長の任期は，機構長の任期の範囲内とし，再任を妨げない。

(院長)

第7条 院長は，次条に規定する教養教育院の業務を掌理する。

2 院長は，総長が指名する理事若しくは副学長又は本学の専任の教授をもって充てる。

3 院長の任期は，2年（理事又は副学長にあつては，その任期）とし，再任を妨げない。

(部門，教養教育院等)

第8条 本機構に，高等教育開発部門，教育内容開発部門及び学生支援開発部門並びに教養教育院を置く。

2 高等教育開発部門に、次に掲げる室を置く。

入試開発室

高等教育開発室

国際化教育開発室

キャリア開発室

3 教育内容開発部門に、次に掲げる室を置く。

人間総合科学教育開発室

自然科学教育開発室

言語・文化教育開発室

4 学生支援開発部門に、次に掲げる室を置く。

臨床教育開発室

臨床医学開発室

(業務センター)

第9条 本機構に、業務組織として、業務センターを置く。

2 前項の業務センターに、別に定めるところにより、学校保健安全法第7条に規定する保健室を置く。

3 前項に定めるもののほか、業務センターの組織及び運営については、別に定める。

(教授会議)

第10条 本機構に、その組織、人事、予算その他運営に関する重要事項を審議するため、教授会議を置く。

2 教授会議の組織及び運営については、別に定める。

(運営会議)

第11条 本機構に、本機構の組織及び運営について企画し、及び調整するため、運営会議を置く。

2 運営会議の組織及び運営については、別に定める。

(高度教養教育諮問会議)

第12条 本機構に、機構長の諮問に応じて本機構の組織及び運営について協議し、並びに機構長に対して助言及び提言を行うため、高度教養教育諮問会議を置く。

2 高度教養教育諮問会議の組織及び運営については、別に定める。

(事務)

第13条 本機構の事務については、国立大学法人東北大学事務組織規程（平成16年規第151号）の定めるところによる。

(雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか、本機構の組織及び運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

1 この規程は、平成26年4月1日から施行する。

2 東北大学高等教育開発推進センター規程（平成16年規第311号）及び国立大学法人東北大学国際交流センター規程（平成17年規第93号）は、廃止する。

(2) 東北大学高度教養教育・学生支援機構業務センター内規

平成26年4月1日
制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学高度教養教育・学生支援機構規程（平成 年規第 号）第9条第3項の規定に基づき、東北大学高度教養教育・学生支援機構に置く業務センターの組織及び運営について定めるものとする。

(業務センターの設置)

第2条 業務センターとして、別表の左欄に掲げる分野に応じ、同表の中欄に掲げるセンターを置き、その所掌業務は、それぞれ同表の右欄に掲げるとおりとする。

(業務センターの職及び職員)

第3条 業務センターとして置かれるセンターに、それぞれ次の職及び職員を置く。

- 一 センター長
- 二 副センター長
- 三 その他の職員

(センター長及び副センター長)

第4条 センター長は、当該センターの業務を掌理する。

- 2 副センター長は、2人以内とし、センター長の職務を補佐する。
- 3 センター長は、機構長が指名する本学の専任の教授をもって充て、副センター長は、本学の専任の教授又は准教授をもって充てる。
- 4 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 5 副センター長の任期は、センター長の任期の範囲内とし、再任を妨げない。

(雑則)

第5条 この内規に定めるもののほか、業務センターの組織及び運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

別表

分野	センター名	所掌業務
教育マネジメント	教育評価分析センター	本学の教育学習活動に関する関連情報・データの収集・分析・提供を行うことを通して、本学における教育改革・改善や教育マネジメントを支援。
	大学教育支援センター	大学関係共同利用拠点の中核組織として、本学及び国内の高等教育機関に対する各種専門開発プログラム（大学院生向け大学教員準備プログラム・新任教員研修プログラムなど）を実施。
	入試センター	現在の入試センターの業務を引き継ぎ、中長期的な本学入試の企画・改善検討（入試設計・分析、追跡調査等）、入試業務（センター試験、一般入試等）、入試広報（各種説明会、高校訪問、メディア対応、講演、執筆等）、高大接続事業（オープンキャンパス支援、講演会／シンポジウム／フォーラム、アウトリーチプログラム等）を実施。
教育開発・実施	言語・文化教育センター	全学教育および高年次教育における語学教育のプログラム開発と実践、多文化理解教育の実施。
	グローバルラーニングセンター	教育国際戦略の提言、国際交流活動の推進とともに、留学生の受け入れ・教育・支援プログラムの開発・充実を図る。学生の海外派遣プログラムの開発・実施等によりグローバル人材育成を推進する。
	学際融合教育推進センター	学部・大学院における学際融合教育の開発と実施。
学習・学生支援	学習支援センター	高校教育から大学教育へのスムーズな移行のため、大学での自律的な学習方法について、相談・指導を実施。
	キャリア支援センター	学部・大学院におけるキャリア開発プログラムの実施、及び就職支援。現在の高度イノベーション博士人財育成センターの機能を統合。
	学生相談・特別支援センター	学生の発達に関する調査研究と学生相談に加え、発達障害学生への支援、教員に対する学生指導への支援・助言を強化。学生相談および障害学生への支援と学生支援に関わる調査研究、教職員の学生支援力向上のための支援
	保健管理センター	学生の健康保持、増進を図るための保健管理に関する専門的業務を実施
	課外・ボランティア活動支援センター	学生の自主的な課外活動、文化やスポーツ、ボランティア活動の総合的な支援と、社会貢献型の体験学習の企画と実施。

(3)東北大学高度教養教育・学生支援機構教授会議内規

平成26年4月1日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学高度教養教育・学生支援機構規程（平成 年規第 号）第10条第2項の規定に基づき、東北大学高度教養教育・学生支援機構教授会議（以下「教授会議」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(構成)

第2条 教授会議は、機構長、副機構長及び東北大学高度教養教育・学生支援機構（以下「本機構」という。）の専任の教授、准教授及び講師並びに業務センターの各センター長（以下「各センター長」という。）をもって構成する。

(審議事項)

第3条 教授会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 本機構の組織に関する事項
- 二 教員の人事に関する事項
- 三 予算に関する事項
- 四 その他運営に関する重要事項

(議長)

第4条 教授会議の議長は、機構長をもって充て、教授会議を主宰する。

2 機構長が欠けたとき、又は事故があるときは、副機構長が前項の職務を代行する。

(開催)

第5条 教授会議は、原則として毎月1回開催するものとする。

2 機構長が必要と認める場合は、臨時に教授会議を開催することができる。

3 機構長は、構成員3人以上から議題を付して要求があったときは、教授会議を開催しなければならない。

(定足数)

第6条 教授会議は、構成員（休職者及び外国出張中の者等を除く。）の過半数の出席がなければ、会議を開き、議決することができない。

(議案)

第7条 機構長は、教授会議の議案を定め、あらかじめ構成員に通知しなければならない。ただし、緊急を要する場合は、この限りでない。

2 構成員は、議案を発議することができる。

(議決)

第8条 教授会議の議事は、出席した構成員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。ただし、別に定めがある場合は、出席した構成員の3分の2以上の同意を要するものとする。

(人事委員会)

第9条 教授会議に、第3条第2号に規定する事項を審議するため、機構長、副機構長、本機構の専任の教授（特定有期雇用職員を除く。）及び各センター長をもって構成する人事委員会を置く。

2 人事委員会は、構成員（休職者及び外国出張中の者等を除く。）の過半数の出席がなければ、会議を開き、議決することができない。

3 教授会議は、人事委員会の議決をもって、教授会議の議決とすることができる。

(専門委員会)

第10条 教授会議に、第3条に規定する事項に関する専門的事項を調査審議（前条に掲げる部分を除く。）させるため、専門委員会を設置することができる。

2 専門委員会の委員は、機構長が委嘱する。

(構成員以外の者の出席)

第11条 機構長は、必要があると認めるときは、教授会議の同意を得て、構成員以外の者を教授会議に出席させ

ることができる。

(議事録)

第12条 機構長は、教授会議の議事録を作成し、次回以後の教授会議に提出してその承認を得なければならない。

(雑則)

第13条 この内規に定めるもののほか、教授会議の組織及び運営に関し必要な事項は、教授会議の議に基づき、機構長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

(4) 東北大学高度教養教育・学生支援機構運営会議内規

平成26年4月1日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学高度教養教育・学生支援機構規程（平成26年規第26号）第11条第2項の規定に基づき、東北大学高度教養教育・学生支援機構運営会議（以下「運営会議」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(組織)

第2条 運営会議は、委員長、副委員長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 教育研究評議会評議員
- 二 各部門長
- 三 教養教育院長
- 四 業務センターの各センター長
- 五 その他委員長が必要と認めた者若干人

(委員長及び副委員長)

第3条 委員長は機構長をもって、副委員長は1人とし、機構長が指名する副機構長をもって充てる。

2 委員長は、会務を掌理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

(開催)

第4条 運営会議は、必要に応じて開催するものとする。

(委嘱)

第5条 第2条第5号に掲げる委員は、機構長が委嘱する。

(任期)

第6条 第2条第5号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。

2 前項の委員は、再任されることができる。

(雑則)

第7条 この内規に定めるもののほか、運営会議の組織及び運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

(5) 東北大学高度教養教育・学生支援機構高度教養教育諮問会議内規

平成26年4月1日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学高度教養教育・学生支援機構規程（平成26年規第26号）第12条第2項の規定

に基づき、東北大学高度教養教育・学生支援機構高度教養教育諮問会議（以下「高度教養教育諮問会議」という。）の組織及び運営について定める。

（組織）

第2条 高度教養教育諮問会議は、委員二十人以内をもって組織する。

（委員の範囲）

第3条 委員は、本学の学部学生、大学院学生及び外国人学生（以下「学生」という。）並びに本学の学生の保護者、企業の関係者、地域の関係者、高等学校の関係者等のうちから、機構長が選考する。

（議長及び副議長）

第4条 高度教養教育諮問会議に、議長及び副議長1人を置き、それぞれ委員の互選によって定める。

2 議長は、高度教養教育諮問会議の会務を総理する。

3 副議長は、議長の職務を補佐する。

（開催）

第5条 高度教養教育諮問会議は、原則として年1回開催する。

（委嘱）

第6条 委員は、機構長が委嘱する。

（任期）

第7条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（雑則）

第8条 この内規に定めるもののほか、高度教養教育諮問会議の組織及び運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

（6）高度教養教育・学生支援機構専門研究員内規

平成26年4月24日

制 定

（趣旨）

第1条 この内規は、高度教養教育・学生支援機構（以下「機構」という。）の学術の発展に寄与するため、東北大学及び機構の諸規則に定める身分を有しない者が、機構において一定期間研究活動に従事できるよう、必要な事項を定めるものとする。

（資格及び呼称）

第2条 研究活動ができる者は、博士の学位を有する者又は博士と同等以上の学識を有すると認められる者で、機構の専任教員（以下「受入れ教員」という。）から受入れの承諾を得た者とし、「専門研究員」の呼称を付与する。

（受入れ等）

第3条 専門研究員の受入れは、受入れを希望する者の申請に基づき、機構長補佐会議で審査し、機構教授会議の議を経て、機構長が決定する。

2 専門研究員の受入れ期間中の諸事項については、受入れ教員が全面的に責任をもつものとする。

（受入期間）

第4条 専門研究員の受入れ期間は1年以内とし、年度を超えないものとする。

なお、必要な場合は更新を認めることとし、更新は2回を限度とする。

（遵守遂行）

第5条 専門研究員は、東北大学及び機構の諸規則を遵守しなければならない。

（待遇）

第6条 専門研究員は機構の管理運営には関与できない。

- 2 専門研究員には、給与を支給しない。
- 3 専門研究員の健康診断、災害補償等については各自の責任で対応する。
- 4 専門研究員は受入れ教員の責任のもと、施設・設備等を利用することができる。
- 5 専門研究員の機構内の居所については、受入れ教員の責任において手当とする。

(雑則)

第7条 専門研究員に研究活動上必要な事項が生じた場合は、受入れ教員の申し出に基づき、機構長補佐会議の議を経て、機構長が決定する。

附 則

この内規は、平成26年4月24日から施行し、平成26年4月1日から適用する。

附 則 (平成27年3月19日改正)

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

(7)高度教養教育・学生支援機構共同研究員内規

平成26年4月24日
制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、高度教養教育・学生支援機構（以下「機構」という。）において共同研究に参画する国内外の研究者が一定期間研究活動に従事できるよう、必要な事項を定めるものとする。

(資格及び呼称)

第2条 研究活動ができる者は、共同研究に参加する国内外の大学、高等専門学校、公的研究機関及び民間企業、団体等に所属する研究者とし、「高度教養教育・学生支援機構共同研究員」（以下、「機構共同研究員」という。）の呼称を付与する。

(受入れ等)

第3条 機構共同研究員の受入れは、受入れを希望する者の申請に基づき、機構長補佐会議で審査し、機構長が決定する。

- 2 機構共同研究員の受入れ期間中の諸事項については、受入れ教員が全面的に責任をもつものとする。

(受入期間)

第4条 機構共同研究員の受入れ期間は1年以内とし、年度を超えないものとする。

なお、必要な場合は更新を認めることとする。

(遵守遂行)

第5条 機構共同研究員は、東北大学及び機構の諸規則を遵守しなければならない。

(待遇)

第6条 機構共同研究員は機構の管理運営には関与できない。

- 2 機構共同研究員には、給与を支給しない。
- 3 機構共同研究員の健康診断、災害補償等については各自の責任で対応する。
- 4 機構共同研究員は受入れ教員の責任のもと、施設・設備等を利用することができる。
- 5 機構共同研究員の機構内の居所については、受入れ教員の責任において手当とする。

(雑則)

第7条 機構共同研究員に研究活動上必要な事項が生じた場合は、受入れ教員の申し出に基づき、機構長補佐会議の議を経て、機構長が決定する。

附 則

この内規は、平成26年4月24日から施行し、平成26年4月1日から適用する。

附 則 (平成27年3月19日改正)

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

東北大学高度教養教育・学生支援機構要覧2015

発 行 2016年9月

発行所 東北大学高度教養教育・学生支援機構

Institute for Excellence in Higher Education,
Tohoku University

〒980-8576 仙台市青葉区川内41

TEL (022) 795-3819

e-mail: gaku-kikaku@grp.tohoku.ac.jp



Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University